

平成30年(2018年)
全国災害時気象概況

平成31年3月

気象庁

—— 目 次 ——

1 平成30年(2018年)の気象災害.....	1
1-1 気象の特徴	1
1-2 主な気象災害	2
資料1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料	21
資料1-2-2 平成30年(2018年)に発生した主な竜巻等の突風.....	27
資料1-2-3 平成30年(2018年)激甚災害指定状況一覧表.....	28
2 平成30年(2018年) 台風の概要	30
2-1 平成30年(2018年)に発生した台風	30
資料2-1-1 台風発生数一覧表	31
資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表.....	32
資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表.....	33
資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表.....	34
資料2-1-5 平成30年(2018年)に発生した台風の一覧表.....	35
2-2 平成30年(2018年)に日本に影響した主な台風	36
資料2-2-1 平成30年(2018年)に日本に影響した台風の概要表 ...	39
資料2-2-2 平成29年(2017年)に発生した台風の経路図.....	40
3 平成30年(2018年)の天気概況.....	45

本資料は、人的被害や社会活動に大きな影響のあった主な気象災害の概況や台風などについて、気象庁予報部において取りまとめたものである。

1 平成 30 年(2018 年)の気象災害

1-1 気象の特徴

○ 冬は全国的に低温となり、北陸地方中心に大雪

冬は、日本付近にはしばしば強い寒気が南下し、冬の平均気温は全国的に低く、特に西日本では平年差 -1.2°C と過去 32 年間で最も低くなった。日本海側では北陸地方を中心に大雪になり、交通障害が発生した。

○ 春から夏にかけては東・西日本中心に記録的な高温

春から夏にかけては、東・西日本中心に記録的な高温となった。特に夏は多くの地方で梅雨明けがかなり早く、厳しい暑さが続いた。熊谷では 7 月 23 日に 41.1°C の国内歴代 1 位の高温を記録した。東日本では、春の平均気温(平年差 $+2.0^{\circ}\text{C}$)、夏の平均気温(平年差 $+1.7^{\circ}\text{C}$)ともに 1946 年の統計開始以来最も高く、年平均気温(平年差 $+1.1^{\circ}\text{C}$)も 1946 年の統計開始以来最も高くなった。

○ 「平成 30 年 7 月豪雨」の発生により西日本中心に記録的な大雨

7 月上旬は、本州付近に梅雨前線が停滞し、南から大量の湿った空気が流れ込んだため、西日本中心に数日にわたり記録的な大雨となり、土砂災害や河川の氾濫など甚大な被害が発生した。

○ 台風第 21 号、第 24 号の接近・通過に伴い各地で暴風、高潮

9 月上旬に台風第 21 号が非常に強い勢力で徳島県南部に上陸したのち近畿地方を北上した。また、台風第 24 号が 9 月下旬に沖縄地方に接近した後、西日本から北日本を縦断した。これらの台風の接近・通過に伴い、広い範囲で暴風や高潮となった。

1-2 主な気象災害

ここでは、平成 30 年(2018 年)に発生し、人的被害や社会活動に大きな影響があった主な気象災害の概況について、おおむね発生日順に災害番号(括弧内番号)を付けて記述する。また、災害番号に続けて、災害期日:地域、()内に災害の種類、< >内に気圧配置等の気象状況を記す。災害の種別(大雨、大雪、暴風、突風、高波等)の一覧表は表 1.1 に示す。

なお、被害の具体的な数値は、以下の情報を参考に記載した。

- ・内閣府、総務省消防庁、国土交通省による被害状況のとりまとめ資料
- ・国や都道府県の防災機関等から被害状況入手し、気象庁でとりまとめた資料
- ・気象庁が行った突風の被害状況等調査報告

表 1.1 災害の種類別の番号一覧表

災害名	災害番号
大雨(豪雨を含む)	(4)、(6)、(7)、(8)*、(9)、(10)*、(11)*、(12)
大雪	(1)*、(2)*
暴風(暴風雪を含む)	(1)*、(3)、(6)、(7)、(8)*、(9)、(10)*、(11)*、(12)
突風(竜巻を含む)	(3)、(5)、(8)*、(10)*、(11)*
高波	(1)*、(3)、(7)、(8)*、(9)、(10)*、(11)*、(12)
その他	(4)、(10)*

*を付した災害については、資料 1-2-1「主な気象災害に対応する気象資料」に天気図等を掲載している。

(1)*1月22日～1月27日：西日本から北日本(関東など少雪地を含む)(大雪、暴風雪、高波)＜低気圧、冬型＞

1月21日に華中で発生した低気圧が、22日にかけて発達しながら本州の南岸を東北東に進み、23日朝には日本の東の海上に達した。この低気圧の影響で、22日から23日明け方にかけて、普段雪の少ない関東甲信地方や東北太平洋側の平野部でも雪となるなど、広い範囲で大雪となった。その後、この低気圧と、22日に日本海中部で発生した低気圧が共に発達しながら北東に進み、日本付近は27日にかけて強い冬型の気圧配置となり、上空には強い寒気が流れ込んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に暴風雪となった。

この大雪によって、24日にかけて除雪作業中の事故により死者5名の人的被害が発生したほか、西日本から北日本にかけての広い範囲で交通障害や停電、断水等の被害が発生した(平成30年1月26日の内閣府とりまとめ)。

[1月22日に関東甲信地方及び東北地方の太平洋側で日降雪量15cm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

1月22日	栃木県那須町那須高原(ナスコウケン)	31 cm	群馬県草津町草津(クサツ)	29 cm
	福島県白河市白河(シラカワ)	24 cm	東京都千代田区東京(トウキョウ)	23 cm
	長野県木曾町開田高原(カイダコウケン)	23 cm	山梨県富士河口湖町河口湖(カワグチコ)	22 cm
	茨城県水戸市水戸(ミト)	19 cm	埼玉県熊谷市熊谷(クマガヤ)	19 cm
	神奈川県中区横浜(ヨコハマ)	18 cm	宮城県白石市白石(シロイシ)	18 cm

[期間内に日降雪量30cm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

1月23日	北海道伊達市大滝(オオタキ)	34 cm	山形県西川町大井沢(オオイサワ)	34 cm
	岐阜県白川村白川(シラカワ)	32 cm	新潟県津南町津南(ツナン)	32 cm
1月24日	新潟県魚沼市守門(スモン)	72 cm	福島県只見町只見(タダミ)	69 cm
	山形県大蔵村肘折(ヒジオリ)	55 cm	秋田県横手市横手(ヨコテ)	51 cm
	福井県大野市九頭竜(クスリユウ)	51 cm	岐阜県郡上市長滝(ナガタキ)	46 cm
	富山県富山市猪谷(イノタニ)	46 cm	岩手県西和賀町湯田(ユダ)	44 cm
	広島県庄原市高野(タカノ)	39 cm	島根県邑南町瑞穂(ミズホ)	37 cm
	兵庫県香美町香住(カズミ)	36 cm	群馬県みなかみ町藤原(フジワラ)	36 cm
	長野県飯山市飯山(イイヤマ)	34 cm	京都府京丹後市峰山(ミネヤマ)	33 cm
	鳥取県大山町大山(ダイセン)	31 cm		
1月25日	福島県南会津町南郷(ナンゴウ)	41 cm	青森県青森市酸ヶ湯(スカユ)	34 cm
	滋賀県米原市米原(マイハラ)	33 cm	岩手県一関市祭時(マツルベ)	32 cm
	鳥取県大山町大山(ダイセン)	32 cm	京都府舞鶴市舞鶴(マイヅル)	31 cm
1月26日	富山県富山市猪谷(イノタニ)	44 cm	北海道夕張市夕張(ユウバリ)	43 cm
	福島県只見町只見(タダミ)	42 cm	新潟県湯沢町湯沢(ユサワ)	39 cm
	青森県青森市酸ヶ湯(スカユ)	38 cm	北海道安平町安平(アヒラ)	35 cm
	山形県尾花沢市尾花沢(オハナサワ)	35 cm	岐阜県白川村白川(シラカワ)	32 cm
	島根県飯南町赤名(アカナ)	32 cm	鳥取県大山町大山(ダイセン)	30 cm
1月27日	山形県小国町小国(オグニ)	32 cm	福島県只見町只見(タダミ)	30 cm

[期間内に日最大風速20 m/s以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

1月22日	千葉県銚子市銚子(チヨウシ)	20.9 m/s	北	[23:24]
1月23日	山形県酒田市飛鳥(トビシマ)	28.2 m/s	西	[12:32]
	新潟県佐渡市両津(リョウツ)	24.3 m/s	西南西	[12:28]
	北海道奥尻町奥尻(オクシリ)	23.6 m/s	西北西	[15:42]

	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	20.0	m/s	西北西	[13:29]
1月24日	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	23.8	m/s	西	[07:41]
	山形県酒田市飛島(トビシマ)	23.5	m/s	西	[16:01]
	新潟県佐渡市相川(アイカワ)	21.0	m/s	北西	[17:08]
1月25日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	22.3	m/s	西北西	[02:57]
	秋田県八峰町八森(ハチモリ)	21.8	m/s	北西	[06:38]
	北海道稚内市宗谷岬(ソウヤミサキ)	21.4	m/s	北北西	[11:45]
1月26日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	20.3	m/s	西	[01:24]

(2)*2月3日～2月8日:西日本から北日本の日本海側(大雪)<冬型>

日本付近は、2月3日から8日にかけて強い冬型の気圧配置が続き、上空には非常に強い寒気が流れ込み続けた。この影響で、西日本から北日本の日本海側を中心に断続的に雪が降り、3日から8日にかけての6日間の総降雪量が、石川県加賀市で177センチ、福井県福井市で144センチとなるなど、北陸地方を中心に、山地や山沿いに加え平野部でも大雪となった。特に、福井市では、この期間の最深積雪が147センチ(7日15時)となり、近年では昭和56年(1981年)の豪雪以来の記録的な大雪となった。

この大雪によって、除雪作業中の事故等により死者22名の人的被害が発生したほか、福井県や石川県では最大約1500台の車両の立ち往生が発生した(平成30年2月16日の消防庁とりまとめ、平成30年2月15日の内閣府とりまとめ)。

[期間内に日降雪量30cm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

2月4日	広島県北広島町八幡(ヤワタ)	41	cm	鳥取県大山町大山(ダ'イセン)	41	cm
	岐阜県郡上市長滝(ナガタキ)	35	cm	山形県大蔵村肘折(ヒゾオリ)	34	cm
	福井県大野市九頭竜(クズリュウ)	33	cm	新潟県阿賀町津川(ツガワ)	32	cm
2月5日	北海道中頓別町中頓別(ナカトンベツ)	52	cm	新潟県柏崎市柏崎(カシワザキ)	52	cm
	石川県金沢市金沢(カナザワ)	52	cm	富山県朝日町朝日(アサヒ)	48	cm
	福井県福井市福井(フクイ)	47	cm	広島県庄原市高野(タカノ)	43	cm
	兵庫県香美町香住(カスミ)	36	cm	北海道遠軽町遠軽(エンガル)	34	cm
	山形県鶴岡市櫛引(クシビキ)	34	cm	滋賀県長浜市柳ヶ瀬(ヤナガセ)	30	cm
2月6日	石川県加賀市加賀菅谷(カガスカグタニ)	79	cm	福井県福井市福井(フクイ)	54	cm
	新潟県阿賀町津川(ツガワ)	45	cm	富山県砺波市砺波(トナミ)	45	cm
	広島県北広島町八幡(ヤワタ)	42	cm	青森県平川市碓ヶ関(イカガセキ)	39	cm
2月7日	兵庫県香美町香住(カスミ)	42	cm	福井県大野市大野(オオノ)	41	cm
	新潟県秋葉区新津(ニイツ)	35	cm	山形県小国町小国(オクニ)	30	cm
	京都府京丹後市峰山(ミネヤマ)	30	cm			
2月8日	北海道幌加内町幌加内(ホロカナイ)	39	cm			

[期間内に日最大風速20m/s以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

2月3日	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	23.7	m/s	北東	[23:23]
	山形県酒田市飛島(トビシマ)	22.8	m/s	西南西	[18:32]
2月4日	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	23.4	m/s	北東	[00:13]
2月6日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	22.4	m/s	西南西	[13:31]

(3)3月1日:西日本から北日本(暴風、高波、突風)<低気圧、大気不安定>

3月1日は、前線を伴った低気圧が発達しながら北日本を北東に進んだ。この影響で、全国的に雨や雪となり、

東北地方では猛烈な風を観測したところがあったほか、四国地方から北海道にかけて非常に強い風を観測したところがあった。低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、東海地方や関東地方では大気の状態が不安定となり、雷を伴ったところがあったほか、茨城県行方市では日本版改良藤田スケールで JEF1 の強さの竜巻と見られる突風が発生した。

この暴風、突風の影響で、西日本から北日本にかけての広い範囲で、死者 1 名、負傷者約 50 名の人的被害が生じたほか、多数の住家被害や交通障害、停電等が発生した(気象庁調べ)。

[期間内に日降雪量 30cm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

3 月 1 日 北海道中札内村上札内(カサツナイ) 62 cm

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

3 月 1 日 静岡県伊豆市天城山(アマギサン) 111.0 mm

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

3 月 1 日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	30.2	m/s	西南西	[14:22]
	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	29.7	m/s	西北西	[06:02]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	27.2	m/s	南南東	[01:27]
	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	26.3	m/s	北北東	[17:37]
	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	25.6	m/s	西	[14:09]
	島根県隠岐の島町西郷岬(サイゴウミサキ)	25.3	m/s	西北西	[06:36]
	新潟県佐渡市両津(リョウツ)	23.6	m/s	西南西	[13:09]
	秋田県八峰町八森(ハチモリ)	23.2	m/s	西北西	[23:56]
	京都府京丹後市間人(タイザ)	22.2	m/s	西	[08:39]
	鳥取県鳥取市湖山(コヤマ)	21.7	m/s	西	[07:09]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	21.5	m/s	西	[08:24]
	大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	21.5	m/s	南	[02:02]
	栃木県日光市奥日光(オクニッコウ)	21.2	m/s	西	[23:47]
	香川県高松市香南(コナン)	20.4	m/s	西南西	[14:17]
	青森県八戸市八戸(ハチノヘ)	20.3	m/s	西南西	[22:30]
	宮城県名取市名取(ナトリ)	20.2	m/s	西南西	[15:10]
	静岡県熱海市網代(アジロ)	20.2	m/s	西南西	[21:47]
	兵庫県中央区神戸空港(コウベクウコウ)	20.0	m/s	西	[05:27]

(4)3 月 8 日～3 月 9 日:東日本から北日本(大雨、融雪)＜低気圧、前線＞

3 月 8 日から 9 日は、前線を伴った低気圧が西日本から北日本を北東に進んだ影響で全国的に雨となり、西日本から北日本の太平洋側では各地で日降水量 100 ミリを超える大雨となった。

この影響で、東日本から北日本で大雨や融雪による土砂災害や浸水害が発生し、死者 1 名の人的被害のほか、交通障害や停電、家屋の浸水が発生した(気象庁調べ)。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

3 月 8 日	三重県紀北町紀伊長島(キイナガシマ)	193.5	mm	高知県四万十市中村(ナカムラ)	191.0	mm
	静岡県葵区井川(イカワ)	139.0	mm	山梨県南部町南部(ナンブ)	132.0	mm
	和歌山県新宮市新宮(シンクウ)	126.5	mm	大分県佐伯市佐伯(サイイ)	126.0	mm
3 月 9 日	神奈川県海老名市海老名(エビナ)	164.5	mm	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	148.0	mm
	北海道釧路市中徹別(ナカテシベツ)	146.0	mm	東京都練馬区練馬(ネリマ)	112.5	mm
	岩手県釜石市釜石(カマイシ)	109.5	mm	宮城県気仙沼市気仙沼(ケセンヌマ)	104.0	mm

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

3月9日 東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ) 20.4 m/s 南 [02:31]

(5)4月8日:北陸地方(突風)＜大気不安定＞

4月8日は、気圧の谷や寒気の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪となった。北陸地方では大気の状態が不安定となり、雷を伴ったところがあったほか、新潟県新潟市では日本版改良藤田スケールで JEF1 の強さの竜巻と見られる突風が発生し、負傷者 2 名の人的被害、住家一部損壊 5 棟、非住家一部損壊 2 棟が発生した。(平成 30 年 4 月 18 日の新潟地方気象台・東京管区気象台による現地災害調査報告)

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点なし]

(6)4月24日～25日:西日本から東日本(大雨、暴風)＜低気圧、前線＞

4月24日から25日は、前線を伴った低気圧が東シナ海から三陸沖まで進んだ影響で全国的に雨となり、四国地方の多いところで日降水量が 200 ミリを超えるなど、西日本から東日本の各地で日降水量 100 ミリを超える大雨となった。また、最大風速が北海道えりも町で 25.5メートル、和歌山県和歌山市で 20.6メートルとなるなど、西日本から北日本の中では非常に強い風を観測したところがあった。

この影響で、西日本から東日本では、暴風による負傷者 1 名の人的被害のほか、土砂災害による通行止め等の交通障害が発生した(気象庁調べ)。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

4月24日	高知県香美市繁藤(シゲトウ)	264.0 mm	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	162.0 mm
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	158.5 mm	鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン)	152.5 mm
	山口県岩国市羅漢山(ラカンザン)	137.5 mm	熊本県五木村五木(イツキ)	137.5 mm
	岐阜県郡上市ひるがの(ヒルガノ)	125.5 mm	広島県廿日市市廿日市津田(ハツカイチツタ)	124.5 mm
	愛媛県西予市宇和(ウリ)	118.5 mm	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	115.0 mm
	兵庫県宍粟市一宮(イチミヤ)	108.0 mm		
4月25日	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	217.0 mm	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	155.5 mm
	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	123.5 mm	岐阜県下呂市金山(カナヤマ)	115.5 mm
	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	108.5 mm		

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

4月25日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	25.5 m/s	北東	[18:23]
	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	21.6 m/s	南南西	[12:25]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	20.6 m/s	南南東	[01:58]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	20.2 m/s	南西	[02:38]

(7)5月17日～19日:東日本から北日本(大雨、暴風、高波)＜低気圧、前線＞

5月17日から19日は、前線が北日本から本州の南まで南下した影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、18日頃に前線上の低気圧が北日本付近に停滞したため、東北地方では多いところで日降水量 200 ミリを超える大雨となった。また、北海道では非常に強い風を観測したところがあった。この影響で、東日本から北日本では、高波による漁船の転覆や河川の増水による行方不明者 2 名、強風による負傷者 8 名のほか、土砂災害や浸水害による住家被害や交通障害等が発生した(気象庁調べ)。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

5月18日	秋田県北秋田市阿仁合(アニアイ)	200.0 mm	岩手県雫石町葛根田(カクコンダ)	153.5 mm
	山形県真室川町差首鍋(サスナベ)	149.5 mm	青森県外ヶ浜町蟹田(カニタ)	133.0 mm

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

5月18日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	22.3	m/s	北東	[20:41]
5月19日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	24.5	m/s	北北東	[10:39]

(8)*5月20日～7月10日:全国(大雨、暴風、高波、突風)＜梅雨前線、台風第5号、第6号、第7号、第8号＞※平成30年7月豪雨を含む梅雨期一連の大雨等

平成30年の梅雨入りは沖縄地方と奄美地方で平年よりかなり遅く、九州南部で遅かった。奄美地方の梅雨入りは5月27日ごろで、1951年の統計開始以降最も遅かった。その他の地方は平年並みか早かった。梅雨明けは平年より早い地方が多く、中国地方から東北南部にかけてはかなり早かった。関東甲信地方の梅雨明けは6月29日ごろで、1951年の統計開始以降最も早かった。

平成30年5月20日から7月10日にかけて、梅雨前線が沖縄・奄美から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。この間、6月10日から11日にかけて台風第5号が、6月15日から17日にかけて台風第6号が、7月1日から4日にかけて台風第7号が、7月10日から11日にかけて台風第8号が日本に接近した。これらの台風や前線等の影響により、各地で大雨、暴風となった。

期間中において特に、6月28日から7月8日にかけて、日本付近に停滞した梅雨前線や台風第7号の影響で暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込み、総降水量が多いところで1800ミリを超えるなど、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となった(平成30年7月豪雨)。この大雨による河川の氾濫、土砂災害等で、死者は237名、行方不明者は8名に及び、平成に入って最悪の人的被害となったほか、家屋の全半壊は約18,000棟、浸水家屋は約30,000棟に達した(平成31年1月9日の内閣府とりまとめ)。

5月20日から5月22日まで

5月20日は、梅雨前線は奄美地方付近に停滞した。その後、南西諸島付近に低気圧が発生し、21日から22日にかけて東へ進んだ。これらの影響で、沖縄・奄美や九州南部を中心に雨となり、九州南部の多いところで日降水量100ミリの大雨となった。

[期間内に日降水量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

5月22日	宮崎県日向市日向(ヒュウガ)	100.0	mm
-------	----------------	-------	----

5月23日から5月25日まで

5月23日は、東シナ海から四国の南にのびる梅雨前線が停滞した。その後、24日から25日にかけて、東日本や北日本を上空の寒気や気圧の谷が通過した。これらの影響で、全国的に雨となった。

[期間内に日降水量100mm以上となった観測点なし]

5月26日から5月28日まで

5月26日から28日にかけて、梅雨前線が南西諸島付近に停滞した。この間、九州南部付近を2つの低気圧が通過した。これらの影響で、沖縄・奄美や九州南部を中心に雨となり、九州南部の多いところで日降水量100ミリを超える大雨となった。

[期間内に日降水量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

5月26日	鹿児島県屋久島町尾之間(オアイダ)	177.0	mm
-------	-------------------	-------	----

5月29日から6月1日まで

5月29日から30日にかけて、南西諸島から日本の南にあった梅雨前線が本州南岸付近まで北上した。その後、31日から6月1日にかけて、前線は再び日本の南へ南下し、前線上にあった低気圧が発達しながら、日本

の東を北東に進んだ。これらの影響で全国的に雨となった。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点なし]

6月2日から6月4日まで

6月2日から4日にかけて、梅雨前線が日本の南に停滞した影響で、南西諸島や小笠原諸島では雨となった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点なし]

6月5日から6月9日まで

6月5日から9日にかけて、梅雨前線は本州南岸付近に停滞した。また、5日から6日にかけては前線上を低気圧が東進し、8日から9日にかけては北日本付近を低気圧が通過した。これらの影響で全国的に雨となり、奄美地方や西日本の太平洋側の多いところで日降水量 100 ミリを超える大雨となった。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

6月7日	鹿児島県奄美市名瀬(ナゼ)	177.0	mm			
6月8日	高知県土佐清水市清水(シミス)	104.5	mm	宮崎県都農町都農(ツノ)	102.5	mm

6月10日から6月13日まで

6月10日から11日にかけて、台風第5号が日本の南を北東進し、12日3時に日本の東で温帯低気圧に変わった。また、12日から13日は、二つの低気圧が北日本を通過した。これらの影響で全国的に雨となり、九州南部や伊豆諸島の多いところで日降水量 100 ミリを超える大雨となった。風については、沖縄県北大東村で 22.8 メートルの最大風速を観測し、北海道えりも町で 23.5 メートルの最大風速を観測するなど、沖縄地方や北海道地方で非常に強い風を観測した。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

6月10日	東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ)	196.0	mm	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	114.5	mm
6月11日	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	151.5	mm			

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

6月10日	沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ)	22.8	m/s	東南東	[09:08]
6月12日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	23.5	m/s	北北東	[14:32]

6月14日から6月18日まで

6月14日から18日にかけて梅雨前線は日本の南付近に停滞した。この間、14日から16日にかけて前線上の低気圧が日本の南海上を通過し、15日から18日にかけては、台風第6号及び台風から変わった低気圧が沖縄付近から日本の南海上を通過した。これらの影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、沖縄・奄美や伊豆諸島で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。風については、沖縄県伊是名村で 22.8 メートルの最大風速を観測するなど、沖縄・奄美や伊豆諸島で非常に強い風を観測したところがあった。このほか、6月16日に沖縄県国頭郡伊江村で日本版改良藤田スケールで JEF3 の強さの竜巻と見られる突風が発生した。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

6月14日	沖縄県渡嘉敷村渡嘉敷(トガシキ)	130.0	mm	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ)	103.0	mm
6月15日	沖縄県国頭村奥(オク)	216.5	mm	鹿児島県天城町天城(アマキ)	186.5	mm
6月16日	沖縄県伊是名村伊是名(イセナ)	312.0	mm	鹿児島県与論町与論島(ヨロンジマ)	285.5	mm
6月18日	東京都青ヶ島村青ヶ島(アオガシマ)	149.0	mm			

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

6月15日	東京都八丈町八重見ヶ原(ヤエミガハラ)	20.1	m/s	東北東	[14:18]
6月16日	沖縄県伊是名村伊是名(イヅナ)	22.8	m/s	東北東	[11:24]
	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ)	22.4	m/s	東南東	[13:10]

6月19日から6月22日まで

6月19日から22日にかけて、梅雨前線が本州南岸付近に停滞し、その間、前線上を低気圧が東に進んだ。この影響で、奄美地方の多いところで日降水量 300 ミリを超える大雨となったほか、西日本から東日本の太平洋側を中心に、各地で日降水量 100 ミリを超える大雨となった。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

6月19日	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	208.5	mm	熊本県阿蘇市阿蘇乙姫(アソオトヒメ)	187.0	mm
	鹿児島県鹿屋市輝北(キホク)	166.0	mm	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンセンダケ)	119.0	mm
6月20日	和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	317.5	mm	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	278.5	mm
	鹿児島県伊佐市大口(オオクチ)	270.0	mm	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	269.5	mm
	奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	249.5	mm	高知県馬路村魚梁瀬(イサセ)	239.5	mm
	三重県御浜町御浜(ミハマ)	219.5	mm	静岡県菊川市菊川牧之原(キクガワマキノハラ)	191.5	mm
	徳島県阿南市蒲生田(カモタ)	166.5	mm	愛媛県宇和島市宇和島(ウワジマ)	130.0	mm
	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	110.0	mm	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	104.5	mm
	岐阜県揖斐川町揖斐川(イビガワ)	104.0	mm	愛知県田原市田原(タハラ)	101.0	mm
	大阪府河内長野市河内長野(カワチナガノ)	101.0	mm			
6月21日	鹿児島県十島村平島(タイラジマ)	319.0	mm			
6月22日	鹿児島県十島村平島(タイラジマ)	233.5	mm			

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

6月20日	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	26.2	m/s	西南西	[10:42]
-------	-------------------	------	-----	-----	---------

6月23日から6月25日まで

6月23日から24日は、梅雨前線は本州南岸付近に停滞し、前線上を低気圧が東に進んだ。この影響で、南西諸島及び西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、九州南部を中心に多いところで日降水量 100 ミリを超える大雨となった。25日は、湿った空気の影響で南西諸島で雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

6月23日	鹿児島県錦江町田代(タシロ)	152.5	mm	宮崎県宮崎市宮崎(ミヤザキ)	123.0	mm
	和歌山県串本町潮岬(シオバサキ)	104.0	mm	熊本県人吉市人吉(ヒトヨシ)	104.0	mm
6月24日	鹿児島県十島村宝島(タカラジマ)	161.0	mm			

6月26日から6月27日まで

6月26日から27日にかけて、低気圧が渤海から日本海を通って千島近海へ進み、低気圧からのびる梅雨前線は日本海南部へと南下した。この影響で全国的に雨となり、北海道地方や東北地方を中心に多いところで日降水量 100 ミリを超える大雨となった。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

6月26日	鹿児島県曾於市大隅(オオスミ)	163.0	mm			
6月27日	秋田県仙北市桧木内(ヒギキナイ)	176.0	mm	岩手県西和賀町沢内(サウウチ)	157.0	mm
	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	148.0	mm	北海道浦河町中杵臼(ナカキネウス)	113.0	mm

山形県鶴岡市荒沢(アラサワ) 103.5 mm

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

6月27日 山形県酒田市飛島(トビシマ) 21.9 m/s 西南西 [12:28]

6月28日から7月8日まで(平成30年7月豪雨)

平成30年6月28日以降、華中から日本海を通過して北日本に停滞していた前線は7月4日にかけて北海道付近に北上した後、7月5日には西日本まで南下してその後停滞した。また、6月29日に日本の南で発生した台風第7号は東シナ海を北上し、対馬海峡付近で進路を北東に変えた後、7月4日15時に日本海で温帯低気圧に変わった。前線や台風第7号の影響により、日本付近に暖かく非常に湿った空気が供給され続け、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となった。

6月28日から7月8日までの総降水量が四国地方で1800ミリ、東海地方で1200ミリを超えるところがあるなど、7月の月降水量平年値の2~4倍となる大雨となったところがあった。また、九州北部、四国、中国、近畿、東海、北海道地方の多くの観測地点で24、48、72時間降水量の値が観測史上第1位となるなど、広い範囲における長時間の記録的な大雨となった。

台風第7号による風については、長崎県長崎市野母崎で29.8メートルの最大風速、北海道えりも町えりも岬で24.5メートルの最大風速を観測するなど、沖縄・奄美及び西日本や北日本で非常に強い風を観測した。このほか、6月29日に滋賀県米原市で日本版改良藤田スケールでJEF2の強さの竜巻と見られる突風が発生した。

[期間内に日降雨量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

6月28日	長崎県壱岐市芦辺(アシベ)	174.0 mm	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	118.0 mm
	福岡県福岡市小呂島(オロシマ)	110.5 mm	岐阜県下呂市萩原(ハギワラ)	109.5 mm
6月29日	高知県本山町本山(モトヤマ)	204.0 mm	岐阜県高山市船山(フナヤマ)	186.5 mm
	長崎県新上五島町有川(アリカ)	185.0 mm	佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	168.5 mm
	兵庫県洲本市洲本(スモト)	131.5 mm	福岡県行橋市行橋(ユクハシ)	127.5 mm
	徳島県三好市池田(イケダ)	112.5 mm	熊本県山鹿市鹿北(カホク)	104.5 mm
	島根県川本町川本(カワモト)	104.0 mm		
6月30日	大分県佐伯市宇目(ウメ)	226.5 mm	長崎県対馬市厳原(イツハラ)	203.0 mm
	宮崎県延岡市北方(キタカタ)	138.0 mm	山口県美祢市秋吉台(アキヨシダイ)	137.5 mm
	高知県仁淀川町池川(イケガワ)	127.0 mm	福岡県北九州市東谷(ヒガシタニ)	110.0 mm
7月1日	高知県仁淀川町池川(イケガワ)	123.5 mm	徳島県那賀町木頭(キトウ)	107.0 mm
	岐阜県本巣市樽見(タルミ)	106.0 mm		
7月2日	沖縄県国頭村奥(オク)	176.5 mm	鹿児島県奄美市名瀬(ナセ)	170.5 mm
	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	129.5 mm		
7月3日	沖縄県久米島町北原(キタハラ)	329.0 mm	徳島県那賀町木頭(キトウ)	315.5 mm
	高知県仁淀川町池川(イケガワ)	308.5 mm	宮崎県西米良村西米良(ニシメラ)	305.0 mm
	愛媛県西条市成就社(シヨウジュシヤ)	265.5 mm	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	236.0 mm
	福岡県福岡市早良脇山(サワラワキヤマ)	194.5 mm	佐賀県佐賀市北山(ホクザン)	179.5 mm
	大分県佐伯市宇目(ウメ)	176.5 mm	長崎県長崎市長浦岳(ナガウラダケ)	174.5 mm
	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	151.5 mm	北海道旭川市瑞穂(ミズホ)	137.5 mm
	山口県山口市篠生(シノブ)	105.5 mm	奈良県上北山村上北山(カミキタヤマ)	103.5 mm
7月4日	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	258.5 mm	岐阜県本巣市樽見(タルミ)	242.0 mm
	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	196.5 mm	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	190.5 mm
	沖縄県多良間村仲筋(ナカスジ)	150.5 mm	徳島県三好市京上(キョウジョウ)	148.0 mm

	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	143.0 mm	奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	125.5 mm
	愛媛県四国中央市富郷(トミト)	102.5 mm	福井県大野市九頭竜(クスリユウ)	102.0 mm
7月5日	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	469.0 mm	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	317.0 mm
	沖縄県宮古島市城辺(グスクヘ)	315.0 mm	岐阜県関市関市板取(セキシイタリ)	289.0 mm
	京都府京都市京北(ケイホク)	286.0 mm	滋賀県高島市朽木平良(クツキヘラ)	276.0 mm
	大阪府能勢町能勢(ノセ)	265.0 mm	石川県白山市白山河内(ハクサンカワチ)	249.5 mm
	富山県立山町立山芦嶽(タテヤマアシクラ)	230.5 mm	兵庫県西宮市西宮(ニシノミヤ)	230.5 mm
	鳥取県智頭町智頭(チズ)	194.0 mm	山口県下松市下松(クダマツ)	191.0 mm
	福井県福井市美山(ミヤマ)	185.0 mm	徳島県三好市京上(キョウジョウ)	180.0 mm
	佐賀県佐賀市北山(ホクサン)	159.0 mm	岡山県新見市新見(ニイミ)	153.0 mm
	鹿児島県肝付町内之浦(ウチノウラ)	151.0 mm	福岡県行橋市行橋(ユクハシ)	144.5 mm
	広島県廿日市市廿日市津田(ハツカイチツタ)	130.0 mm	愛知県豊根村茶白山(チャウスヤマ)	129.5 mm
	静岡県静岡市井川(イカワ)	119.5 mm	島根県奥出雲町横田(ヨコタ)	119.5 mm
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	119.0 mm	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	118.5 mm
	長崎県佐世保市佐世保(サセボ)	118.5 mm	北海道長万部町長万部(オシヤマンベ)	113.0 mm
	香川県綾川町滝宮(タキミヤ)	112.5 mm	愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ)	103.0 mm
7月6日	高知県本山町本山(モトヤマ)	510.5 mm	佐賀県佐賀市北山(ホクサン)	422.5 mm
	福岡県添田町添田(ソエタ)	391.0 mm	徳島県三好市京上(キョウジョウ)	326.0 mm
	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	322.5 mm	大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	319.0 mm
	熊本県山鹿市鹿北(カホク)	313.5 mm	岐阜県郡上市ひるがの(ヒルガノ)	273.5 mm
	和歌山県和歌山市和歌山(ワカヤマ)	265.0 mm	広島県東広島市志和(シワ)	244.0 mm
	愛媛県今治市今治(イマハリ)	240.0 mm	兵庫県養父市大屋(オオヤ)	217.5 mm
	山口県岩国市岩国(イワクニ)	213.0 mm	静岡県御殿場市御殿場(ゴテンバ)	207.0 mm
	神奈川県山北町丹沢湖(タンザワコ)	198.5 mm	岡山県新見市千屋(チヤ)	198.0 mm
	京都府福知山市坂浦(サカウラ)	194.0 mm	鳥取県智頭町智頭(チズ)	187.0 mm
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	187.0 mm	大阪府能勢町能勢(ノセ)	166.5 mm
	鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン)	161.0 mm	香川県三豊市財田(サイタ)	160.5 mm
	愛知県豊根村茶白山(チャウスヤマ)	153.0 mm	島根県吉賀町吉賀(ヨシカ)	152.0 mm
	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	142.0 mm	滋賀県大津市南小松(ミナミコマツ)	135.0 mm
	奈良県奈良市奈良(ナラ)	133.0 mm		
7月7日	岐阜県郡上市ひるがの(ヒルガノ)	350.0 mm	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	282.5 mm
	高知県香美市繁藤(シゲトウ)	274.5 mm	鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府(ヨシガベツフ)	257.0 mm
	三重県紀北町紀伊長島(キイナガシマ)	236.0 mm	愛媛県西予市宇和(ウワ)	229.0 mm
	京都府綾部市綾部(アヤベ)	220.5 mm	福井県福井市越廼(コシノ)	193.0 mm
	兵庫県篠山市後川(シツカワ)	186.0 mm	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	181.0 mm
	広島県呉市呉(クレ)	178.0 mm	山口県岩国市玖珂(クガ)	171.5 mm
	熊本県芦北町田浦(タノウラ)	170.5 mm	岡山県鏡野町富(トミ)	159.0 mm
	大分県佐伯市蒲江(カマエ)	124.5 mm	香川県多度津町多度津(タツ)	119.0 mm
	鳥取県鳥取市佐治(サジ)	111.0 mm	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	108.5 mm
	富山県富山市猪谷(イノタニ)	105.0 mm	石川県小松市小松(コマツ)	105.0 mm
	和歌山県田辺市栗栖川(クリスガワ)	100.5 mm		
7月8日	高知県宿毛市宿毛(スクモ)	376.5 mm	岐阜県下呂市金山(カナヤマ)	218.0 mm

鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン)	152.0	mm	愛媛県鬼北町近永(チカナガ)	137.0	mm
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	122.5	mm	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	118.5	mm
熊本県水俣市水俣(ミナマタ)	106.5	mm			

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

7月1日	沖縄県座間味村慶良間(ケラマ)	29.7	m/s	東南東	[20:45]
7月2日	沖縄県渡嘉敷村渡嘉敷(トカシキ)	26.9	m/s	南東	[02:16]
	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	21.1	m/s	南南東	[17:58]
7月3日	長崎県長崎市野母崎(ノモザキ)	29.8	m/s	南東	[10:51]
	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	23.9	m/s	南	[16:33]
	佐賀県佐賀市佐賀(サガ)	22.5	m/s	南	[18:19]
7月4日	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	21.8	m/s	南南東	[05:59]
7月5日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	24.5	m/s	北東	[03:04]
	山形県酒田市飛島(トビシマ)	23.9	m/s	西南西	[01:23]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	22.9	m/s	南	[19:06]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	21.2	m/s	西	[17:30]
7月7日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	24.7	m/s	北東	[20:37]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	22.6	m/s	南南西	[12:09]
	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	20.2	m/s	南	[01:55]

7月9日から7月10日まで

7月9日は、梅雨前線が北日本付近まで北上し、西日本から北日本にかけて雨となったところがあった。7月10日は、台風第8号が先島諸島付近を北西に進んだ影響で、沖縄地方では多いところで日降水量100ミリを超える大雨となった。風については、沖縄県宮古島市下地で35.2メートルの最大風速を観測するなど、沖縄地方で猛烈な風を観測した。

[期間内に日降雨量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

7月10日	沖縄県石垣市盛山(モリヤマ)	185.0	mm
-------	----------------	-------	----

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

7月9日	沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ)	20.0	m/s	東	[23:36]
7月10日	沖縄県宮古島市下地(シモン)	35.2	m/s	北北東	[15:13]

(9)7月28日～8月16日:全国(大雨、暴風、高波)＜台風第12号、第13号、第14号、第15号、第18号、前線＞

7月28日から8月16日にかけて、相次ぐ台風や前線の影響で断続的に大気の状態が不安定となり、全国各地で大雨となった。台風第12号は7月29日に西日本に上陸し、台風第13号は8月8日から10日にかけて関東地方から東北地方に接近し、台風第14号は10日から12日にかけて沖縄・奄美に接近し、台風第15号は15日に九州に上陸し、台風第18号は15日に沖縄・奄美に接近した。また、8月5日から6日は、北日本に前線が停滞した影響で、北日本では一部で大雨となった。

これらの台風等の影響で、西日本から北日本の広い範囲で、多数の住家被害や交通障害、停電等が発生した。特に、台風第12号により、東日本の太平洋側を中心に、負傷者33名の人的被害のほか、多数の住家被害や交通障害が発生した(平成31年1月9日の消防庁とりまとめ、平成30年8月1日の国土交通省とりまとめ)。また、8月15日から16日にかけては、台風第15号、第18号、前線等の影響で、東日本や東北地方を中心に、

死者・行方不明者2名、負傷者2名の人的被害のほか、土砂災害や家屋の浸水、交通障害等が発生した(気象庁調べ)。

7月28日から7月31日まで

台風第12号は、7月28日から29日にかけて、伊豆諸島の東から本州南岸を西に進み、29日01時頃に三重県伊勢市付近に上陸し、29日18時前に福岡県豊前市付近に再上陸した。その後、台風は次第に進路を南に変え、29日23時頃に島原半島を通過した後、東シナ海へと進んだ。

台風の影響で、西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、関東地方では多いところで日降水量200ミリを超える大雨となった。風については、東海地方や伊豆諸島で猛烈な風を観測したところがあった。

[期間内に日降水量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

7月28日	埼玉県秩父市三峰(ミツネ)	230.5 mm	栃木県日光市奥日光(オクニッコウ)	186.0 mm
	山梨県上野原市上野原(ウエノハラ)	168.0 mm	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	161.0 mm
	東京都奥多摩町小河内(オコウチ)	159.0 mm	神奈川県緑区相模湖(サガミコ)	145.5 mm
	長野県北相木村北相木(キタアイキ)	111.5 mm		
7月29日	奈良県曾爾村曾爾(ソニ)	190.5 mm	三重県津市笠取山(カサトリヤマ)	172.5 mm
	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	117.0 mm	鹿児島県出水市出水(イズミ)	112.0 mm
	滋賀県甲賀市土山(ツチヤマ)	109.5 mm	和歌山県紀の川市葛城山(カツラギサン)	107.0 mm
7月30日	宮崎県国富町国富(クニトミ)	141.5 mm	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	121.5 mm
	鹿児島県薩摩川内市中甕(ナカウシキ)	110.0 mm		

[期間内に日最大風速20 m/s以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

7月28日	静岡県南伊豆町石廊崎(イロウサキ)	33.0 m/s	東北東	[20:20]
	東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	30.5 m/s	北東	[16:37]
7月29日	愛知県田原市伊良湖(イラコ)	25.5 m/s	東北東	[00:23]
	三重県津市津(ツ)	22.9 m/s	東	[01:46]

8月1日から8月3日まで

8月1日から2日は、台風第12号が南西諸島付近に停滞した影響で、沖縄・奄美や九州地方から四国地方の太平洋側で雨となった。3日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れたが、湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、沖縄地方や関東地方では雨で雷を伴ったところがあった。

[期間内に日降水量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

8月1日	鹿児島県喜界町喜界島(キカイジマ)	127.0 mm		
------	-------------------	----------	--	--

8月4日から8月6日まで

8月4日は、中国東北区から北日本にのびる前線の影響で、東北北部から渡島半島で雨となった。また、湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、沖縄地方では雨で雷を伴ったところがあった。5日から6日は、前線が北日本から東日本へと南下した影響で、関東地方や東北地方を中心に雨となり、東北地方では多いところで日降水量300ミリを超える大雨となった。

[期間内に日降水量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

8月5日	山形県金山町金山(カネヤマ)	302.5 mm	秋田県湯沢市湯の岱(ユノタイ)	182.0 mm
	宮城県大崎市川渡(カワタビ)	114.5 mm		
8月6日	山形県大蔵村肘折(ヒジオリ)	135.5 mm	栃木県鹿沼市鹿沼(カヌマ)	103.5 mm

8月7日から8月10日まで

8月7日は、関東の東に停滞した前線と、台風第13号からの湿った空気が流入した影響で、近畿地方から東北地方にかけての太平洋側で雨となった。8日から9日は、三陸沖に停滞した前線と、関東の東から三陸沖を北上した台風第13号の影響で、関東地方から東北地方の太平洋側で雨となり、関東地方では多いところで日降水量100ミリを超える大雨となり、非常に強い風を観測したところがあった。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、山陰地方から北陸地方にかけてや北海道で雨となった。10日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、東日本から北日本で雨となり、関東地方では多いところで日降水量100ミリを超える大雨となった。

[期間内に日降水量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

8月8日 埼玉県秩父市浦山(ウラヤマ) 124.5 mm

8月10日 栃木県日光市今市(イマイチ) 120.5 mm

[期間内に日最大風速20 m/s以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

8月9日 千葉県銚子市銚子(チョウシ) 20.0 m/s 西南西 [07:11]

8月11日から8月12日まで

8月11日から12日は、先島諸島付近から東シナ海へ進んだ台風14号や、台風周辺の湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となった。沖縄地方では多いところで日降水量200ミリを超える大雨となった。

[期間内に日降水量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

8月11日 宮崎県日向市日向(ヒュウガ) 116.5 mm

8月12日 沖縄県宮古島市城辺(グスクヘ) 234.0 mm 神奈川県箱根町箱根(ハコネ) 138.0 mm

8月13日から8月14日まで

8月13日から14日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美は雨となり、西日本から東日本にかけては雨や雷雨となったところがあった。また、北日本に停滞した前線の影響で、北海道で雨となった。

[期間内に日降水量100mm以上となった観測点なし]

8月15日から8月16日まで

8月15日から16日は、北日本に停滞する前線上に低気圧が発生し、発達しながら東に進んだ。また、台風第15号が15日2時半頃に宮崎県に上陸し、対馬近海で熱帯低気圧となった。さらに、台風第18号が、東シナ海を北西に進んだ。これらの影響で全国的に雨や雷雨となり、沖縄・奄美及び西日本の太平洋側、北陸地方から北日本の日本海側の各地で日降水量100ミリを超える大雨となったほか、奄美地方や北海道では非常に強い風を観測したところがあった。

[期間内に日降水量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

8月15日 高知県佐川町佐川(サカワ) 245.5 mm 秋田県北秋田市阿仁合(アニアイ) 196.5 mm

徳島県上勝町福原旭(フクハラアサヒ) 188.5 mm 奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ) 171.0 mm

沖縄県南城市糸数(イトカズ) 159.5 mm 三重県御浜町御浜(ミハマ) 147.5 mm

和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ) 139.5 mm 宮崎県都農町都農(ツノ) 131.5 mm

岐阜県本巣市樽見(タルミ) 113.0 mm 岩手県洋野町大野(オオノ) 109.5 mm

沖縄県石垣市伊原間(イバルマ) 104.0 mm 鹿児島県奄美市名瀬(ナセ) 101.5 mm

青森県弘前市岳(ダケ) 100.0 mm

8月16日 長野県王滝村御嶽山(オンタケサン) 197.5 mm 新潟県粟島浦村粟島(アワシマ) 186.5 mm

山形県鶴岡市鼠ヶ関(ネズガセキ) 182.0 mm 沖縄県竹富町大原(オオハラ) 175.5 mm

岐阜県下呂市宮地(ミヤジ)	146.5	mm	富山県黒部市宇奈月(ウナヅキ)	130.0	mm
北海道函館市戸井泊(トイマリ)	124.0	mm	秋田県湯沢市湯の岱(ユノタイ)	120.5	mm
岩手県花巻市豊沢(トヨザワ)	118.0	mm	石川県金沢市金沢(カナザワ)	117.5	mm
高知県佐川町佐川(サカワ)	106.5	mm	沖縄県多良間村仲筋(ナカシ)	102.0	mm

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

8月15日	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ)	20.1	m/s	南	[10:53]
8月16日	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	27.5	m/s	北東	[20:56]

(10)*8月20日～9月5日:西日本から北日本(大雨、暴風、高波、高潮、突風)＜台風第19号、第20号、第21号、前線＞

8月20日から9月5日にかけて、日本の東海上に中心を持つ高気圧の縁を回って暖かく湿った空気が入りやすい気圧配置が続き、前線の活動が活発となった。また、この期間中に、台風第19号、第20号、第21号が日本に接近・上陸した。これらの影響により各地で大雨、暴風となった。

これらの台風等の影響で、西日本から北日本の広い範囲で、多数の住家被害や交通障害、停電等が発生した。特に、台風第19号、第20号の影響で、西日本や東海地方を中心に、負傷者35名の人的被害のほか、多数の住家被害や交通障害が発生した(平成31年2月12日の消防庁とりまとめ、平成30年8月24日の内閣府とりまとめ)。更に、台風第21号の影響で、西日本を中心に死者14名の人的被害が生じたほか、暴風によりタンカーが関西国際空港連絡橋に衝突する事故や、高潮及び高波により関西国際空港の滑走路や兵庫県芦屋市等の住宅地で浸水被害が発生するなど、大阪湾において広範囲に被害をもたらした(平成30年10月2日の内閣府とりまとめ、平成30年12月18日の大阪湾港湾等における高潮対策検討委員会資料)。

8月20日から8月25日まで

台風第19号は、8月21日から22日にかけて非常に強い勢力で奄美大島付近から九州の西海上を北西に進んだ後、23日には黄海で北東に進路を変え朝鮮半島を横断した後、日本海に進み、25日03時に温帯低気圧に変わった。また、台風第20号は、強い勢力を保ったまま23日21時頃に徳島県南部に上陸、23日23時半頃に兵庫県姫路市付近に再上陸し、近畿地方を縦断した。その後日本海を北上し、24日21時に日本海北部で温帯低気圧に変わった。

2つの台風の影響で、8月20日から25日までの期間降水量は高知県馬路村で694.5ミリ、三重県大台町で689.0ミリを観測するなど、四国地方から東海地方を中心に大雨となった。また、同期間での最大風速は、和歌山県和歌山市で41.9メートル、高知県室戸市では39.6メートルを観測するなど、四国地方や近畿地方を中心に猛烈な風を観測したところがあった。このほか、8月25日に栃木県真岡市で日本版改良藤田スケールでJEF0の強さのガストフロントと見られる突風が発生した。

[期間内に日降雨量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

8月21日	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	227.5	mm	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	213.0	mm
	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	193.5	mm	三重県大台町宮川(ミヤガワ)	175.5	mm
	徳島県上勝町福原旭(フクハラアサヒ)	147.0	mm	奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	133.5	mm
8月22日	鹿児島県十島村中之島(ナカノシマ)	250.5	mm	宮崎県美郷町神門(ミカト)	219.0	mm
	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	130.5	mm	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	113.0	mm
8月23日	奈良県上北山村上北山(カキタヤマ)	449.0	mm	和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	406.5	mm
	三重県大台町宮川(ミヤガワ)	382.0	mm	高知県馬路村魚梁瀬(イナセ)	342.5	mm
	徳島県那賀町木頭(キトウ)	235.0	mm	神奈川県山北町丹沢湖(タンザワコ)	162.0	mm
	静岡県川根本町川根本町(カネホンチヨウ)	145.5	mm	山梨県山中湖村山中(ヤマナカ)	139.0	mm

	兵庫県洲本市洲本(スモト)	128.5	mm	愛知県豊田市阿蔵(アゾウ)	119.5	mm
8月24日	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	248.0	mm	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	202.5	mm
	愛知県豊根村茶白山(チャウスヤマ)	175.0	mm	京都府京都市右京区京北(ケイホク)	173.5	mm
	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	156.0	mm	滋賀県高島市朽木平良(クツキヘラ)	151.0	mm
	岐阜県本巣市樽見(タルミ)	150.5	mm	山梨県甲府市古関(フルセキ)	134.0	mm
	福井県小浜市小浜(オハマ)	133.0	mm	大阪府能勢町能勢(ノセ)	130.0	mm
	兵庫県篠山市後川(シツカワ)	108.5	mm	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	108.5	mm
	奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ)	104.5	mm			

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

8月21日	鹿児島県喜界町喜界島(キカイジマ)	30.3	m/s	西北西	[18:04]
8月22日	鹿児島県十島村中之島(ナカノシマ)	25.0	m/s	東南東	[01:42]
8月23日	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	41.9	m/s	南	[23:11]
	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	39.6	m/s	西	[20:42]
	兵庫県神戸市中央区神戸空港(コウベクウコウ)	32.6	m/s	南	[23:44]
	大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	32.1	m/s	南	[23:35]
	徳島県阿南市蒲生田(カモダ)	29.4	m/s	東	[18:54]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	22.9	m/s	南東	[23:39]
8月24日	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	31.9	m/s	南	[00:02]
	大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	30.5	m/s	南南西	[00:31]
	兵庫県神戸市中央区神戸空港(コウベクウコウ)	29.5	m/s	南	[00:01]
	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	23.4	m/s	南西	[00:13]
	福井県坂井市三国(ミクニ)	23.1	m/s	南	[03:33]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	22.2	m/s	南東	[00:56]
	北海道えりも町えりも岬(エリモミサキ)	21.0	m/s	北北東	[20:22]
	京都府宮津市宮津(ミヤツ)	20.1	m/s	南東	[01:02]

8月26日から9月2日まで

8月26日から8月30日にかけて、朝鮮半島から北日本に延びる前線がほとんど停滞した影響で、北陸地方や北日本を中心に雨となった。その後、8月31日から9月2日にかけて、前線が本州南岸へと南下した影響で、西日本から東日本を中心に雨となった。8月26日から9月2日までの期間内の最大日降水量は、石川県輪島市輪島で211.5ミリとなった。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

8月26日	山形県鶴岡市荒沢(アラサワ)	105.0	mm			
8月28日	新潟県上越市川谷(カワダニ)	130.0	mm	石川県珠洲市珠洲(スズ)	106.0	mm
8月30日	新潟県粟島浦村粟島(アワシマ)	142.0	mm	秋田県仙北市田沢湖高原(タザワコウゲン)	125.5	mm
	岩手県雫石町葛根田(カクコンダ)	103.0	mm			
8月31日	石川県輪島市輪島(ワジマ)	211.5	mm	山形県真室川町差首鍋(サスナベ)	165.5	mm
	島根県大田市福光(フクミツ)	162.0	mm	富山県氷見市氷見(ヒミ)	119.0	mm
	宮城県大崎市川渡(カワタビ)	114.0	mm	和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	102.0	mm
9月1日	山口県萩市須佐(スサ)	150.0	mm	長崎県五島市上大津(カオオツ)	134.0	mm
	島根県浜田市弥栄(ヤサカ)	127.5	mm	広島県北広島町八幡(ヤワタ)	108.0	mm
	富山県黒部市宇奈月(ウナヅキ)	102.0	mm			

9月3日から9月5日まで

台風第21号は、4日12時前に非常に強い勢力で徳島県南部に上陸した後、同日14時前、兵庫県神戸市付近に再上陸した。その後、速度を上げながら近畿地方を縦断した後、日本海沿岸を北上して5日09時に沿海州の沿岸で温帯低気圧に変わった。

台風の接近・通過の影響で、9月3日から9月5日までの期間降水量は、愛知県豊根村で378.5ミリ、高知県馬路村では328.5ミリを観測するなど、四国地方から東海地方を中心に大雨となった。風については、大阪府田尻町(関西空港)で最大風速46.5メートル、最大瞬間風速58.1メートルとなるなど四国地方や近畿地方を中心に猛烈な風を観測し、観測史上第1位を記録したところがあった。高潮については、大阪府大阪市で最高潮位329センチメートルなど、過去の最高潮位を超える値を観測したところがあった。

[期間内に日降雨量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

9月4日	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	323.5 mm	奈良県十津川村風屋(カゼヤ)	312.5 mm
	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	304.5 mm	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	296.0 mm
	静岡県静岡市葵区井川(イカワ)	268.5 mm	徳島県上勝町福原旭(フクハラアサヒ)	253.0 mm
	三重県大台町宮川(ミヤガワ)	243.0 mm	長野県阿智村浪合(ナミアイ)	234.0 mm
	岐阜県関ケ原町関ケ原(セキガハラ)	169.5 mm	山梨県山中湖村山中(ヤマナカ)	165.5 mm
	香川県東かがわ市引田(ヒケタ)	154.0 mm	愛媛県四国中央市富郷(トミト)	150.5 mm
	福井県大野市九頭竜(クズリュウ)	149.0 mm	兵庫県淡路市郡家(グンゲ)	139.5 mm
	鳥取県岩美町岩井(イワイ)	108.5 mm	島根県浜田市浜田(ハマダ)	105.0 mm
	石川県加賀市加賀菅谷(カガスカグタニ)	104.5 mm		
9月5日	北海道伊達市大滝(オオタキ)	116.0 mm	静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	107.0 mm

[期間内に日最大風速20 m/s以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

9月4日	高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	48.2 m/s	西	[11:53]
	大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	46.5 m/s	南南西	[13:47]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	42.9 m/s	南	[13:18]
	兵庫県神戸市中央区神戸空港(コウベクウコウ)	34.6 m/s	南南西	[13:59]
	徳島県美波町日和佐(ヒワサ)	34.6 m/s	東南東	[11:12]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	31.5 m/s	南南東	[14:22]
	新潟県佐渡市両津(リョウツ)	28.8 m/s	南西	[20:29]
	石川県金沢市金沢(カナザワ)	28.8 m/s	南西	[18:06]
	福井県敦賀市敦賀(ツルガ)	26.3 m/s	南南東	[15:29]
	滋賀県彦根市彦根(ヒコネ)	24.9 m/s	東南東	[14:24]
	三重県津市津(ツ)	24.5 m/s	南南東	[14:43]
	山形県酒田市飛島(トビシマ)	24.3 m/s	西南西	[23:50]
	富山県朝日町朝日(アサヒ)	23.0 m/s	南南西	[18:34]
	秋田県八峰町八森(ハチモリ)	22.0 m/s	南東	[23:21]
	京都府京都市中京区京都(キョウト)	21.8 m/s	南	[14:38]
	東京都八王子市八王子(ハチオウシ)	21.4 m/s	南南東	[18:46]
	岐阜県岐阜市岐阜(キフ)	21.4 m/s	南東	[15:17]
	宮城県石巻市石巻(イシノマキ)	20.0 m/s	南南東	[21:09]
9月5日	北海道倶知安町倶知安(クッチャン)	25.8 m/s	南東	[02:30]
	秋田県にかほ市にかほ(ニカホ)	21.3 m/s	南南西	[00:01]
	山形県酒田市飛島(トビシマ)	21.0 m/s	西南西	[00:01]

[期間内に最大潮位偏差 150cm 以上に達した観測点]

	最大潮位偏差			最高潮位		
大阪府大阪市大阪(オオサカ)	277	cm	9月4日 14時18分	329	cm	9月4日 14時18分
和歌山県御坊市御坊(ゴボウ)	260	cm	9月4日 12時48分	316	cm	9月4日 12時48分
兵庫県神戸市神戸(コウベ)	181	cm	9月4日 14時09分	233	cm	9月4日 14時09分
愛知県名古屋市長古屋(ナゴヤ)	159	cm	9月4日 14時58分	202	cm	9月4日 14時58分
徳島県由岐町阿波由岐(アワユキ)	152	cm	9月4日 12時08分	203	cm	9月4日 12時08分
高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	150	cm	9月4日 10時50分	194	cm	9月4日 10時50分

(11)*9月28日～10月1日:全国(大雨、暴風、高波、突風)＜台風第24号、前線＞

9月21日にマリアナ諸島近海で発生した台風第24号は、沖縄の南を北西に進み、9月28日から30日明け方にかけて、非常に強い勢力で沖縄地方に接近した後、北東に向きを変え、急速に加速しながら、30日20時頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。その後、東日本から北日本を縦断し、10月1日09時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

台風第24号の接近・通過に伴い、広い範囲で暴風、大雨、高波、高潮となった。雨については、9月28日から10月1日までの総降水量が九州地方及び四国地方や東海地方で400ミリを超えたところや9月の月降水量平年値を超えたところがあった。風については、鹿児島県奄美市で最大風速40.0メートル、最大瞬間風速52.5メートルとなるなど、南西諸島及び西日本・東日本の太平洋側を中心に猛烈な風を観測し、観測史上第1位を記録したところがあった。高潮については、和歌山県串本町で最高潮位254センチメートルなど、過去の最高潮位を超える値を観測したところがあった。このほか、9月28日に沖縄県名護市で日本版改良藤田スケールでJEF1の強さの竜巻と見られる突風が発生した。

この台風によって死者4名の人的被害が生じたほか、南西諸島及び西日本から東北地方の広い範囲で住家被害が生じ、10000棟を超える被害となった。また、海水の塩分を含んだ暴風により塩害が発生し、各地で農地の被害が生じたほか、関東地方では塩害による停電で鉄道の運休が発生した。(平成31年2月12日の消防庁とりまとめ、平成30年10月2日の内閣府とりまとめ)

[期間内に日降雨量100mm以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

9月29日	和歌山県新宮市新宮(シクグウ)	303.0	mm	沖縄県国頭村国頭(ケニガミ)	296.0	mm
	三重県志摩市阿児(アコ)	218.0	mm	鹿児島県天城町天城(アマギ)	199.0	mm
	長崎県対馬市厳原(イツハラ)	158.5	mm	島根県吉賀町吉賀(ヨシカ)	123.0	mm
	山口県岩国市羅漢山(ラカンザン)	120.0	mm	広島県安芸太田町内黒山(ウチグロヤマ)	118.0	mm
	奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	113.5	mm	宮崎県宮崎市田野(タノ)	110.5	mm
9月30日	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	435.5	mm	愛媛県西条市成就社(シヨウジュシヤ)	420.0	mm
	宮崎県美郷町神門(ミカ)	364.5	mm	大分県佐伯市宇目(ウメ)	351.5	mm
	徳島県上勝町福原旭(フクハラアサヒ)	336.5	mm	鳥取県鳥取市鹿野(シカノ)	321.5	mm
	三重県大台町宮川(ミヤガワ)	311.0	mm	鹿児島県錦江町田代(タシロ)	292.5	mm
	静岡県静岡市梅ヶ島(ウメガシマ)	244.5	mm	兵庫県香美町香住(カスミ)	228.0	mm
	奈良県上北山村上北山(カミキタヤマ)	211.0	mm	愛知県豊田市阿蔵(アゾウ)	207.0	mm
	山梨県南部町南部(ナンブ)	205.0	mm	岡山県真庭市上長田(ガナガタ)	199.0	mm
	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	197.5	mm	滋賀県高島市朽木平良(クツキヘラ)	188.5	mm
	岐阜県関ヶ原町関ヶ原(セキガハラ)	188.0	mm	島根県安来市伯太(ハクタ)	181.0	mm
	京都府宮津市宮津(ミヤヅ)	171.5	mm	香川県高松市高松(タカマツ)	171.0	mm
	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	168.5	mm	広島県神石高原町油木(ユキ)	168.0	mm

東京都檜原村小沢(オサワ)	164.0 mm	和歌山県田辺市本宮(ホンクウ)	164.0 mm
千葉県館山市館山(タテヤマ)	160.5 mm	長野県阿智村浪合(ナミアイ)	151.5 mm
栃木県日光市土呂部(トロボ)	150.0 mm	埼玉県秩父市浦山(ウラヤマ)	123.0 mm
福井県小浜市小浜(オハマ)	106.0 mm		

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

9月28日	沖縄県宮古島市下地(シモジ)	26.6 m/s	北	[23:01]
9月29日	鹿児島県与論町与論島(ヨロシマ)	39.8 m/s	西	[23:13]
	沖縄県座間味村慶良間(ケラマ)	38.4 m/s	東南東	[09:05]
9月30日	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	40.0 m/s	南南東	[00:34]
	高知県室戸市室戸岬(ムロトサキ)	39.2 m/s	東南東	[15:52]
	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	32.2 m/s	南南西	[23:53]
	静岡県御前崎市御前崎(オマエサキ)	32.1 m/s	南	[23:03]
	宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	29.7 m/s	北東	[10:52]
	愛知県常滑市セントレア	28.9 m/s	南東	[21:00]
	和歌山県白浜町南紀白浜(ナンキシラハマ)	28.6 m/s	南東	[18:43]
	徳島県阿南市蒲生田(カモダ)	27.7 m/s	東	[18:29]
	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	25.4 m/s	北北東	[12:10]
	千葉県千葉市千葉(チハ)	22.4 m/s	南南東	[24:00]
	三重県津市津(ツ)	22.4 m/s	東南東	[20:04]
	兵庫県神戸市神戸(コウベ)	22.1 m/s	北西	[22:21]
	福井県敦賀市敦賀(ツルガ)	21.8 m/s	北北西	[23:49]
	大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	21.7 m/s	北西	[21:33]
	沖縄県伊是名村伊是名(イゼナ)	21.6 m/s	西	[00:08]
	愛媛県松山市松山南吉田(マツヤマミナミヨシダ)	21.5 m/s	北	[15:57]
	岡山県奈義町奈義(ナギ)	21.2 m/s	北北東	[21:28]
	山口県美祢市秋吉台(アキヨシダイ)	20.8 m/s	北北東	[15:35]
	佐賀県佐賀市佐賀(サガ)	20.6 m/s	北	[14:11]
	鳥取県鳥取市湖山(コヤマ)	20.3 m/s	北東	[16:44]
10月1日	東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	33.3 m/s	南南西	[00:09]
	静岡県南伊豆町石廊崎(イノウサキ)	30.8 m/s	南南西	[00:01]
	千葉県銚子市銚子(チヨウシ)	27.9 m/s	南南西	[02:38]
	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	26.0 m/s	北北東	[08:59]
	神奈川県藤沢市辻堂(ツジドウ)	25.5 m/s	南南西	[01:17]
	宮城県亘理町亘理(ワリ)	23.6 m/s	南東	[03:08]
	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	22.3 m/s	西南西	[00:01]
	山形県酒田市飛島(ヒシマ)	21.7 m/s	西	[23:45]
	福島県いわき市小名浜(オナハマ)	21.6 m/s	南南東	[02:15]
	福井県敦賀市敦賀(ツルガ)	21.5 m/s	北北西	[00:09]
	茨城県笠間市笠間(カサマ)	20.6 m/s	南	[01:39]

[期間内に最大潮位偏差 150cm 以上に達した観測点]

	最大潮位偏差		最高潮位	
和歌山県御坊市御坊(ゴボウ)	218	cm	9月30日 19時34分	296 cm 9月30日 19時34分
静岡県南伊豆町石廊崎(イロウザキ)	180	cm	10月1日 00時36分	157 cm 10月1日 00時36分
高知県土佐清水市土佐清水(トサシズ)	171	cm	9月30日 14時22分	178 cm 9月30日 14時22分
高知県室戸市室戸岬(ムロトシサキ)	164	cm	9月30日 16時35分	198 cm 9月30日 17時55分
和歌山県串本町串本(クシモト)	160	cm	9月30日 20時36分	254 cm 9月30日 20時36分
愛知県田原市赤羽根(アカハネ)	156	cm	9月30日 22時22分	184 cm 9月30日 22時22分

(12)10月3日～10月7日：沖縄・奄美及び西日本、北日本(大雨、暴風、高波)＜台風第25号、前線＞

台風第25号は、10月4日から5日にかけて南西諸島に接近した後、東シナ海を北上した。台風は大型のまま、6日には対馬海峡を経て日本海を北東に進み、6日21時に同海域にて温帯低気圧となり、その後東に進み、8日03時に日本のほるか東海上にて消滅した。

台風第25号や台風から変わった温帯低気圧の接近・通過に伴い、沖縄地方や東北地方で猛烈な風を観測したところがあったほか、西日本から北日本にかけて非常に強い風を観測したところがあった。また、台風からの湿った空気の影響で、西日本の太平洋側では日降水量が300ミリを超える大雨となったところがあった。

この台風によって死者1名、負傷者27名の人的被害が生じたほか、沖縄・奄美及び西日本や北日本では住家の一部損壊が166件発生した(平成31年2月12日の消防庁とりまとめ)。

[期間内に日降雨量 100mm 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

10月4日	宮崎県宮崎市田野(タノ)	272.0 mm	沖縄県本部町本部(モトブ)	166.5 mm
	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラブ)	116.0 mm		
10月5日	高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	326.5 mm	宮崎県西米良村西米良(ニシメラ)	301.0 mm
	徳島県那賀町木頭(キトウ)	215.5 mm	熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	172.5 mm
	大分県佐伯市宇目(ウメ)	157.0 mm	愛媛県西条市成就社(シヨウジユシヤ)	118.5 mm
10月6日	三重県大台町宮川(ミヤガワ)	180.5 mm	徳島県那賀町木頭(キトウ)	130.0 mm
10月7日	北海道登別市カルルス(カルルス)	108.0 mm		

[期間内に日最大風速 20 m/s 以上となった観測点(都道府県ごとの最大値)]

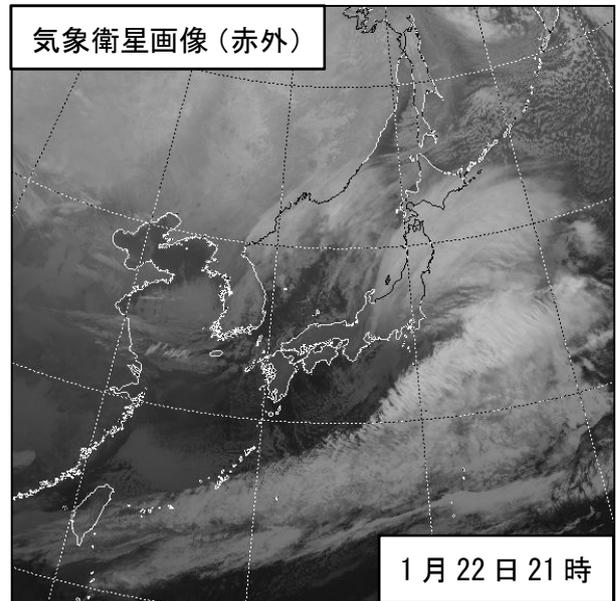
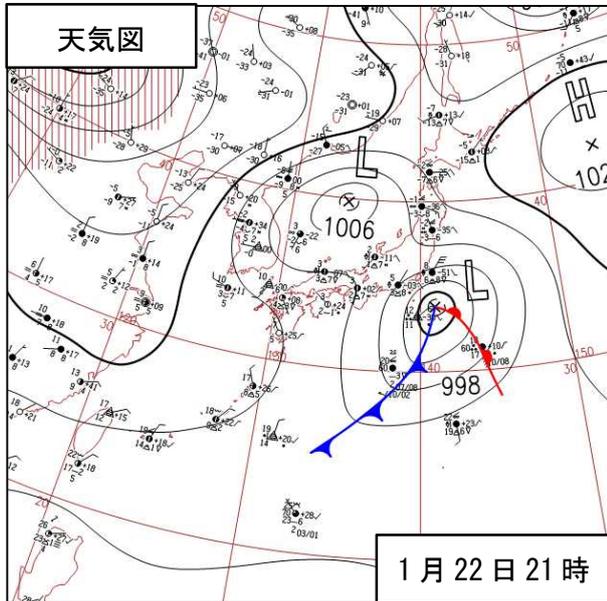
10月4日	沖縄県座間味村慶良間(ケラマ)	30.5 m/s	東南東	[21:14]
	鹿児島県与論町与論島(ヨロシマ)	22.8 m/s	東南東	[23:32]
10月5日	沖縄県久米島町北原(キタハラ)	26.0 m/s	南東	[00:21]
	長崎県長崎市野母崎(ノモザキ)	24.6 m/s	南東	[24:00]
	鹿児島県与論町与論島(ヨロシマ)	21.8 m/s	南東	[00:45]
10月6日	長崎県長崎市野母崎(ノモザキ)	27.0 m/s	南東	[00:29]
	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	23.7 m/s	南南東	[18:30]
	島根県隠岐の島町西郷岬(サイコウサキ)	23.5 m/s	西南西	[20:07]
	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	22.0 m/s	南南東	[07:02]
10月7日	山形県酒田市飛島(トビシマ)	31.4 m/s	西南西	[05:03]
	新潟県佐渡市両津(リョウツ)	25.6 m/s	西南西	[03:47]
	秋田県にかほ市にかほ(ニカホ)	25.5 m/s	南西	[04:47]
	青森県八戸市八戸(ハチノヘ)	24.1 m/s	南西	[09:18]
	北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	20.3 m/s	北北東	[07:28]

資料 1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料

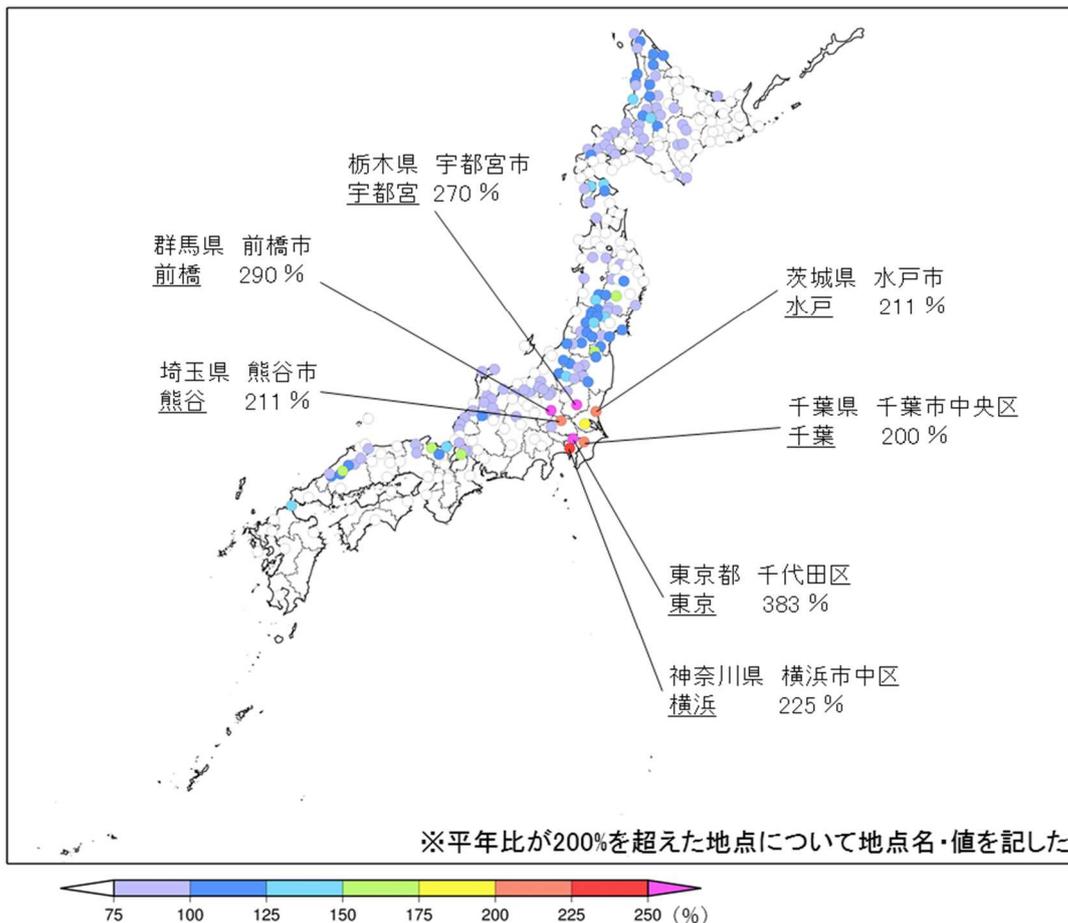
○ 災害番号 (1)

南岸低気圧及び強い冬型の気圧配置による大雪・暴風雪等

平成 30(2018)年 1 月 22 日～27 日

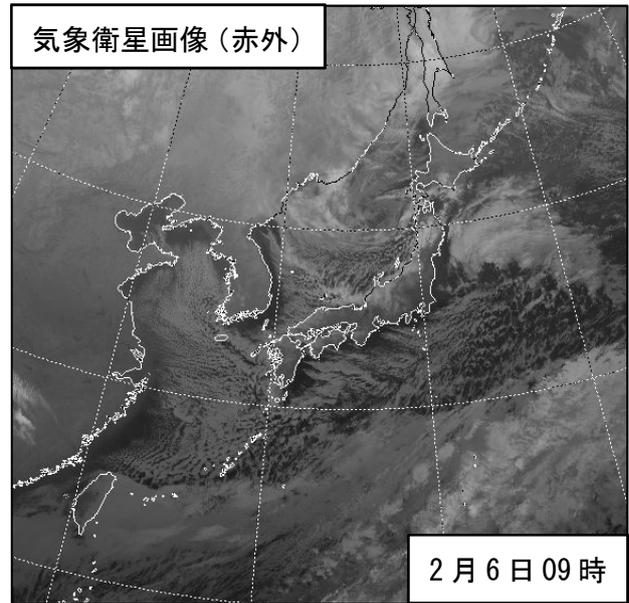
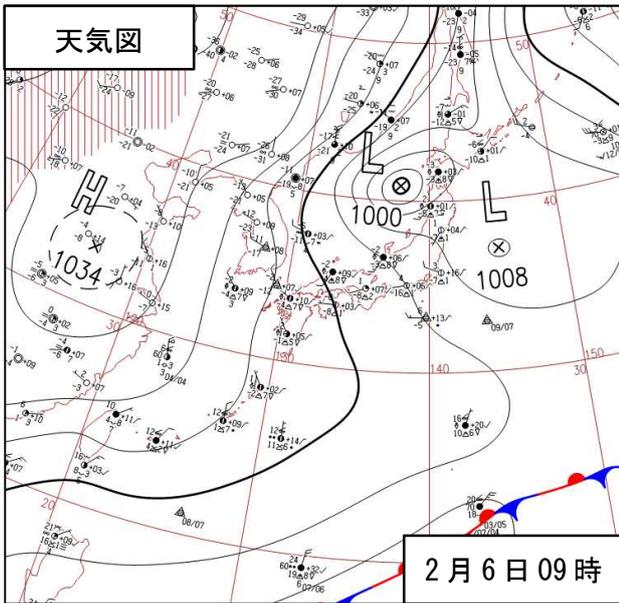


期間最深積雪と年最深積雪の平年値との比較分布図 (1 月 22 日 00 時～27 日 24 時)

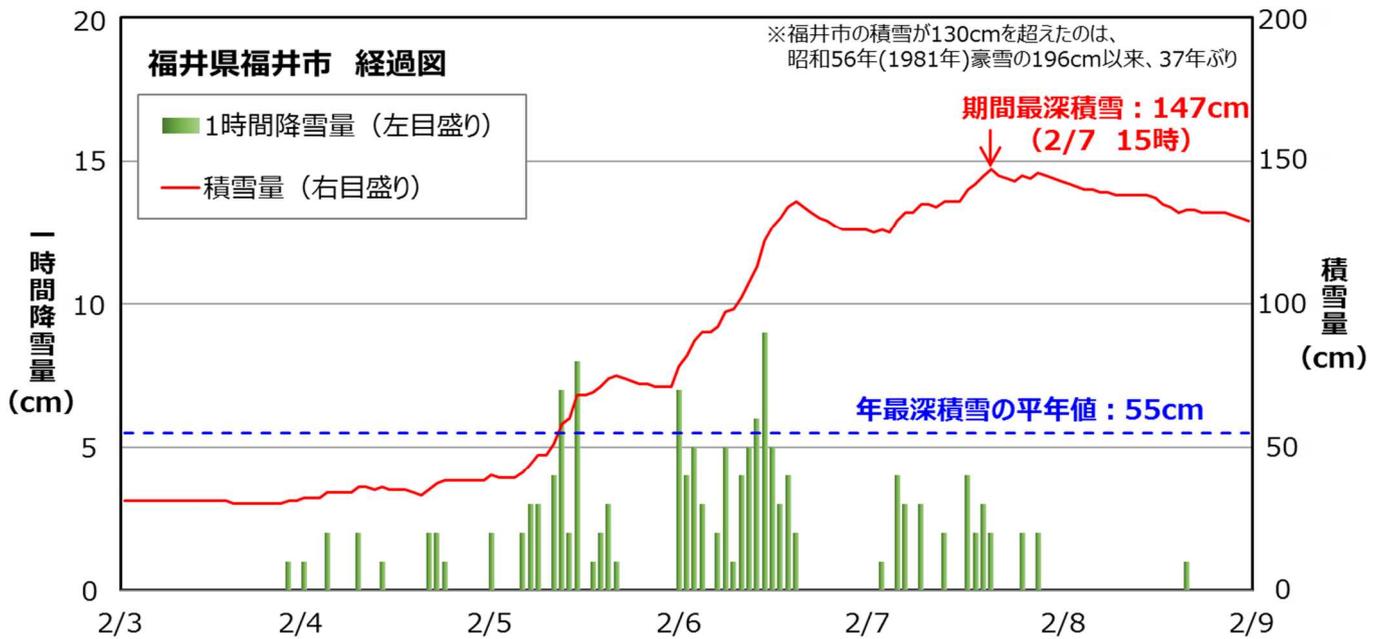


○ 災害番号（2）

強い冬型の気圧配置による大雪 平成30(2018)年2月3日～8日

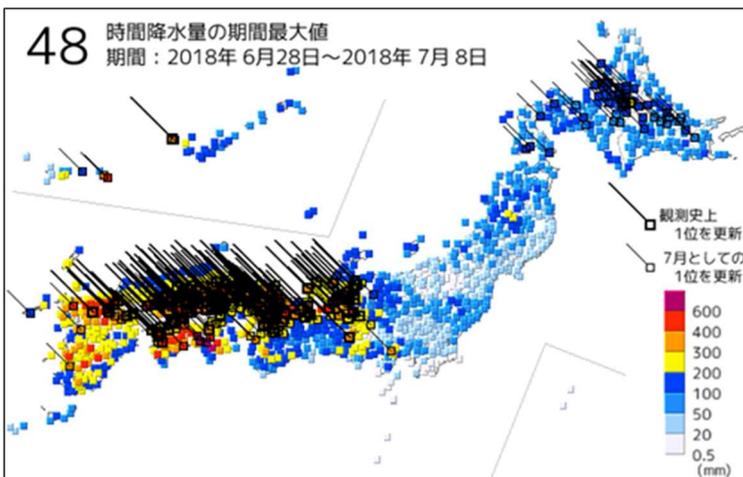
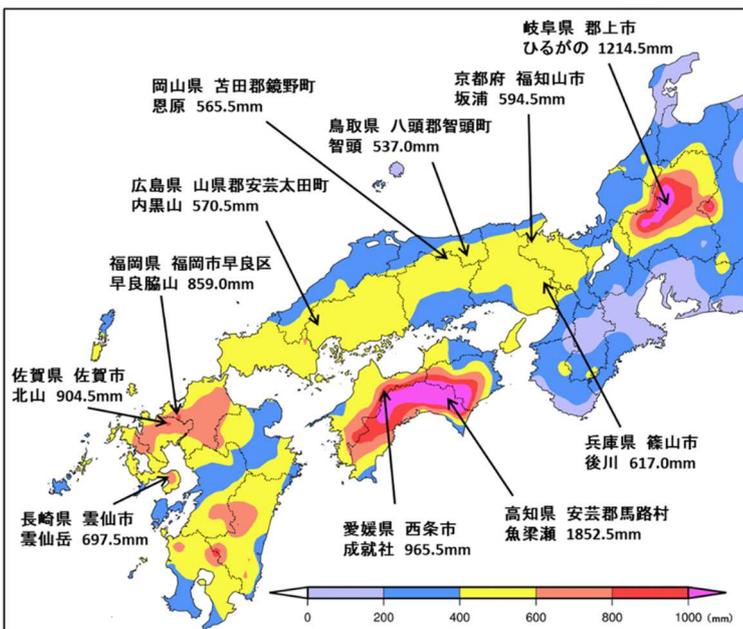
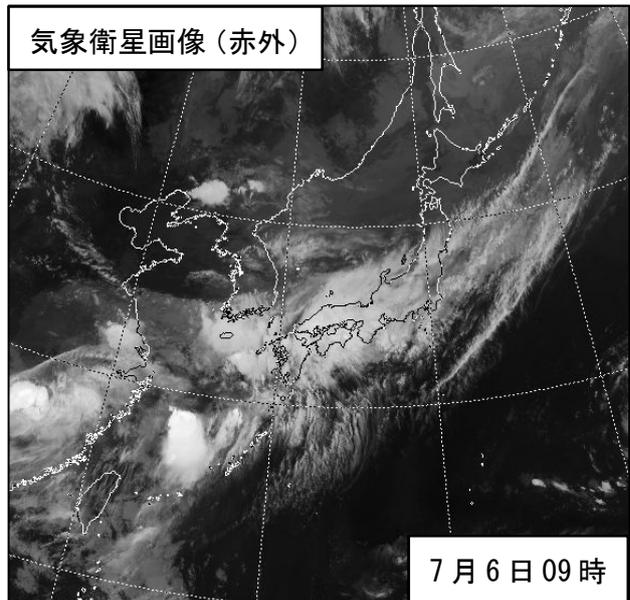
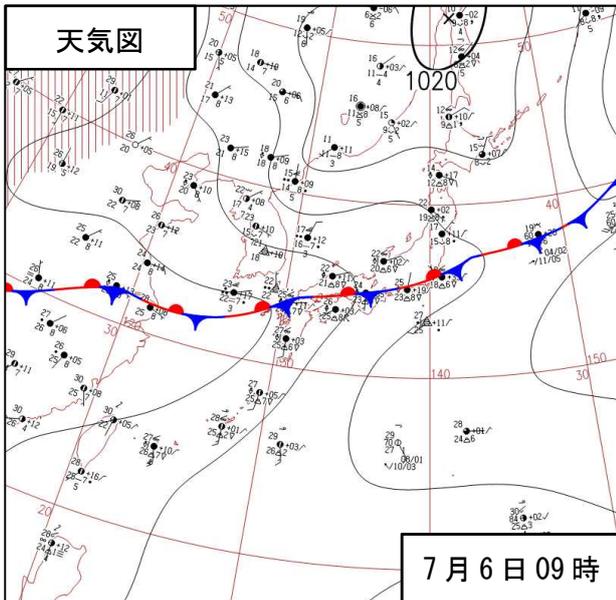


福井県福井市における1時間降雪量・積雪量時系列図（2月3日00時～8日24時）

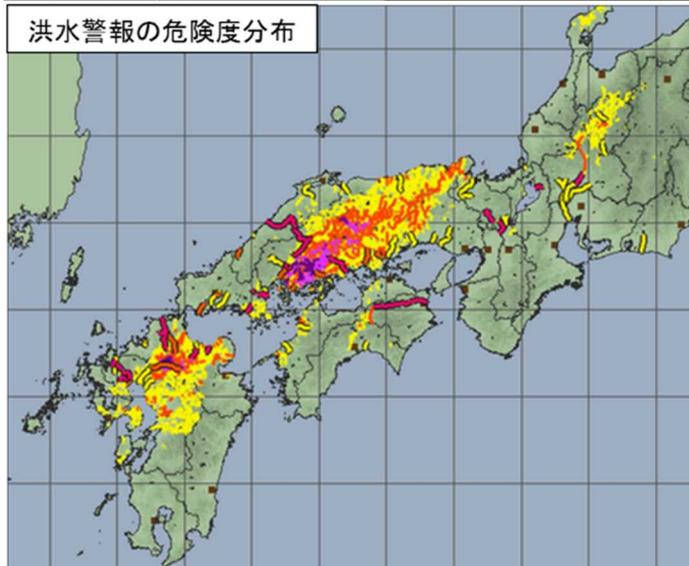
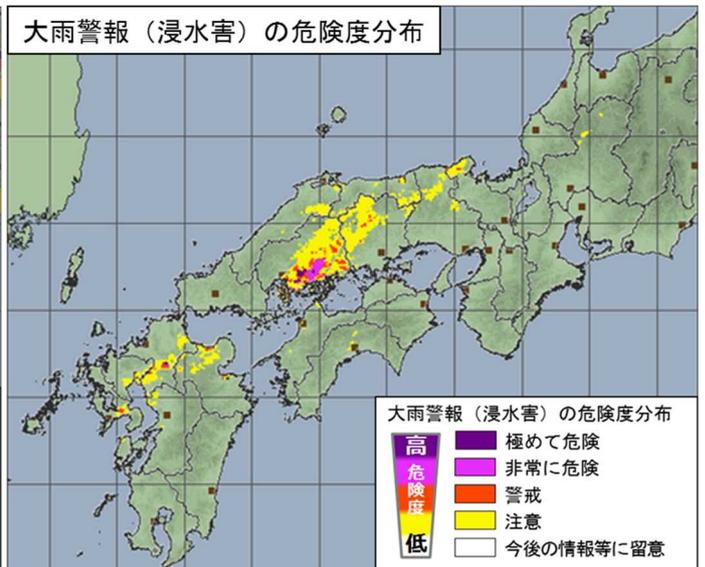
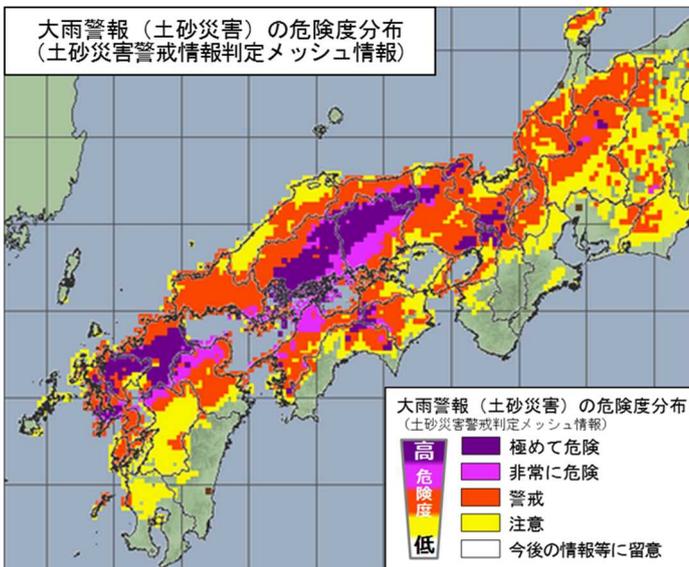
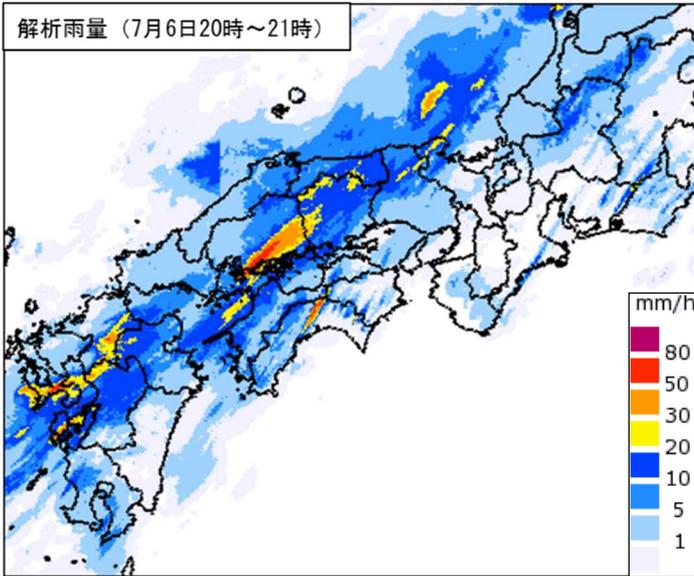


○ 災害番号 (8)

平成 30 年 7 月豪雨 平成 30(2018)年 6 月 28 日～7 月 8 日



西日本全域で危険度が高まり始めた頃（7月6日21時）の状況



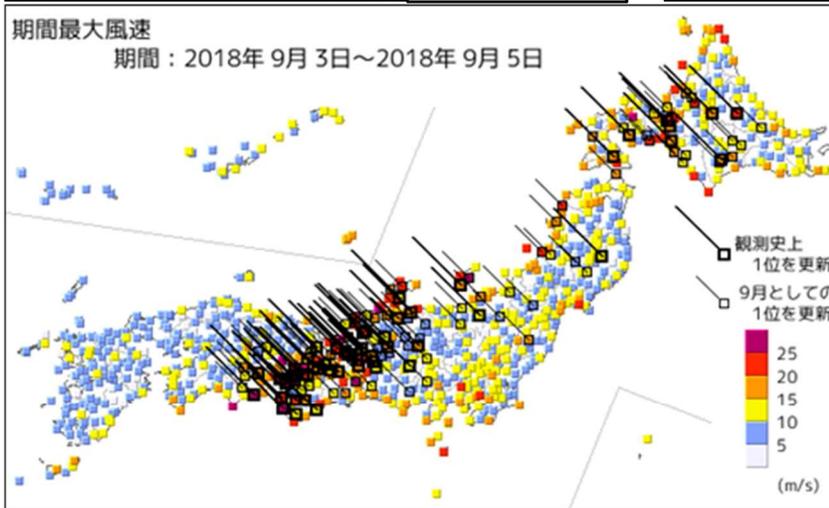
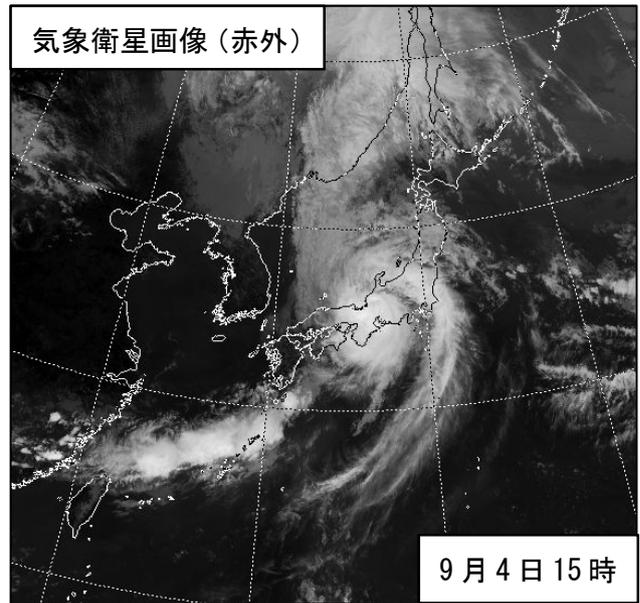
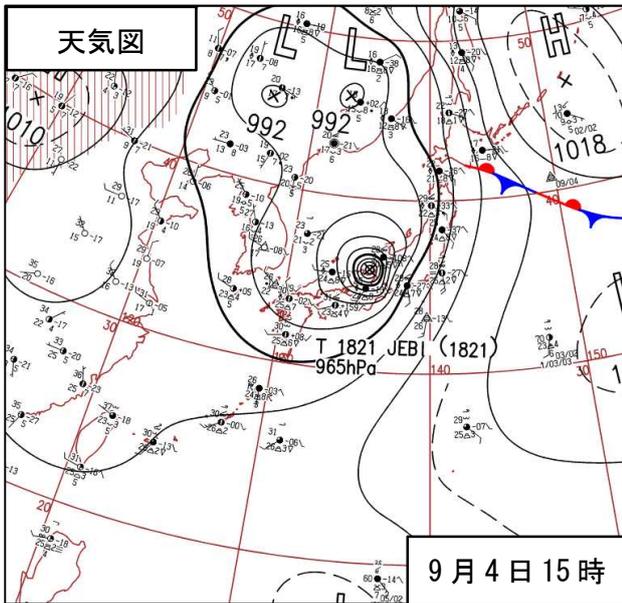
指定河川洪水予報
 国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな損害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。

- 高危険度 低
- 氾濫発生情報
- 氾濫危険情報（『避難勧告』相当）
- 氾濫警戒情報（『避難準備・高齢者等避難開始』相当）
- 氾濫注意情報
- 発表なし

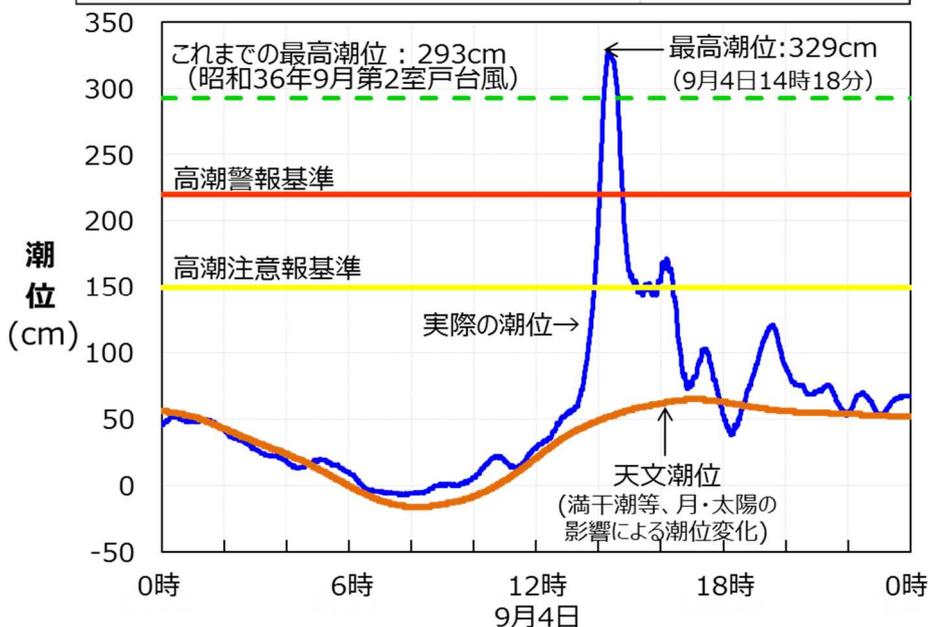
- 洪水警報の危険度分布
- 高危険度 低
 - 極めて危険
 - 非常に危険（氾濫注意水位等を越えていれば『避難勧告』相当）
 - 警戒（水防団待機水位等を越えていれば『避難準備・高齢者等避難開始』相当）
 - 注意
 - 今後の情報等に留意

○ 災害番号 (10)

台風第21号による暴風・高潮等 平成30(2018)年9月3日~9月5日



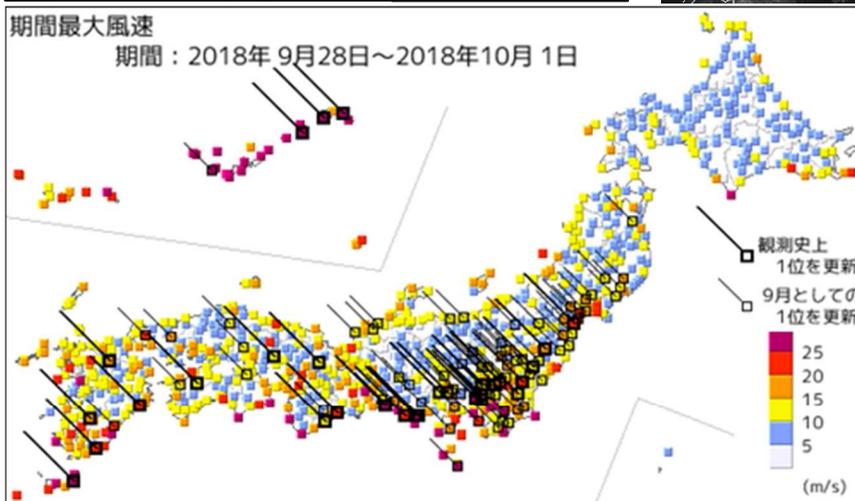
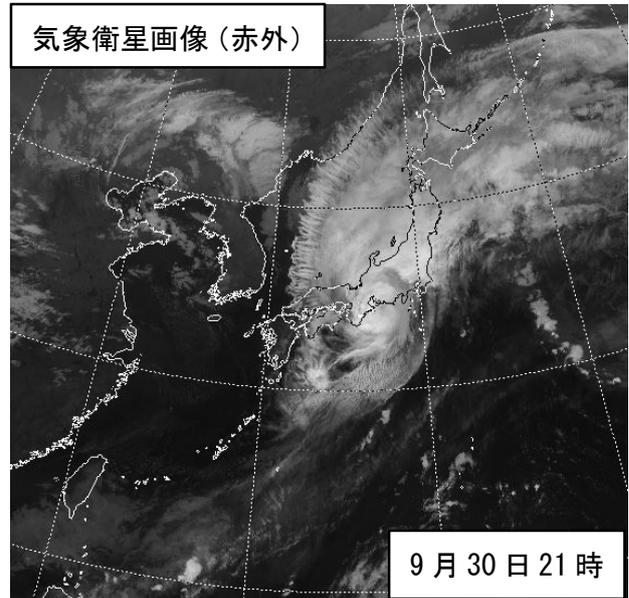
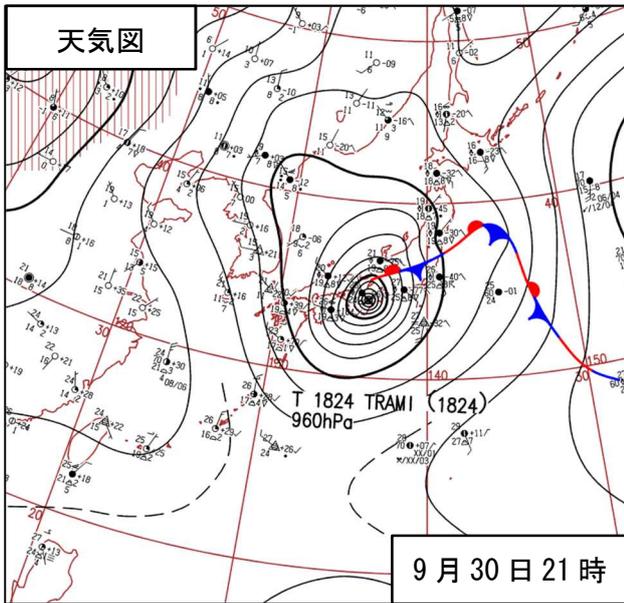
← 期間最大風速
(9月3日00時~9月5日24時)



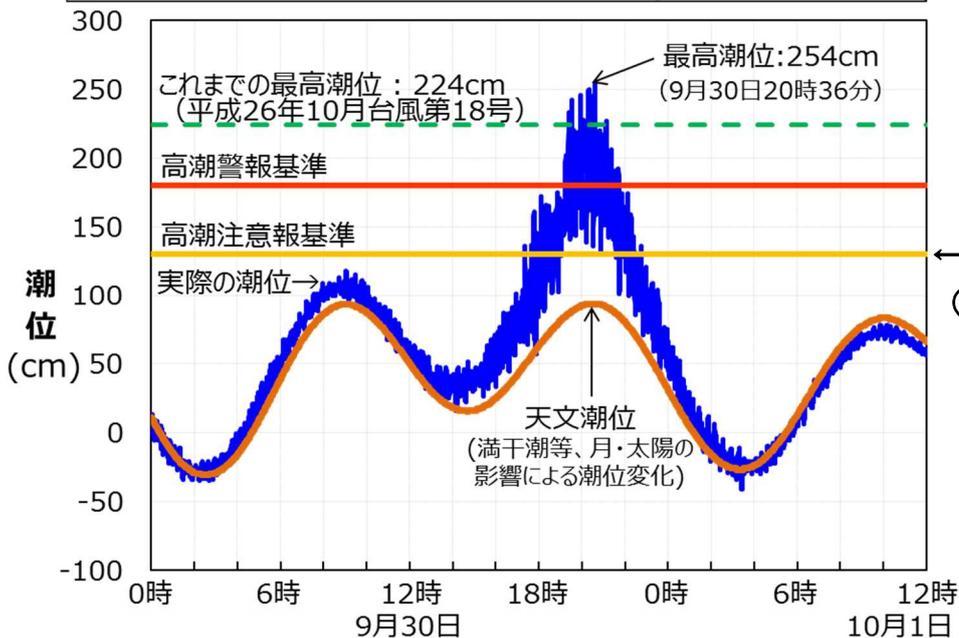
← 大阪府大阪市の潮位時系列図
(9月4日00時~24時)

○ 災害番号 (11)

台風第24号による暴風・高潮等 平成30(2018)年9月28日~10月1日



←期間最大風速
(9月28日00時~10月1日24時)



資料1-2-2 平成30年に発生した主な竜巻等の突風

発生日時	現象区別	発生場所	主な被害状況	日本版改良藤田(JEF)スケール	気象状況
3月1日 07時40分頃	竜巻	茨城県 行方市	負傷者3名	JEF1	日本海低気圧、 その他前線
4月8日 11時25分頃	竜巻	新潟県 新潟市	負傷者2名	JEF1	気圧の谷
6月16日 09時30分頃	竜巻	沖縄県 国頭郡伊江村	負傷者2名	JEF3	台風
6月29日 13時40分頃	竜巻	滋賀県 米原市	負傷者8名	JFE2	梅雨前線、暖気 の移流
8月25日 17時45分頃	ガストフロント	栃木県 真岡市	負傷者1名	JFE0	雷雨(熱雷)
9月28日 16時51分頃	竜巻	沖縄県 名護市	住家全壊1棟	JEF1	台風

被害(死者、負傷者、住家全壊、住家半壊)が発生したものを掲載しています。

詳しくは、気象庁ホームページに「竜巻等の突風データベース」を掲載していますのでご参照ください。

(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/index.html>)

※日本版改良藤田スケール(JEFスケール)

米国シカゴ大学の藤田哲也により1971年に考案された藤田スケールを、日本国内で発生する竜巻等突風の強さをよりの確に把握できるようにするため、米国の改良スケールを参考にしつつ、日本の建築物等の特徴を加味し、最新の風工学の知見を取り入れて策定した風速のスケールです。

階級	風速(m/s)の範囲	主な被害の状況(参考)
	(3秒値)	
JEF0	25-38	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、目視でわかる程度の被害、飛散物による窓ガラスの損壊が発生する。比較的狭い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。 ・園芸施設において、被覆材(ビニルなど)がはく離する。パイプハウスの鋼管が変形したり、倒壊する。 ・物置が移動したり、横転する。 ・自動販売機が横転する。 ・コンクリートブロック塀(鉄筋なし)の一部が損壊したり、大部分が倒壊する。 ・樹木の枝(直径2cm~8cm)が折れたり、広葉樹(腐朽有りの幹が折損する。
JEF1	39-52	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、比較的広い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。屋根の軒先又は野地板が破損したり、飛散する。 ・園芸施設において、多くの地域でプラスチックハウスの構造部材が変形したり、倒壊する。 ・軽自動車や普通自動車(コンパクトカー)が横転する。 ・通常走行中の鉄道車両が転覆する。 ・地上広告板の柱が傾斜したり、変形する。 ・道路交通標識の支柱が傾倒したり、倒壊する。 ・コンクリートブロック塀(鉄筋あり)が損壊したり、倒壊する。 ・樹木が根返りしたり、針葉樹の幹が折損する。
JEF2	53-66	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、上部構造の変形に伴い壁が損傷(ゆがみ、ひび割れ等)する。また、小屋組の構成部材が損壊したり、飛散する。 ・鉄骨造倉庫において、屋根ふき材が浮き上がったり、飛散する。 ・普通自動車(ワンボックス)や大型自動車(トラック)が横転する。 ・鉄筋コンクリート製の電柱が折損する。 ・カーポートの骨組が傾斜したり、倒壊する。 ・コンクリートブロック塀(控壁のあるもの)の大部分が倒壊する。 ・広葉樹の幹が折損する。 ・墓石の棹石が転倒したり、ずれたりする。
JEF3	67-80	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 ・鉄骨系プレハブ住宅において、屋根の軒先又は野地板が破損したり飛散する、もしくは外壁材が変形したり、浮き上がる。 ・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すり(手すり)が比較的広い範囲で変形する。 ・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的狭い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。 ・鉄骨造倉庫において、外壁材が浮き上がったり、飛散する。 ・アスファルトがはく離・飛散する。
JEF4	81-94	<ul style="list-style-type: none"> ・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的広い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。
JEF5	95-	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨系プレハブ住宅や鉄骨造の倉庫において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 ・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すり(手すり)が著しく変形したり、脱落する。

日本版改良藤田スケールに関するガイドライン

(http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221_kentoukai/guideline.pdf) より

資料 1-2-3 平成 30 年（2018 年）激甚災害指定状況一覧表（地すべり、地震、火山を除く）

■激甚災害（本激：地域を特定せず、災害そのものを指定）

<内閣府作成資料等から引用>

期間	災害原因	気象要因
5/20～7/10	豪雨、暴風雨	台風第 5 号、第 6 号、第 7 号及び第 8 号並びに平成 30 年 7 月豪雨など梅雨前線等
9/28～10/1	暴風雨	台風第 24 号

■局地激甚災害（局激：市町村単位で災害を指定）

期間	災害原因	気象要因	対象地区	
			都道府県	市町村
3/8～3/9	豪雨	低気圧、前線	山梨県	身延町、富士川町
4/24～4/25	豪雨	低気圧、前線	山梨県	富士吉田市
			長野県	泰阜村
5/17～5/19	豪雨	低気圧、前線	秋田県	五城目町
7/28～8/16	暴風雨、豪雨	台風第12号等	岩手県	九戸村
			山形県	大蔵村、舟形町、戸沢村
			奈良県	曾爾村
			長野県	大桑村
8/20～9/5	暴風雨、豪雨	台風第19、第20号、第21号	新潟県	粟島浦村
			鹿児島県	十島村
			長野県	大鹿村、根羽村、下條村、売木村、泰阜村
			和歌山県	古座川町、新宮市、高野町、白浜町
			山形県	鮭川村
			石川県	七尾市、宝達志水町、中能登町
			愛知県	豊根村
			大阪府	豊能町、高槻市
			奈良県	天川村、野迫川村、十津川村、上北山村
			徳島県	神山町
宮崎県	椎葉村			
9/28～10/1	暴風雨	台風第24号	京都府	伊根町
			和歌山県	串本町
			鳥取県	日南町
			鹿児島県	伊仙町、三島村、十島村、屋久島町
			沖縄県	座間味村、伊平屋村

(注)激甚災害および局地激甚災害は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき指定された政令により公布される。

(参考) 激甚災害について

＜内閣府HP、激甚災害制度の手引き(災害対策制度研究会/編著)から引用＞

1 激甚災害制度の概要

激甚災害制度は、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、国民経済に著しい影響を及ぼす災害に対して、「地方財政の負担の緩和」、「被災者に対する特別の助成」を行うことが特に必要であると認められる場合に、その災害を激甚災害として政令で指定し、あわせてその災害に対して適用すべき特例措置を指定するものです。

その結果、一般の災害復旧事業補助・災害復旧貸付等の支援措置に加えて、激甚災害法に基づき、公共土木施設、公立学校、公営住宅、農地等の災害復旧事業等の財政援助等の様々な特例措置が適用されることとなります。

激甚災害法により、激甚災害を指定する政令の制定にあたっては、あらかじめ中央防災会議の意見を聴くこととされており、中央防災会議では、その指定基準として、現在、激甚災害指定基準(本激)と局地激甚災害指定基準(局激)の2つを決定しています。

2 局地激甚災害について

激甚災害指定基準(本激)では、全国を単位として積み上げられた被害額を基準としているため、激甚災害制度の創設(昭和37年)当初は、ある特定地域に激甚な被害を及ぼした災害であっても、全国レベルで見ればさほどの被害とはならず、指定基準を越えられない(激甚災害として指定されない)という状況が生じていました。

そこで、市町村単位の被害額を基準とする局地激甚災害指定基準を昭和43年に創設し、限られた地域内で多大な被害を被った地域に対して各種の特例措置が適用されることとしました。

3 本激と局激の違い

激甚災害指定基準による指定、いわゆる「本激」が地域を特定せず、災害そのものを指定するのに対し、局地激甚災害指定基準による指定、いわゆる「局激」は市町村単位で災害を指定します。

ただし、激甚災害に指定されても、被害を受けた地方公共団体等のすべてが特例措置を受けられるわけではなく、被害の大きさが一定規模以上の地方公共団体等に限って特例措置が適用されます。

2 平成 30 年(2018 年)台風の概要

2-1 平成 30 年(2018 年)に発生した台風

今年の台風の発生数は 29 個(平年値 25.6 個)、日本への接近数は 16 個(平年値 11.4 個)で、そのうち 5 個(平年値 2.7 個)が上陸しました。いずれも平年を上回りました。

表 2.1 平成 30 年(2018 年)の台風発生数、日本への上陸数^{*1}、日本への接近数^{*2}と平年値及び平成 29 年(2017 年)との比較

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
		平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	
上陸数						0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
接近数					0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
平成 29 年 (2017 年)	発生数				1		1	8	5	4	3	3	2	27
	上陸数							1	1	1	1			4
	接近数							4	2	2	2			8
平成 30 年 (2018 年)	発生数	1	1	1			4	5	9	4	1	3		29
	上陸数							1	2	2				5
	接近数						2	4	7	2	2	1		16

(注)・平年値は、昭和 56 年(1981 年)～平成 22 年(2010 年)の 30 年平均。

- ・日本への接近は 2 か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸^{*1} 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合をいう。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

接近^{*2} 台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から 300km 以内に入った場合をいう。

資料2-1-1 台風発生数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	1	1	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21 (-)
52 27	0	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27 (0)
53 28	0	1	0	0	1	2	1	6	3	5	3	1	23 (-)
54 29	0	0	1	0	1	0	1	5	5	4	3	1	21 (-)
55 30	1	1	1	1	0	2	7	6	4	3	1	1	28 (0)
56 31	0	0	1	2	0	1	2	5	6	1	4	1	23 (-)
57 32	2	0	0	1	1	1	1	4	5	4	3	0	22 (-)
58 33	1	0	0	1	1	4	7	5	5	3	2	2	31 (+)
59 34	0	1	1	1	0	0	2	5	5	4	2	2	23 (-)
60 35	0	0	0	1	1	3	3	10	3	4	1	1	27 (0)
1961 36	1	0	1	0	2	3	4	6	6	4	1	1	29 (+)
62 37	0	1	0	1	2	0	5	8	4	5	3	1	30 (+)
63 38	0	0	0	1	0	4	4	3	5	4	0	3	24 (0)
64 39	0	0	0	0	2	2	7	5	6	5	6	1	34 (+)
65 40	2	1	1	1	2	3	5	5	8	2	2	0	32 (+)
66 41	0	0	0	1	2	1	4	10	9	4	3	1	35 (+)
67 42	0	1	2	1	1	1	7	9	9	4	3	1	39 (+)
68 43	0	0	0	1	1	1	3	8	3	5	5	0	27 (0)
69 44	1	0	1	1	0	0	3	4	3	3	2	1	19 (-)
70 45	0	1	0	0	0	2	3	6	5	5	4	0	26 (0)
1971 46	1	0	1	3	4	2	8	5	6	4	2	0	36 (+)
72 47	1	0	0	0	1	3	6	5	5	5	3	2	31 (+)
73 48	0	0	0	0	0	0	7	5	2	4	3	0	21 (-)
74 49	1	0	1	1	1	4	4	5	5	4	4	2	32 (+)
75 50	1	0	0	0	0	0	2	4	5	5	3	1	21 (-)
76 51	1	1	0	2	2	2	4	4	5	1	1	2	25 (0)
77 52	0	0	1	0	0	1	3	3	5	5	1	2	21 (-)
78 53	1	0	0	1	0	3	4	8	5	4	4	0	30 (+)
79 54	1	0	1	1	2	0	4	2	6	3	2	2	24 (0)
80 55	0	0	0	1	4	1	4	2	6	4	1	1	24 (0)
1981 56	0	0	1	2	0	3	4	8	4	2	3	2	29 (+)
82 57	0	0	3	0	1	3	3	5	5	3	1	1	25 (0)
83 58	0	0	0	0	0	1	3	5	2	5	5	2	23 (-)
84 59	0	0	0	0	0	2	5	5	4	7	3	1	27 (0)
85 60	2	0	0	0	1	3	1	8	5	4	1	2	27 (0)
86 61	0	1	0	1	2	3	2	3	5	3	5	4	29 (+)
87 62	1	0	0	1	0	2	4	4	6	2	2	1	23 (-)
88 63	1	0	0	0	1	3	2	8	8	5	2	1	31 (+)
89 H.1	1	0	0	1	2	2	7	5	6	4	3	1	32 (+)
90 2	1	0	0	1	1	3	4	6	4	4	4	1	29 (+)
1991 3	0	0	2	1	1	1	4	5	6	3	6	0	29 (+)
92 4	1	1	0	0	0	2	4	8	5	7	3	0	31 (+)
93 5	0	0	1	0	0	1	4	7	5	5	2	3	28 (0)
94 6	0	0	0	1	1	2	7	9	8	6	0	2	36 (+)
95 7	0	0	0	1	0	1	2	6	5	6	1	1	23 (-)
96 8	0	1	0	1	2	0	5	6	6	2	2	1	26 (0)
97 9	0	0	0	2	3	3	4	6	4	3	2	1	28 (0)
98 10	0	0	0	0	0	0	1	3	5	2	3	2	16 (-)
99 11	0	0	0	2	0	1	4	6	6	2	1	0	22 (-)
2000 12	0	0	0	0	2	0	5	6	5	2	2	1	23 (-)
01 13	0	0	0	0	1	2	5	6	5	3	1	3	26 (0)
02 14	1	1	0	0	1	3	5	6	4	2	2	1	26 (0)
03 15	1	0	0	1	2	2	2	5	3	3	2	0	21 (-)
04 16	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	2	29 (+)
05 17	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	0	23 (-)
06 18	0	0	0	0	1	1	3	7	3	4	2	2	23 (-)
07 19	0	0	0	1	1	0	3	4	5	6	4	0	24 (0)
08 20	0	0	0	1	4	1	2	4	4	2	3	1	22 (-)
09 21	0	0	0	0	2	2	2	5	7	3	1	0	22 (-)
2010 22	0	0	1	0	0	0	2	5	4	2	0	0	14 (-)
11 23	0	0	0	0	2	3	4	3	7	1	0	1	21 (-)
12 24	0	0	1	0	1	4	4	5	3	5	1	1	25 (0)
13 25	1	1	0	0	0	4	3	6	7	7	2	0	31 (+)
14 26	2	1	0	2	0	2	5	1	5	2	1	2	23 (-)
15 27	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	1	27 (0)
16 28	0	0	0	0	0	0	4	7	7	4	3	1	26 (0)
17 29	0	0	0	1	0	1	8	5	4	3	3	2	27 (0)
18 30	1	1	1	0	0	4	5	9	4	1	3	0	29 (+)
平年値	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
1981-2010													

台風の発生月：熱帯低気圧が台風(風速およそ17m/s以上)となった月とする。

合計の(-)は24個未満、(0)は24個以上29個未満、(+)は29個以上を示す。

資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
52 27	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
53 28	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
54 29	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
55 30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	4
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
57 32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
58 33	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
60 35	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
1961 36	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
62 37	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
63 38	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
64 39	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
65 40	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	5
66 41	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	5
67 42	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
68 43	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
70 45	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
72 47	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
73 48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
74 49	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
75 50	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
76 51	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
77 52	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
78 53	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
79 54	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
80 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
82 57	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
83 58	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
84 59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85 60	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
86 61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87 62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
88 63	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	5
90 2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	6
1991 3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
92 4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
93 5	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	6
94 6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
95 7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
96 8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
97 9	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
99 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2000 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
02 14	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
03 15	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
04 16	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
06 18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
08 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
11 23	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
12 24	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
13 25	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
14 26	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	4
15 27	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
16 28	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	6
17 29	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	4
18 30	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	5
平年値	-	-	-	-	0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0	-	2.7
1981-2010	-	-	-	-	0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0	-	2.7

日本への台風上陸：台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸線に達した場合をいう。
小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	0	0	8
52 27	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	12
53 28	0	0	0	0	0	1	2	4	1	3	0	0	10
54 29	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	1	0	10
55 30	0	0	0	1	0	0	7	3	1	4	0	1	16
56 31	0	0	0	1	0	0	1	3	6	0	0	0	10
57 32	0	0	0	0	0	1	0	3	3	2	2	0	10
58 33	0	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	0	15
59 34	0	0	0	1	0	0	1	3	3	3	2	0	13
60 35	0	0	0	0	0	3	2	11	1	2	0	1	19
1961 36	0	0	0	0	1	2	2	4	4	3	0	0	15
62 37	0	0	0	0	0	1	0	4	6	2	1	1	14
63 38	0	0	0	0	0	3	2	2	2	3	0	0	12
64 39	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	0	8
65 40	0	0	0	0	1	3	1	4	4	1	1	0	15
66 41	0	0	0	0	2	2	1	7	8	1	0	0	19
67 42	0	0	0	1	0	0	3	4	3	2	1	0	13
68 43	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	0	10
69 44	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	2	0	8
70 45	0	0	0	0	0	0	2	4	3	0	0	0	9
1971 46	0	0	0	1	1	0	2	3	5	1	1	0	13
72 47	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	0	0	11
73 48	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
74 49	0	0	0	0	0	1	3	4	3	0	0	0	10
75 50	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	2	0	9
76 51	0	0	0	1	2	2	5	2	1	0	2	0	13
77 52	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	6
78 53	0	0	0	0	0	2	3	6	3	1	1	0	14
79 54	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	7
80 55	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2	1	0	9
1981 56	0	0	0	0	0	2	3	3	2	2	1	0	11
82 57	0	0	0	0	1	2	3	4	3	1	0	0	13
83 58	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	0	7
84 59	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	9
85 60	0	0	0	0	1	1	2	7	2	2	0	0	12
86 61	0	0	0	0	1	1	2	3	3	1	1	0	12
87 62	0	0	0	0	0	1	5	2	1	2	0	0	10
88 63	0	0	0	0	0	2	1	4	4	2	0	0	13
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	3	4	3	1	0	0	11
90 2	0	0	0	0	1	1	1	5	3	1	1	1	14
1991 3	0	0	0	0	1	0	1	4	5	2	1	0	14
92 4	0	0	0	0	0	1	1	5	3	2	3	0	14
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0	0	9
94 6	0	0	0	0	1	0	4	6	3	2	2	0	15
95 7	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
96 8	0	0	0	0	2	0	3	2	3	1	1	0	10
97 9	0	0	0	1	1	3	1	3	3	2	1	0	15
98 10	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	0	0	8
99 11	0	0	0	1	0	0	3	4	3	0	1	0	11
2000 12	0	0	0	0	2	0	4	4	3	1	1	0	15
01 13	0	0	0	0	1	0	2	2	4	2	0	0	11
02 14	0	0	0	0	0	1	6	2	3	1	1	0	13
03 15	0	0	0	1	1	2	0	2	3	1	1	1	12
04 16	0	0	0	1	1	3	3	6	3	3	0	1	19
05 17	0	0	0	1	0	1	2	3	4	2	0	0	12
06 18	0	0	0	0	0	0	3	4	2	1	0	0	10
07 19	0	0	0	0	1	0	1	4	3	3	0	0	12
08 20	0	0	0	0	3	1	2	1	2	1	0	0	9
09 21	0	0	0	0	1	0	0	3	3	2	0	0	8
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	7
11 23	0	0	0	0	2	1	1	2	4	0	0	0	9
12 24	0	0	0	0	1	3	3	6	3	4	0	0	17
13 25	0	0	0	0	0	2	1	2	4	6	0	0	14
14 26	0	0	0	0	0	2	3	2	3	2	1	0	12
15 27	0	0	0	0	2	0	3	4	4	0	1	0	14
16 28	0	0	0	0	0	0	1	5	4	1	0	0	11
17 29	0	0	0	0	0	0	4	2	2	2	0	0	8
18 30	0	0	0	0	0	2	4	7	2	2	1	0	16
平年値	-	-	-	0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
1981-2010	-	-	-	0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4

日本への台風接近: 台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合をいう。
 接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
52 27	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	1	0	7
53 28	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
54 29	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	6
55 30	0	0	0	0	0	0	5	1	1	4	0	0	10
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	5
57 32	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
58 33	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	5
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	6
60 35	0	0	0	0	0	1	0	5	1	0	0	0	7
1961 36	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	7
62 37	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	8
63 38	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6
64 39	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
65 40	0	0	0	0	1	1	0	2	4	0	1	0	9
66 41	0	0	0	0	1	2	0	2	4	1	0	0	9
67 42	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
68 43	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70 45	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	6
72 47	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6
73 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
74 49	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	4
75 50	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
76 51	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
77 52	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
78 53	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	7
79 54	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	5
80 55	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	6
82 57	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	6
83 58	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
84 59	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
85 60	0	0	0	0	0	1	1	4	2	1	0	0	6
86 61	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	5
87 62	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	5
88 63	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	6
89 H.1	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	0	7
90 2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	0	8
1991 3	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	9
92 4	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	0	0	5
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	1	0	0	8
94 6	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	6
95 7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
96 8	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
97 9	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	6
99 11	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
2000 12	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
02 14	0	0	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	8
03 15	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
04 16	0	0	0	0	1	2	1	4	2	3	0	0	12
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
06 18	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	5
08 20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
09 21	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	4
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
11 23	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	5
12 24	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	6
13 25	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	6
14 26	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	5
15 27	0	0	0	0	1	0	2	1	2	0	0	0	6
16 28	0	0	0	0	0	0	0	5	3	1	0	0	9
17 29	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	5
18 30	0	0	0	0	0	1	2	5	2	2	0	0	10
平年値	-	-	-	0.0	0.1	0.4	1.0	1.7	1.7	0.7	0.0	-	5.5
1981-2010													

北海道・本州・四国・九州への台風接近：台風の中心が、北海道・本州・四国・九州のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合をいう。接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-5 平成30年(2018年)に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値						熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時																	
		月日時		北緯	月日時		北緯	月日時		hPa	月日時		m/s	月日時		km	月日時		北緯	東経	種類	月日時		北緯	東経									
		月	日	時	緯	経	緯	経	緯	経	値	緯	経	値	緯	経	値	緯	経	種	緯	経	種	緯	経									
1	BOLAVEN	12	30	03	7.4	138.0	1	3	09	10.4	116.0	1	4	03	1002	1	4	03	18	1	4	03	60	1	4	09	12.3	111.0	TD	1	4	15	12.3	110.0
2	SANBA	2	8	09	8.1	150.8	2	11	15	6.8	135.8	2	13	03	1000	2	13	09	18	2	12	21	NW:440 SE:170	2	13	15	9.6	124.6	TD	2	16	15	9.8	115.7
3	JELAWAT	3	25	03	5.8	143.0	3	25	15	6.6	140.3	3	30	21	915	3	30	21	55	4	1	03	NE:390 SW:170	4	1	09	19.3	144.4	TD	4	1	15	19.1	145.6
4	EWINIAR	6	3	03	14.2	112.0	6	5	09	17.5	111.4	6	8	21	998	6	8	09	20	6	8	09	220	6	9	03	23.1	113.3	TD	6	11	15	24.9	125.3
5	MALIKSI	6	4	03	9.7	131.8	6	8	03	17.3	127.9	6	10	18	970	6	10	18	30	6	11	21	SE:750 NW:370	6	12	03	36.5	148.0	L	6	13	03	38.8	157.7
6	GAEMI	6	13	21	21.6	117.1	6	15	09	22.7	120.2	6	16	15	990	6	16	15	23	6	17	03	E:390 W:220	6	17	09	28.5	132.1	L	6	21	21	41.0	154.1
7	PRAPIROON	6	28	09	19.8	132.8	6	29	09	19.8	130.3	7	3	06	960	7	3	06	35	7	4	09	SE:560 NW:220	7	4	15	39.6	134.8	L	7	5	15	41.7	140.2
8	MARIA	7	3	09	10.1	147.8	7	4	21	12.6	145.6	7	9	21	915	7	9	21	55	7	10	00	NE:560 SW:440	7	12	03	27.9	115.6	TD	7	13	03	30.6	111.8
9	SON-TINH	7	16	09	18.4	125.3	7	17	09	19.4	118.5	7	19	03	994	7	18	21	20	7	18	21	N:390 S:220	7	19	09	19.1	104.4	TD	7	25	03	23.6	107.6
10	AMPIL	7	17	21	18.4	127.9	7	18	21	19.7	130.0	7	22	21	985	7	22	03	25	7	22	03	NE:500 SW:330	7	23	21	36.5	117.9	TD	7	26	15	47.5	137.8
11	WUKONG	7	22	09	22.0	159.6	7	23	21	27.3	159.4	7	25	21	990	7	25	21	25	7	27	03	E:560 W:220	7	27	09	44.3	152.2	L	7	27	21	47.9	155.7
12	JONGDARI	7	24	03	17.4	137.0	7	24	21	19.7	136.7	7	28	12	960	7	28	12	40	7	28	00	SE:500 NW:280	8	3	09	30.6	121.5	TD	8	4	21	34.1	115.7
13	SHANSHAN	8	2	15	18.1	152.0	8	3	09	17.7	150.9	8	8	09	970	8	8	09	35	8	8	09	E:560 W:390	8	10	15	41.0	151.0	L	8	11	15	40.6	169.4
14	YAGI	8	6	09	18.2	134.1	8	8	09	19.2	132.5	8	13	03	990	8	12	21	20	8	12	15	NE:500 SW:280	8	13	09	30.7	118.9	TD	8	16	09	35.3	116.1
15	LEEPI	8	10	21	17.5	145.0	8	11	21	19.7	143.4	8	14	21	994	8	14	21	25	8	14	18	E:280 W:170	8	15	09	33.9	130.0	TD	8	15	21	35.7	129.3
16	BEBINCA	8	10	03	19.9	111.6	8	13	09	20.6	112.9	8	16	21	985	8	16	21	23	8	16	21	S:220 N:110	8	17	15	19.0	104.0	TD	8	18	03	19.8	100.3
17	HECTOR	域外			8	14	03	25.8	178.9	8	14	09	998	8	14	09	20	8	15	15	N:220 S:110	8	15	21	29.9	167.9	TD	8	17	03	33.6	165.7		
18	RUMBIA	8	14	09	22.9	128.7	8	15	15	28.2	126.9	8	17	15	985	8	17	09	23	8	18	03	NE:440 SW:170	8	18	09	32.2	115.3	TD	8	19	21	34.1	116.4
19	SOULIK	8	15	15	11.7	144.7	8	16	09	15.6	143.0	8	22	12	950	8	22	12	45	8	21	00	NE:390 SW:330	8	25	03	41.1	133.9	L	8	30	15	域外	
20	CIMARON	8	16	21	11.3	160.3	8	18	21	14.0	153.9	8	23	00	950	8	23	00	45	8	24	09	SE:560 NW:280	8	24	21	41.7	139.7	L	8	24	21	41.7	139.7
21	JEBI	8	27	03	11.0	160.5	8	28	03	14.5	157.9	9	1	15	915	9	1	15	55	9	5	03	S:950 N:560	9	5	09	46.5	139.0	L	9	7	15	域外	
22	MANGKHUT	9	6	21	11.8	170.2	9	7	21	12.7	165.4	9	15	03	905	9	15	03	55	9	15	15	E:750 W:560	9	17	15	24.0	107.0	TD	9	18	03	24.1	103.9
23	BARIJAT	9	8	15	20.5	121.8	9	11	09	20.9	118.7	9	13	03	998	9	13	03	20	9	13	09	110	9	13	15	22.0	109.9	TD	9	13	15	22.0	109.9
24	TRAMI	9	20	15	11.8	146.7	9	21	15	15.0	143.7	9	25	15	915	9	25	15	55	9	30	12	650	10	1	09	41.3	144.2	L	10	4	03	域外	
25	KONG-REY	9	28	09	7.4	150.9	9	29	15	12.6	142.6	10	2	15	900	10	2	15	60	10	3	21	750	10	6	21	38.9	133.7	L	10	7	21	41.2	152.0
26	YUTU	10	21	03	8.4	160.7	10	22	09	9.4	156.1	10	25	09	900	10	25	09	60	10	28	03	NW:600 SE:500	11	2	15	20.7	116.1	TD	11	3	09	19.9	115.7
27	TORAJI	11	17	03	10.0	112.5	11	17	15	10.9	111.3	11	17	21	1004	11	18	03	18	11	18	03	NW:170 SE:110	11	18	09	11.6	109.5	TD	11	18	21	11.8	108.2
28	MAN-YI	11	20	21	5.0	152.6	11	21	03	5.8	152.2	11	25	09	960	11	25	09	40	11	24	09	N:560 S:220	11	27	15	23.5	132.4	TD	11	30	21	域外	
29	USAGI	11	13	09	9.2	156.7	11	22	09	11.3	117.0	11	24	15	990	11	24	15	30	11	25	09	N:330 S:220	11	26	09	11.4	105.9	TD	11	27	03	12.0	104.0

表中の日時はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算、強風半径は海里で解析し、10km単位に換算しているため、必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

台風第1号の「熱帯低気圧の発生日時」は2017年12月30日03時。

2-2 平成30年(2018年)に日本に影響した主な台風

日本に影響*した主な台風について以下に概要を示す。

*ここでは、台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合をいう。

(1) 台風第5号 (1805 MALIKSI マリクシ)

6月4日03時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は、北へ進んだ後、北西へ進み、8日03時に同海域で台風第5号となった。台風は進路を次第に北東へ変化させ、10日09時に沖縄本島の南東で勢力が最大となった。台風は進路を北東に保ったまま徐々に勢力を弱め、12日03時に本州の東で温帯低気圧となり、その後進路を東に変え、13日09時に日本のはるか東で消滅した。

(2) 台風第6号 (1806 GAEMI ケーミー)

6月13日21時に南シナ海で発生した熱帯低気圧は東へ進んだ後、15時09時に台湾海峡付近で台風第6号となり、その後すぐに台湾に上陸した。台風は東北東へと進路を変え、16日15時に沖縄本島付近で勢力が最大となった。台風は進路を東北東に保ったまま、17日09時に九州の南で温帯低気圧となり、その後徐々に進路を北東に変化させた後、22日03時に日本のはるか東で消滅した。

(3) 台風第7号 (1807 PRAPIROON プラピルーン)

6月28日09時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は西に進んだ後、29日09時に沖縄本島の南南東海上にて台風第7号となり、北西へと進路を変えた。台風は次第に北東へと進路を変え、7月3日03時に沖縄本島付近にて勢力が最大となった。台風は進路を北東に保ちながら、次第に勢力を弱め、4日15時に日本海にて温帯低気圧となり、翌日5日21時に北日本付近にて消滅した。

(4) 台風第8号 (1808 MARIA マリア)

7月3日09時にマリアナ諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西へ進みながら、4日21時に同海域で台風第8号となり、9日09時にフィリピンの北東海上にて勢力が最大となった。台風は11日09時過ぎに華南へ上陸し、12日03時に華中にて熱帯低気圧となり、13日09時に同地域にて消滅した。

(5) 台風第10号 (1810 AMPIL アンピル)

7月17日21時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は東北東へと進み、18日21時に同海域にて台風第10号となった。台風は次第に北西へと進路を変え、20日03時に沖縄本島の南東海上にて勢力が最大となった。台風は北西の進路を保ったまま、21日08時過ぎに沖縄本島を通過し、東シナ海を北西に進んだ後、華中に上陸し、23日21時に黄河下流付近にて熱帯低気圧となった。次第に北東へと進路を変えた後、25日09時に中国東北区付近にて温帯低気圧に変わり、26日21時に沿海州付近にて消滅した。

(6) 台風第12号 (1812 JONGDARI ジョングダリ)

7月24日03時にフィリピンの東海上にて発生した熱帯低気圧は北に進み、24日21時に同海域にて台風第12号となった。台風は進路を次第に北東へ変えた後、27日09時に小笠原諸島の南にて勢力が最大となった。

台風は次第に反時計回りに進んだ後、29日01時頃に三重県伊勢市付近に上陸し、西日本を西に進み、29日18時前に福岡県豊前市付近に再上陸した。台風は次第に進路を南に変え、29日23時頃に島原半島を通過した後、東シナ海へと進んだ。その後台風は屋久島付近を反時計回りに回り、東シナ海で再度反時計回りに回った後、西へ進んだ。台風は8月3日09時に華中に上陸するのとほぼ同時に熱帯低気圧に変わり、5日03時に同地域にて消滅した。

(7) 台風第13号 (1813 SHANSHAN サンサン)

8月2日15時に南鳥島の南西海上で発生した熱帯低気圧は北北西に進み、3日09時にマリアナ諸島の東海上で台風第13号となり、5日03時に南鳥島周辺で勢力が最大となった。台風は日本の東海上で次第に進路を北に変え、勢力を弱めながら茨城県東岸を通過した後、北東へ加速し、10日15時に温帯低気圧となり、11日21時に消滅した。

(8) 台風第14号 (1814 YAGI ヤギ)

8月6日09時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、8日09時に同海域にて台風第14号となった後、進路を鋭く北東に変え、その後北西に進み、その後西へ進んだ。台風は11日21時に宮古島の東で勢力が最大となり、北西へ進路を保ちながら、12日21時過ぎに華中に上陸し、13日09時に華中にて熱帯低気圧となった。その後北へ進路を変え、15日15時に渤海にて温帯低気圧となり、16日15時に華北にて消滅した。

(9) 台風第15号 (1815 LEEPI リーピー)

8月10日21時にマリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、11日21時に同海域にて台風第15号となった。台風は進路を北西に保ったまま、13日15時に小笠原諸島の西海上にて勢力が最大となり、15日02時半頃宮崎県日向市付近に上陸し、15日09時に対馬海峡にて熱帯低気圧となった。その後次第に進路を北に変え、16日03時に日本海にて消滅した。

(10) 台風第18号 (1818 RUMBIA ルンビア)

8月14日09時に沖縄の南にて発生した熱帯低気圧は北北西へ進み、東シナ海に進み、15日15時に沖縄本島の北西で台風第18号となった。西北西へと進路を変えた後、台風は16日21時に東シナ海にて勢力が最大になった。進路を西北西に保ったまま、台風は17日朝までに華中に上陸し、18日09時に同地域にて熱帯低気圧となり、徐々に東北東へ進路を変えた後、20日03時に黄河下流付近で消滅した。

(11) 台風第19号 (1819 SOULIK ソーリック)

8月15日15時にグアム島の南にて発生した熱帯低気圧は、16日09時にグアム島の北西にて台風第19号となり、北北西に進んだ。その後西北西に進路を鋭く変え、台風は21日03時に南大東島の北東にて勢力が最大になった。台風は東シナ海に進んだ後徐々に勢力を弱め、済州島の西にて北東へ進路を変え、23日遅くに朝鮮半島に上陸し、日本海へ進み、北東へ進路を保ったまま、25日03時に同海域にて温帯低気圧となった。東へと進路を変えた後、北へ進路を変え、30日15時前にベーリング海にて東経180度を越えた。

(12) 台風第20号 (1820 CIMARON シマロン)

8月16日21時にマーシャル諸島近海で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、18日21時にチューク諸島の北海上にて台風第20号となった。徐々に北西へ進路を変え、台風は22日15時に小笠原諸島の西海上にて勢力が最大となった。北へ進路を変えた後、台風は23日21時頃、徳島県南部に上陸し、同日23時半頃、兵庫県姫路市付近に再上陸した。北北東へ進路を変えた後、台風は勢力を弱め、24日21時に日本海にて温帯低気圧となり、25日03時に同海域にて消滅した。

(13) 台風第21号 (1821 JEBI チュービー)

8月27日03時にマーシャル諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西に進み、28日03時に同海域にて台風第21号となり、次第に西へ進路を変えた。台風は西に進路を保ったまま、31日09時にマリアナ諸島の西海上にて勢力が最大となった。台風は北西に進路を変えた後、徐々に勢力を弱め、北北東に進路を変えた。台風は非常に強い勢力を保ったまま、9月4日12時前、徳島県南部に上陸し、4日14時前、兵庫県神戸市付近に再上陸し、本州を通過し日本海へ進んだ。台風は北北西に進路を変え、5日09時に沿海州の沿岸にて温帯低気圧となり、5日昼前にロシアの海岸線を越えた後、北へ蛇行し、7日15時に北緯60度を越えた。

(14) 台風第24号 (1824 TRAMI チャーミー)

9月20日15時にマリアナ諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西に進み、21日15時に同海域にて台風第24号となった。台風は西北西に進んだ後、25日03時にフィリピンの東海上にて勢力が最大となった。その後台風は、沖縄の南海上で減速して北へ進み、徐々に北東へ向かって加速し、30日20時頃、和歌山県田辺市付近に上陸した。台風は10月1日09時に日本の東海上にて温帯低気圧となり、4日03時前にベーリング海にて東経180度を越えた。

(15) 台風第25号 (1825 KONG-REY コンレイ)

9月28日09時にチューク諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、29日15時にグアム島の南西海上にて台風第25号となり、10月1日21時にフィリピンの東海上にて勢力が最大となった。台風は北西に進路を保ったまま、沖縄本島と宮古島間の海上を通過した後、東シナ海において北に進路を変え、その後北東に進路を変え、朝鮮半島を通過し、日本海へ進んだ。台風は6日21時に同海域にて温帯低気圧となり、その後東に進み、8日03時に日本のはるか東海上にて消滅した。

(16) 台風第28号 (1828 MAN-YI マンニィ)

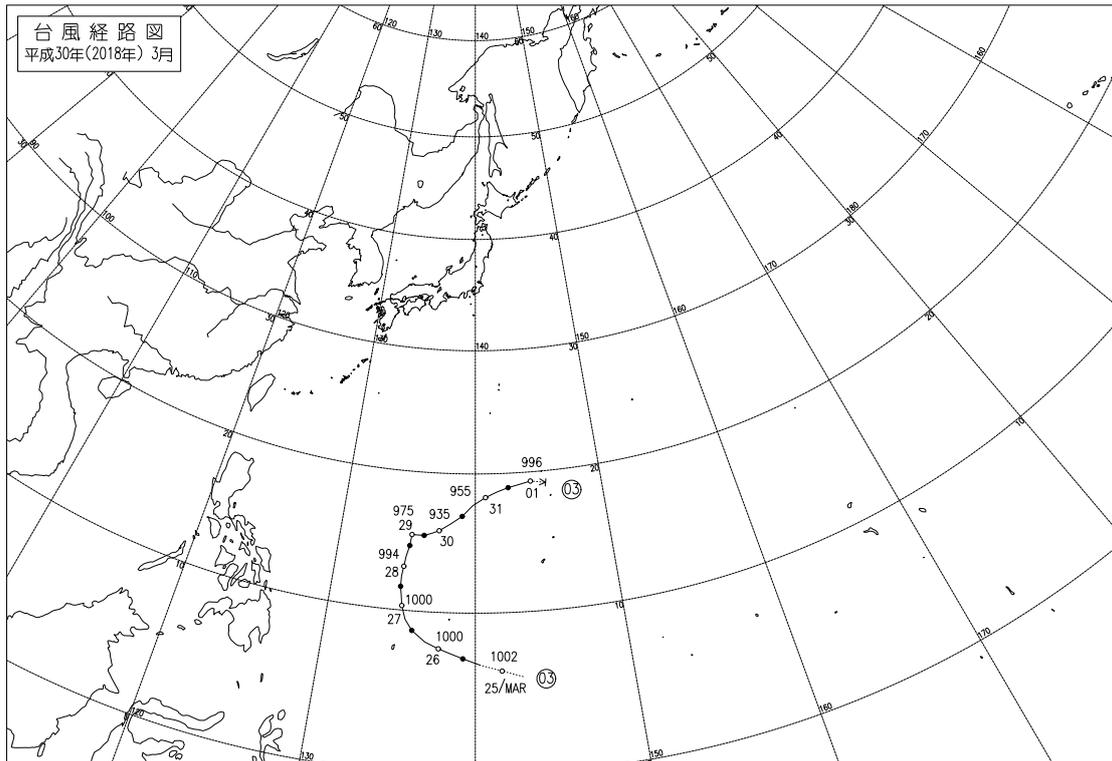
11月20日21時にチューク諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西に進み、21日03時に同海域にて台風第28号となり、次第に西北西へ加速した。台風は北へ進路を変え減速した後、ほとんど停滞して、24日21時に沖ノ島島近海にて勢力が最大となった。台風はその後同海域で12時間最大勢力を保った後、北西へ進み急速に勢力を弱め、26日21時に南大東島の南海上にて熱帯低気圧となり北へ進み、同海域にて27日09時に再び台風となり、同日15時に再び熱帯低気圧となった。熱帯低気圧は北東へ加速し、28日15時に父島の西海上にて温帯低気圧となり、進路を北東を保ったまま、30日21時に東経180度を越えた。

資料2-2-1 平成30年(2018年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)

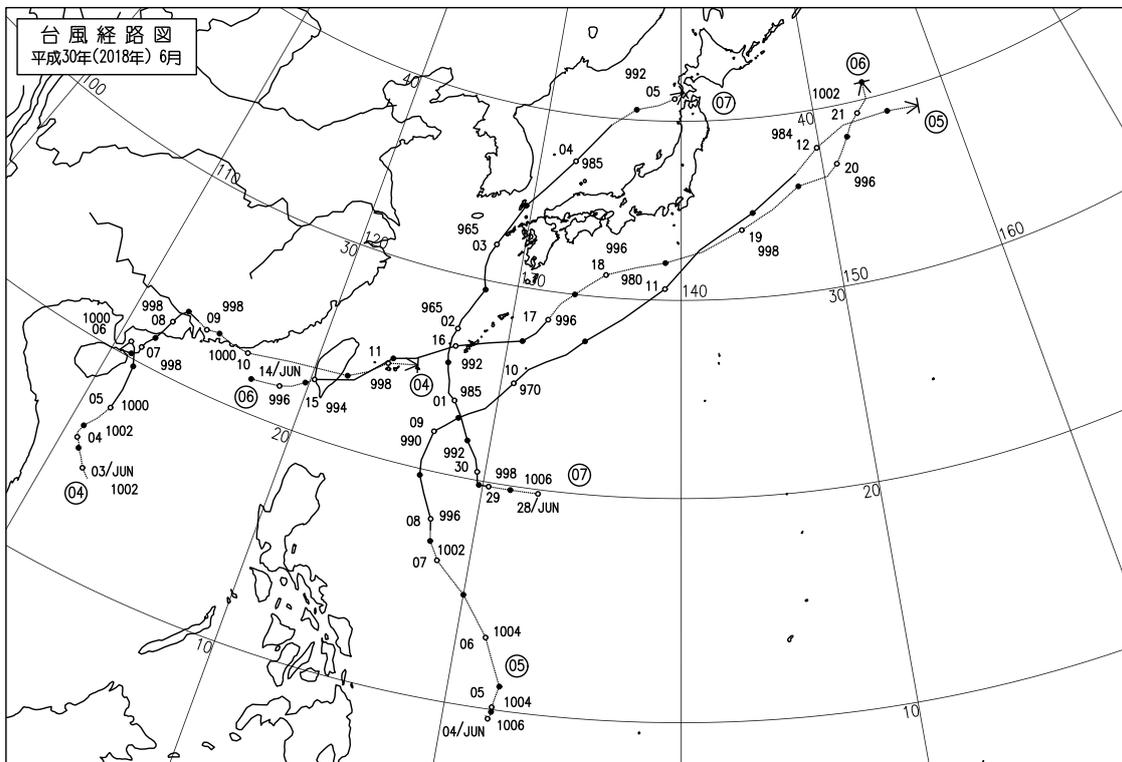
台風 番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500km以内に入った場合)			日本への接近 (台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合)			上陸、通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
5	6/9	6/11	沖縄・奄美、九州南部、近畿地方、東海地方、伊豆諸島、小笠原諸島、関東甲信地方、東北地方	6/10	6/11	沖縄地方、伊豆諸島、小笠原諸島、関東甲信地方	上陸または通過せず。
6	6/15	6/17	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、四国地方	6/15	6/17	沖縄・奄美、九州南部	上陸または通過せず。
7	6/30	7/4	沖縄・奄美、西日本、東海地方、関東甲信地方、北陸地方、東北地方	7/1	7/4	沖縄・奄美、西日本、北陸地方	上陸または通過せず。
8	7/9	7/11	沖縄・奄美	7/10	7/11	沖縄地方	上陸または通過せず。
10	7/19	7/22	沖縄・奄美、九州南部	7/20	7/21	沖縄・奄美	21日08時過ぎ、沖縄県沖縄本島を通過した。
12	7/26	8/2	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	7/27	8/2	沖縄・奄美、西日本、東日本	29日01時頃、三重県伊勢市付近に上陸した。 29日18時前、福岡県豊前市付近に再上陸した。 29日23時頃、長崎県島原半島を通過した。
13	8/6	8/10	近畿地方、東日本、北日本	8/8	8/10	東日本、東北地方	上陸または通過せず。
14	8/10	8/13	沖縄・奄美	8/10	8/12	沖縄・奄美	上陸または通過せず。
15	8/12	8/15	奄美地方、西日本、東海地方、伊豆諸島、小笠原諸島	8/14	8/15	九州南部、九州北部地方、四国地方、中国地方	15日2時半頃、宮崎県日向市付近に上陸した。
18	8/15	8/16	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方	8/15	8/15	沖縄・奄美	上陸または通過せず。
19	8/17	8/25	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、中国地方、伊豆諸島、小笠原諸島、北陸地方	8/21	8/24	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方	上陸または通過せず。
20	8/22	8/24	西日本、東日本、北日本	8/23	8/24	西日本、東海地方、関東甲信地方、北陸地方、北日本	23日21時頃、徳島県南部に上陸した。 23日23時半頃、兵庫県姫路市付近に再上陸した。
21	9/2	9/5	沖縄・奄美、西日本、東日本、北日本	9/3	9/5	沖縄地方、西日本、東海地方、関東甲信地方、北陸地方、北日本	4日12時前、徳島県南部に上陸した。 4日14時前、兵庫県神戸市付近に再上陸した。
24	9/27	10/1	沖縄・奄美、西日本、東日本、北日本	9/28	10/1	沖縄・奄美、西日本、東日本、北日本	30日20時頃、和歌山県田辺市付近に上陸した。
25	10/3	10/6	沖縄・奄美、西日本、東海地方、北陸地方	10/4	10/6	沖縄・奄美、九州北部地方、中国地方	上陸または通過せず。
28	11/27	11/27	沖縄地方	11/27	11/27	沖縄地方	上陸または通過せず。

台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。

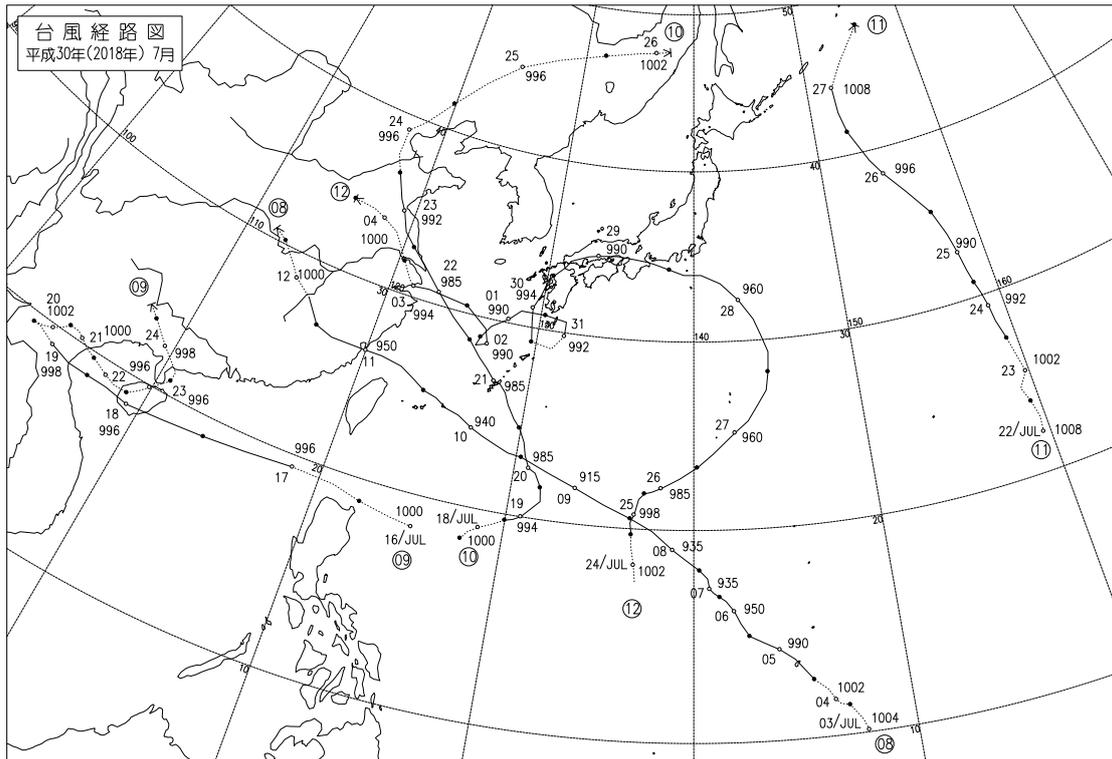
台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。



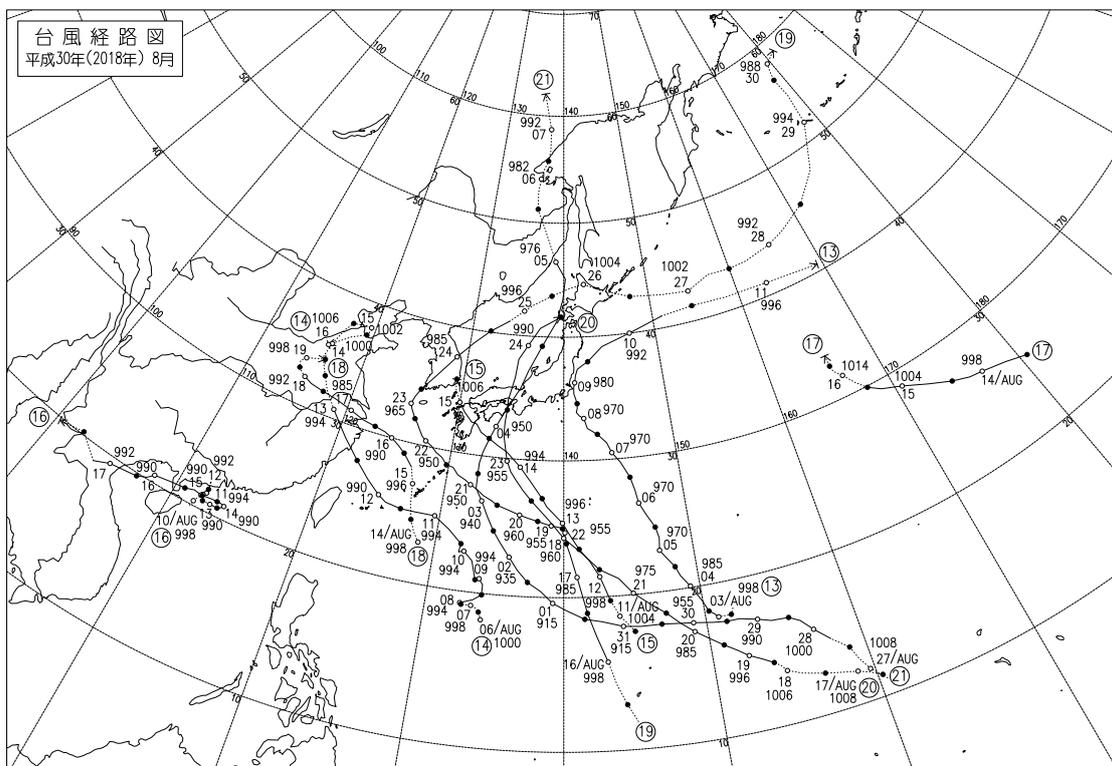
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



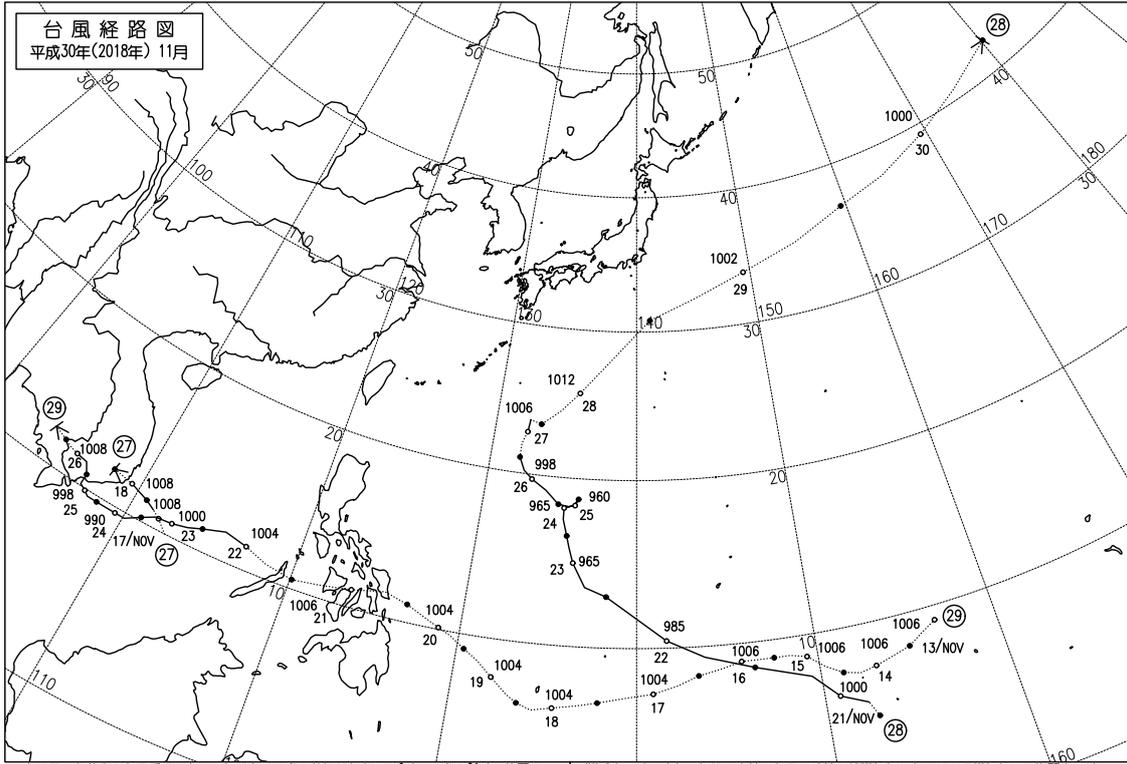
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は2時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は2時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

3 平成30年（2018年）の天気概況

1月

冬型の気圧配置の影響で、山陰から北陸地方、北日本にかけて雪や雨、北陸地方や伊豆諸島では一部で暴風（1日～4日）

1日は、関東の東から日本の東に低気圧が進み冬型の気圧配置（以下、冬型）となった。この影響で、山陰から近畿地方の日本海側で雨や雪となり、北陸地方や北日本で雪となった。2日から3日は、冬型や寒気の影響で、山陰から北陸地方、北日本で雪や雨となった。また、北陸地方や伊豆諸島では暴風となったところがあり、北海道で強風となったところがあった。4日は、冬型の影響で、山陰から北日本にかけての日本海側で雪や雨となった。一方、華南から南西諸島付近にのびる前線の影響で、先島諸島では雨となった。

低気圧の影響で西日本や関東地方の太平洋側で雨、その後、寒気の影響で山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨（5日～6日）

5日は、奄美地方付近から日本の南に進んだ低気圧の影響で、西日本や関東地方の太平洋側では雨となった。また、寒気の影響で、北陸地方から北日本では雪となったところがあった。6日は、日本の南を低気圧が東へ進み、日本付近は冬型となったため、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨となった。また、前線の影響で沖縄地方では雨となった。

前線や発達した低気圧の影響で沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側で雨、山陰から北陸地方、北日本では雪や雨、西日本や伊豆諸島では一部で大雨、西日本から北日本では一部で暴風（7日～9日）

7日は、南シナ海から沖縄付近にのびる前線の影響で、沖縄・奄美から九州を中心に雨となった。また、寒気の影響で北陸地方から北日本では雪となった。8日は、前線を伴った低気圧が日本海西部と四国の南をともに北東に進んだため、沖縄・奄美から東北地方で雨となり、西日本や伊豆諸島では大雨となったところがあった。9日は、北海道付近にある低気圧が発達しながら北東へ進み、この低気圧からのびる前線が日本付近を通過した。この影響で沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側を中心に雨となり、山陰から北陸地方、北日本では雪や雨となった。また、西日本から北日本で暴風となったところがあり、北陸地方や東北地方では雷を伴ったところがあった。

冬型の気圧配置の影響で九州から近畿地方を中心に雨、北陸地方から北日本にかけての日本海側を中心に雪、北陸地方の一部で大雪、九州や北海道では一部で暴風（10日～15日）

10日は、日本付近は冬型となったため、九州から近畿地方を中心に雨となり、山陰から北陸地方、北日本で雪となった。九州や北海道では暴風となったところがあり、九州や北陸地方では雷を伴ったところがあった。11日から12日は、冬型が続いたため、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪となり、北陸地方では大雪となったところがあった。また、沖縄・奄美から西日本の太平洋側を中心に雨となり、北陸地方では雷を伴ったところや北海道では強風となったところがあった。13日は、寒気の影響で山陰から北日本の日本海側で雪となり、沖縄・奄美では雨となった。また、北陸地方では雷を伴ったところがあった。西日本から北日本の太平洋側では、高気圧に覆われて概ね晴れた。14日は、寒気の影響で山陰から北日本の日本海側で雪や雨となった。その他の地域は高気圧に覆われて概ね晴れた。15日は、日本海にある気圧の谷や寒気の影響で、北陸地方から北日本で雪や雨となり、北海道では強風となったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われて概ね晴れた。

低気圧や前線の影響で沖縄・奄美から東日本で雨、東海地方の一部で大雨、その後、冬型の気圧配置となり、北陸地方から北日本では雪や雨（16日～18日）

16日は、東シナ海の前線を伴った低気圧の影響で、先島諸島や九州北部地方から中国地方を中心に雨となった。また、日本海中部の低気圧の影響で、北陸地方や北日本で雪や雨となった。17日は、日本付近を東へ進んだ前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から東日本では雨となり、東海地方では大雨となった。また、山陰から北日本にかけての日本海側では雪や雨となった。18日は、日本海中部にある低気圧や寒気の影響で、北陸地方や北日本では雪や雨となった。また、湿った空気の影響で、先島諸島で雨となった。その他の地域は高気圧に覆われて概ね晴れた。

寒気や気圧の谷の影響で、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨（19日～21日）

19日から20日は、寒気や気圧の谷の影響で、北陸地方から北日本の日本海側を中心に雪や雨となった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨となった。21日は、寒気の影響で、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨となった。その他の地域は高気圧に覆われて概ね晴れた。

低気圧の影響で関東地方や東北太平洋側で雪、その後、強い冬型となり、山陰から北陸地方、北日本では雪、北陸地方や東北地方の一部で大雪、西日本や東日本の一部で暴風（22日～27日）

22日は、本州南岸を北東へ進んだ低気圧や日本海中部の低気圧の影響で、山陰から北日本で雪となり、関東地方では大雪となったところがあった。また、関東地方では暴風となったところがあり、沖縄・奄美から西日本の太平洋側では雨となった。23日は、日本海北部と日本の東の低気圧がともに発達しながら北に進み、日本付近は強い冬型となった。この影響で、山陰から北陸地方、北日本では雪となり、西日本から東日本の太平洋側では雨となったところがあった。また、西日本や東日本では暴風、北海道では強風となったところがあり、北陸地方では雷を伴ったところがあった。24日から27日は、日本付近は強い冬型が続いたため、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪となり、北陸地方や東北地方では大雪となったところがあった。また、沖縄・奄美では雨となったところがあった。北陸地方では暴風や雷を伴ったところがあり、北日本では強風となったところがあった。

低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美から近畿地方で雨、北陸地方や北日本で雪や雨（28日～31日）

28日は、日本海中部の低気圧や南西諸島付近の前線の影響で、沖縄・奄美から近畿地方では雨となり、北陸地方や北日本では雪や雨となった。また、沖縄・奄美では強風となったところがあった。29日は、沖縄の南にのびる前線の影響で沖縄・奄美や九州南部で雨となった。一方、千島近海の前線を伴った低気圧や寒気の影響で、山陰から北日本で雪や雨となった。30日は、日本付近は冬型となったため、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪となった。その他の地域は高気圧に覆われて概ね晴れた。31日は、気圧の谷や寒気の影響で北陸地方から北日本の日本海側を中心に雪となった。また、南西諸島付近の前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美では雨となった。

2月

前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側を中心に雨、関東甲信で雪、伊豆諸島では暴風（1日～2日）

1日から2日は、前線を伴った低気圧が南西諸島付近から日本の南を東に進んだ。この影響で、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側を中心に雨となり、関東甲信では雪となった。また、寒気や気圧の谷の影響で、山陰から北日本で雪や雨となったところがあった。伊豆諸島では暴風となり、沖縄・奄美では強風となったところがあった。

強い冬型の気圧配置が続いた影響で、北日本から西日本の日本海側を中心に雪、北陸地方では一部で大雪（3日～8日）

3日から4日は、日本海を北東に進んだ低気圧や寒気の影響で、山陰から北陸地方、北日本では雪となり、沖縄・奄美では雨となった。また、九州では強風となり、北陸では雷を伴ったところがあった。5日から6日は強い冬型の気圧配置（以下、強い冬型）となった影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本を中心に雪で、北陸地方では大雪となり雷を伴ったところがあった。また、九州では強風となったところがあった。7日から8日は、冬型の気圧配置（以下、冬型）が続き、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪となり、北陸地方では雷を伴ったところがあった。

西日本から北日本にかけて高気圧に覆われて概ね晴れるが、その後、前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から東日本の太平洋側を中心に雨や雪（9日～10日）

9日は、冬型が緩み、西日本から北日本にかけて高気圧に覆われて概ね晴れたが、寒気や気圧の谷の影響で、北陸地方から北日本にかけて雪となったところがあった。10日は、四国沖を北東へ進んだ前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から東日本の太平洋側を中心に雨や雪となった。また、気圧の谷の影響で、北日本では雪となったところがあった。

強い冬型の気圧配置の影響で、西日本及び北陸地方から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨、北

陸地方や東北地方では一部で大雪、北陸地方では一部で暴風（11日～14日）

11日から13日は、強い冬型となった影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨が続き、北陸地方や東北地方では大雪となったところがあった。また、伊豆諸島や西日本から北日本にかけて、強風となったところや中国地方では雷を伴ったところがあった。14日は、冬型が緩み、西日本から東日本にかけて、高気圧に覆われて概ね晴れたが、日本海中部を東へ進んだ前線を伴った低気圧の影響で、北陸地方から北日本では雪となった。北陸地方では暴風となったところがあり、東北地方では強風となったところがあった。

前線の影響で沖縄・奄美から西日本の太平洋側にかけて雨、その後、冬型の気圧配置の影響で、山陰から北陸地方、北日本にかけて雪、東日本や北日本では一部で暴風（15日～18日）

15日は、北日本を東へ進んだ低気圧からのびる前線が日本付近を通過し、一時的に冬型となった。この影響で、九州を中心に雨となり、北陸地方から北日本では雪となった。また、伊豆諸島では暴風となり、東北地方では強風となったところがあった。16日は、本州南岸に停滞した前線や前線上に発生した低気圧の影響で、沖縄・奄美から西日本の太平洋側にかけて雨となった。また、寒気の影響で、北陸地方から北日本では雪となった。17日は、日本海北部にある前線を伴った低気圧や冬型の影響で、山陰から北陸地方、北日本にかけて雪となり、東日本や北日本では暴風となったところがあった。18日は、北日本中心の冬型の影響で、北陸地方から北日本では雪となり、北日本では暴風となったところがあったが、西日本や東海・関東地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線の影響で沖縄・奄美から四国地方にかけて雨、寒気や気圧の谷の影響で、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪（19日～22日）

19日から20日は、華南から日本の南にのびる前線の影響で、奄美地方から四国地方にかけて雨となった。また、寒気や気圧の谷の影響で、北陸地方から北日本では雪となった。21日は、日本の南にのびる前線の影響で、沖縄・奄美から九州南部にかけて雨となった。また、寒気や気圧の谷の影響で、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雪となった。22日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美や関東地方で雨となった。また、寒気や気圧の谷の影響で、山陰から北日本の日本海側にかけて雪となったところがあった。

前線を伴った低気圧の影響で、北陸地方から北日本で雪、北海道では一部で強風（23日～24日）

23日は、日本海北部を北東に進んだ前線を伴った低気圧の影響で、北陸地方から北日本で雪となり、北海道では強風となったところがあった。寒気や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や関東地方で曇りや雨となった。24日は、日本海中部から三陸沖に進んだ前線を伴った低気圧の影響で、北陸地方から北日本で雪となり、北海道では強風となったところがあった。

前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から近畿地方にかけての太平洋側を中心に雨、寒気の影響で、北陸地方から北日本を中心に雪（25日～28日）

25日から26日は、前線を伴った低気圧が日本の南を東に進んだ。この影響で、沖縄・奄美から近畿地方にかけての太平洋側を中心に雨となった。また、寒気の影響で、北陸地方から北日本では雪となったところがあった。27日は、日本海から東北地方へ進んだ低気圧や寒気の影響で、北陸地方や東北地方を中心に雪となった。その他の地域は高気圧に覆われて概ね晴れた。28日は、前線を伴った低気圧が発達しながら黄海から朝鮮半島付近に進んだ。この影響で、沖縄・奄美から西日本及び東日本の太平洋側で雨となり、北陸地方や北日本では雪となった。また、九州・四国地方では暴風となり、九州では雷を伴ったところがあった。

3月

発達した低気圧の影響で、西日本から北海道にかけて雨や雪、北海道では一部で大雪、四国地方から北海道にかけて暴風、その後冬型の気圧配置となり、東日本から北日本の日本海側を中心に雪（1日～2日）

1日は、前線を伴った低気圧が発達しながら北日本を北東に進んだ。この影響で、西日本から北海道にかけて雨や雪で、北海道では一部で大雪となった。四国地方から東北地方にかけて暴風となったところがあり、東海地方や関東地方では雷を伴ったところがあった。2日は、次第に冬型の気圧配置(以下、冬型とする)となり、東日本から北日本の日本海側を中心に雪となった。また、東北地方では雷を伴ったところがあった。

前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨、沖縄・奄美では一部で大雨（3日

～4日)

3日は、前線を伴った低気圧が、東シナ海から九州の南に進んだ。この影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨となり、沖縄・奄美では大雨となったところがあった。一方、北海道では低気圧の影響で、雪で強風となったところがあったが、次第に高気圧に覆われて概ね晴れた。4日は、前線が北日本を通過した影響で、北海道では雨や雪となった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、四国地方から東海地方では一部で大雨、その後次第に高気圧に覆われて全国的に概ね晴れ(5日～7日)

5日は、前線を伴った低気圧が本州上を通過した影響で、全国的に雨となり、四国地方から東海地方にかけて大雨となったところがあった。また、東海地方や関東地方では強風となったところがあった。6日は、北日本中心の冬型となり、北海道では雪となったところがあったが、その他の地域では、高気圧に覆われて概ね晴れた。7日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から四国地方や小笠原諸島では雨となったところがあったが、その他の地域は高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線を伴った低気圧の影響で、全国的に雨、四国地方から北海道では一部で大雨(8日～9日)

8日から9日は、前線を伴った低気圧が、西日本から北日本を北東に進んだ。この影響で全国的に雨となり、四国地方から北海道にかけて大雨となったところがあった。また、九州や北海道では強風となったところや、東海地方では雷を伴ったところがあった。

気圧の谷や低気圧の影響で、東日本から北日本の日本海側を中心に雨や雪、その後、前線の影響で北海道の一部で雨や雪(10日～14日)

10日は、気圧の谷の影響で、関東甲信地方や北陸地方で雨や雪となったところがあったが、次第に高気圧に覆われて、全国的に概ね晴れた。11日から12日は、日本海の低気圧が東に進んだ影響で、北陸地方から北日本の日本海側を中心に雨や雪となったが、その他の地域は高気圧に覆われて概ね晴れた。13日から14日は、前線を伴った低気圧がサハリン付近を通過した影響で、北海道では雨や雪となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線の影響で、沖縄・奄美や西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨、その後、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れ(15日～18日)

15日から16日は、日本海北部の低気圧から大陸にのびる前線が東に進んだ。この影響で、沖縄・奄美から北日本にかけての日本海側を中心に雨となった。一方、北海道では冬型となり、雪となったところがあった。17日から18日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れたが、沖縄・奄美から四国地方の一部では、気圧の谷や前線の影響で雨となった。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、四国地方や東海地方では一部で大雨(19～22日)

19日は、前線を伴った低気圧が、朝鮮半島南部から四国沖へと進んだ。この影響で、沖縄・奄美から東日本で雨となった。また、サハリン付近にある前線を伴った低気圧が東に進んだ影響で、北海道では雨で強風となったところがあった。20日から21日は、前線を伴った低気圧が本州南岸を東に進んだ影響で、沖縄・奄美から東日本を中心に雨となり、四国や東海地方の一部では大雨となった。近畿地方や伊豆諸島では強風となり、沖縄・奄美や四国地方では雷を伴ったところがあった。また、北海道では冬型となり、雪となったところがあった。22日は、低気圧や寒気の影響で、九州北部地方から東北地方を中心に雨や雪となった。

気圧の谷の影響で、東日本から北日本にかけて雨や雪、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れ(23日～24日)

23日は、気圧の谷や寒気の影響で、北陸地方から東北地方にかけての日本海側では雨や雪となった。また、関東甲信地方の太平洋側では、気圧の谷や湿った空気の影響で、雨となったところがあった。24日は、気圧の谷の影響で、関東地方や東北地方では雨となったところがあり、関東地方では雷を伴ったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

気圧の谷や前線の影響で、東日本や北日本の一部で雨となるが、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れ(25日～31日)

25日は、気圧の谷の影響で、関東地方の一部や、北日本の日本海側で雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。26日から27日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れたが、沖縄・奄美の一部では、湿った空気の影響で雨が降ったところがあった。28日は、西日本から東日本にかけては高気圧に覆われて概ね晴れたが、サハリン付近の低気圧や前線の影響で、北海道は曇りとなったところがあった。29日は、本州付近を通過した前線の影響で、北陸地方や北日本の一部で雨となったが、その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。30日から31日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れたが、湿った空気の影響で、沖縄地方の一部では雨となった。

4月

気圧の谷や前線の影響で北日本では雨、その後、前線の影響で、中国地方から東北地方の日本海側を中心に雨（1日～4日）

1日から2日は、気圧の谷や低気圧の影響で、北日本では雨となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。3日は、サハリン付近の低気圧からのびる寒冷前線が日本海を南下した影響で、北日本の日本海側では雨や雪となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。4日は、寒冷前線が本州付近を南下した影響で、中国地方から東北地方の日本海側を中心に雨となり、北日本では雪となったところがあった。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨（5日～6日）

5日は、華中から西日本にのびる前線の影響で、西日本から東日本にかけて雨となったところがあった。6日は、前線を伴った低気圧が西日本から三陸沖に進んだ影響で、全国的に雨となり、北日本では雪となったところがあった。また、関東地方では一部で強風となった。

気圧の谷や寒気の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨、九州では一部で暴風、その後、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れ（7日～10日）

7日から8日は、気圧の谷や寒気の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨となり、北海道では雪となった。西日本から東日本にかけての太平洋側や伊豆諸島では一部で強風となり、九州では一部で暴風になった。また、北陸では雷を伴ったところがあった。9日は、気圧の谷の通過により、中国地方から北海道にかけての日本海側で雨や雪となり、北日本では雷を伴ったところがあった。10日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線の影響で、東日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨、湿った空気の影響で、沖縄・奄美では一部で大雨（11日～13日）

11日から12日は、寒冷前線が本州付近を通過した影響で、東日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨となった。一方、湿った空気の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨となったところがあり、沖縄・奄美の一部では大雨となった。また、北海道では一部で強風となり、沖縄・奄美、東海地方や北陸地方では雷を伴ったところがあった。13日は、湿った空気の影響で、沖縄地方では雨となった。一方、気圧の谷や寒気の影響で、北陸や北日本では雨となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、九州や東海地方では一部で大雨、四国地方や東海地方では一部で暴風（14日～16日）

14日から15日は、前線を伴った低気圧が発達しながら日本海を北東に進んだ。この影響で、全国的に雨となり、九州や東海地方では一部で大雨となった。一方、北海道では雪となったところがあった。関東地方や北陸地方では一部で強風となり、四国地方や東海地方では一部で暴風となった。16日は、気圧の谷や寒気の影響で、北陸地方から北海道にかけての日本海側を中心に雨や雪となった。

前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨、その後、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れ（17日～20日）

17日から18日は、前線を伴った低気圧が先島諸島付近から関東の東へ進んだ。この影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となった。19日から20日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れた。

湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨、低気圧の影響で北日本では一部で暴風、その他の地域では高気

庄に覆われて概ね晴れ（21日～23日）

21日から22日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨となり、雷を伴ったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。一方、サハリン付近の低気圧の影響で、北日本では一部で暴風となった。23日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となったところがあった。

前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、九州から東海地方にかけて一部で大雨、その後、気圧の谷の影響で、北陸から北日本にかけて日本海側を中心に雨（24日～27日）

24日から25日は、前線を伴った低気圧が東シナ海から三陸沖まで進んだ影響で、全国的に雨となり、九州から東海地方にかけて一部で大雨となった。また、東海地方では一部で強風となり、沖縄・奄美では雷を伴ったところがあった。26日は、気圧の谷の影響で、北陸から北日本にかけて日本海側を中心に雨となった。27日は、気圧の谷の影響で、近畿地方や関東甲信地方では雨となったところがあり、その他の地域では、概ね曇りとなった。

全国的に高気圧に覆われて概ね晴れ（28日～30日）

28日から29日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れた。30日は、湿った空気の影響で沖縄・奄美では雨となったところがあった。また、オホーツク海の低気圧からのびる寒冷前線の影響で、北海道では雨となったところがあった。

5月

前線や低気圧の影響で全国的に雨、九州や東海地方では一部で大雨、その後、寒気や気圧の谷の影響で中国地方から北陸地方にかけての日本海側や北日本で雨（1日～5日）

1日は、湿った空気の影響で、九州を中心に雨となった。また、寒冷前線の影響で、北海道では雨となったところがあったが、その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。2日から3日は、前線を伴った低気圧が黄海から北海道の東へ進んだ影響で、全国的に雨となり、九州や東海地方では一部で大雨となった。中国地方や近畿地方、北海道では一部で強風となり、九州や中国地方では雷を伴ったところがあった。4日から5日は、寒気や気圧の谷の影響で、中国地方から北陸地方にかけての日本海側や北日本では雨となった。北陸地方では一部で強風となり、北陸地方や東北地方では雷を伴ったところがあった。その他の地域は高気圧に覆われ概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で沖縄を除いて全国的に雨、西日本では一部で大雨、その後、前線を伴った低気圧の影響で、北海道を除いて全国的に雨、奄美地方、九州南部や伊豆諸島では一部で大雨（6日～10日）

6日から7日は、前線を伴った低気圧が、黄海から西日本へ進んだ。また、北海道付近を低気圧が東に進んだ。これらの影響で、沖縄地方を除いて全国的に雨となり、九州、四国地方や近畿地方では一部で大雨となった。また、九州地方では雷を伴ったところがあった。8日から9日は、前線を伴った低気圧が本州南岸を東へ進んだ影響で、北海道を除いて全国的に雨で、奄美地方、九州南部や伊豆諸島では一部で大雨となった。また、沖縄・奄美では雷を伴ったところがあった。10日は、寒気を伴った気圧の谷の影響で、東日本から北日本にかけて雨となり、関東地方では雷を伴ったところがあった。

全国的に高気圧に覆われて概ね晴れ、低気圧の影響で東北地方の一部で暴風、その後、前線や低気圧の影響で、西日本から北日本で雨、近畿地方では一部で大雨（11日～14日）

11日は、低気圧の影響で、北日本では雨となったところがあり、東北地方では一部で暴風となったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。12日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美や東北地方では雨や曇りとなったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。13日から14日は、前線を伴った低気圧が西日本から北日本を東に進んだ。また、沿海州の低気圧が東に進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、近畿地方では一部で大雨となった。

高気圧に覆われ全国的に概ね晴れ、その後、前線の影響で西日本から北日本にかけて雨、東海地方や東北地方では一部で大雨（15日～19日）

15日から16日は、高気圧に覆われ全国的に概ね晴れたが、気圧の谷の影響で、西日本から北日本の日本海側を中心に曇りとなったところがあった。17日は、オホーツク海南部にある低気圧からのびる前線が北日本へ南下した。この影響で、北陸から北日本にかけての日本海側を中心に雨となった。18日から19日は、前線が北

日本から本州の南まで南下した影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、東北地方では一部で大雨となった。東海地方や東北地方では一部で強風となり、西日本や北陸地方、東北地方では雷を伴ったところがあった。

湿った空気や気圧の谷の影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れ（20日～22日）

20日は、奄美付近に前線が停滞し、奄美地方や九州南部で雨となった。気圧の谷や寒気の影響で北陸地方や東北地方では雨となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。21日から22日は、湿った空気や気圧の谷の影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨となったところがあった。九州では一部で強風となり、沖縄・奄美では雷を伴ったところがあった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線の影響で、西日本から東日本を中心に雨、その後、気圧の谷の影響で、北日本で雨、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れ（23日～25日）

23日から24日は、前線を伴った低気圧が、本州の南を東に進んだ。この影響で、全国的に雨となり、沖縄・奄美では雷を伴ったところがあった。25日は、気圧の谷の影響で、北日本では雨となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美や九州で雨、九州では一部で大雨（26日～28日）

26日は、日本の南に停滞する前線の影響で、奄美地方や九州で雨となり、九州では一部で大雨となった。また、小笠原諸島では雷を伴ったところがあった。27日は、日本の南に停滞した前線が南下した影響で、沖縄地方では雨となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。28日は、前線を伴った低気圧が、東シナ海から九州南部を通過した。この影響で、沖縄・奄美や九州では雨となった。その他の地域では、気圧の谷や湿った空気の影響で、曇りや雨となった。

前線の影響で西日本から東日本の太平洋側を中心に雨、その後、気圧の谷や湿った空気の影響で全国的に雨（29日～31日）

29日から30日は、日本の南に停滞した前線上を低気圧が北東に進んだ影響で、西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、北日本では雷を伴ったところがあった。31日は、日本の南に停滞した前線や、寒気を伴った気圧の谷の影響で、全国的に雨となった。また、西日本から北日本では雷を伴ったところがあった。

6月

前線の影響で沖縄・奄美で雨、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れ（1日～4日）

1日は、前線が先島諸島付近に停滞した影響で、沖縄・奄美で雨となり、沖縄地方では雷を伴ったところがあった。また、気圧の谷や寒気の影響で、北陸地方や東北地方で雨となった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。2日から4日は、前線が先島諸島付近に停滞した影響で、沖縄・奄美や小笠原諸島では雨となり、沖縄地方では雷を伴ったところがあった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で沖縄・奄美から東日本にかけて雨、奄美地方や四国地方では一部で大雨、低気圧の影響で北日本で雨（5日～9日）

5日から6日は、日本の南に停滞した前線が本州南岸まで北上し、前線上を低気圧が東に進んだ影響で、西日本から東日本にかけて雨となった。また、気圧の谷の影響で、北海道では雨となったところがあり、雷を伴ったところがあった。7日は、前線が日本の南に停滞したため、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に雨となり、奄美地方では一部で大雨となった。8日から9日は、日本の南に停滞した前線が本州南岸まで北上した影響で、西日本から東日本にかけて雨となり、四国地方では一部で大雨となった。また、日本海の低気圧が東に進んだ影響で、北日本では雨や曇りとなった。西日本から北日本にかけて、雷を伴ったところがあった。さらに、台風第5号の接近による湿った空気の影響で、沖縄地方や小笠原諸島では次第に雨となった。

台風第5号や前線の影響で全国的に雨、九州南部や伊豆諸島では一部で大雨、その後寒気や気圧の谷の影響で、西日本から北日本の日本海側を中心に雨（10日～13日）

10日から11日は、沖縄付近から関東の東海上へと進んだ台風第5号や前線の影響で、北海道を除いて全

国的に雨となった。九州南部や伊豆諸島では一部で大雨となり、沖縄地方や九州では雷を伴ったところがあった。12日は、寒気を伴った気圧の谷の影響で、西日本から北日本の日本海側を中心に雨となり、関東地方では雷を伴ったところがあった。なお、台風第5号は12日3時に温帯低気圧に変わった。13日は、北日本の低気圧や寒気の影響で、北陸地方や北日本では雨となった。また、日本の南にある前線の影響で、沖縄地方で雨となったところがあった。

前線を伴った低気圧と台風第6号の影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本の太平洋側を中心に雨、沖縄・奄美や伊豆諸島では一部で大雨、奄美地方では一部で暴風（14日～18日）

14日から15日は、前線を伴った低気圧が日本の南を東に進んだ。また、台風第6号が台湾付近で発生し、先島諸島を東に進んだ。これらの影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、沖縄・奄美では一部で大雨や強風となった。また、気圧の谷や寒気の影響で、北日本で雨となったところがあった。16日は、台風第6号が南西諸島を北東に進んだ影響で、沖縄・奄美では一部で大雨や強風となり、奄美地方では一部で暴風となった。また、湿った空気や気圧の谷の影響で、東日本太平洋側を中心に雨となった。17日から18日は、台風第6号が日本の南で温帯低気圧となった後、前線をともなって日本の南を北東に進んだ。この影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に雨となり、伊豆諸島では一部で大雨となった。また、気圧の谷の影響で、北海道で雨となった。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、沖縄・奄美及び西日本から東海地方の太平洋側では一部で大雨（19日～22日）

19日は、前線が九州付近に北上した影響で、奄美地方から近畿地方にかけて雨となったほか、九州では一部で大雨となり、雷を伴ったところがあった。20日は、本州南岸に停滞した前線や、前線上を東に進んだ低気圧の影響で、全国的に雨で、九州から東海地方にかけての太平洋側では一部で大雨となり、九州では雷を伴ったところがあった。21日は、本州南岸の前線が停滞し、前線上を低気圧が北東へ進んだ。これらの影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、奄美地方や九州南部では一部で大雨となった。また、気圧の谷や寒気の影響で、北日本で雨となり、北海道では雷を伴ったところがあった。22日は、前線が奄美地方付近に停滞した影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨となり、一部では大雨となった。また、気圧の谷や寒気の影響で、北海道で雨となった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で沖縄・奄美及び西日本から東日本の太平洋側を中心に雨、奄美地方や九州南部、近畿地方では一部で大雨（23日～25日）

23日から24日は、本州南岸に前線が停滞し、前線上を低気圧が東に進んだ。これらの影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、奄美地方や九州南部、近畿地方では一部で大雨となった。また、前線を伴った低気圧がサハリン付近を東に進んだ影響で、北海道で雨となった。奄美地方、九州、北海道では雷を伴ったところがあった。25日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨となり、奄美地方では雷を伴ったところがあった。また、気圧の谷の影響で、北日本では雨となったところがあった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

気圧の谷や湿った空気の影響で九州を中心に雨、一部で大雨、その後、前線や低気圧の影響で西日本から北日本の日本海側を中心に雨、九州や東海地方、北日本では一部で大雨（26日～28日）

26日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、九州を中心に雨で、一部で大雨となり、四国地方から北陸地方にかけては雨となったところがあった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。27日は、前線を伴った低気圧が日本海から千島近海へ進んだ影響で、西日本から北日本の日本海側を中心に雨や曇りとなり、北日本では一部で大雨となった。沖縄・奄美は高気圧に覆われて概ね晴れた。28日は、山陰沖から北日本に前線が停滞した影響で、西日本から北日本の日本海側を中心に雨で、九州や東海地方では一部で大雨となり、中国地方や近畿地方では雷を伴ったところがあった。

前線や台風第7号の影響で全国的に雨、西日本や東海地方では一部で大雨、関東地方は高気圧に覆われて晴れ（29日～30日）

29日から30日は、前線が日本海に停滞した。また、台風第7号が沖縄地方に向かって北西に進んだ。これらの影響で、関東地方を除いて全国的に雨で、西日本や東海地方では一部で大雨となり、奄美地方から北陸地方、東北地方では一部で雷を伴ったところがあった。一方、関東地方は高気圧に覆われて概ね晴れた。

7月

台風第7号や前線の影響で全国的に雨、沖縄・奄美や西日本、東日本、北海道では一部で大雨、沖縄・奄美や九州では一部で暴風（1日～4日）

1日から3日は、台風第7号が沖縄本島付近を北上した後九州の西海上を通過して、日本海西部へと進んだ。この影響で、沖縄・奄美や西日本から東海地方を中心に雨となり、沖縄・奄美や九州、四国地方では一部で大雨となった。また、沖縄・奄美や九州では一部で暴風となった。一方、北海道付近に前線が停滞した影響で、北海道や東北地方で雨となり、一部で大雨となった。湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、九州南部や甲信地方、東北地方では雷を伴ったところがあった。4日は、台風第7号は日本海を北西に進み、15時に日本海中部で温帯低気圧となった。この影響で全国的に雨となり、沖縄地方や西日本、東日本では一部で大雨となったほか、四国地方や北海道では雷を伴ったところがあった。

前線及び湿った空気の影響で、全国的に雨、沖縄地方や西日本、東日本や北海道では大雨（5日～8日）

5日は、低気圧や北日本から九州付近に停滞する前線、及び、湿った空気の影響で、全国的に雨となり、沖縄地方や西日本、東日本や北海道では一部で大雨となったところがあった。沖縄地方や四国地方では雷を伴ったところがあった。6日から8日は、華中から西日本を通り三陸沖へとのびる前線や、湿った空気の影響で、全国的に雨となり、西日本や東日本では大雨となったほか、四国地方や近畿地方では雷を伴ったところがあった。

台風第8号の影響で、沖縄地方では一部で大雨、暴風（9日～11日）

9日は、三陸沖から朝鮮半島付近にのびる前線の影響で、西日本から北日本にかけて雨となったところがあり、東日本では雷を伴ったところがあった。10日から11日は、台風第8号が先島諸島を北西に進んだ影響で、沖縄地方では一部で大雨、暴風となった。また、北海道付近の前線や低気圧の影響で、北海道を中心に雨となったほか、湿った空気によって大気の状態が不安定となり、関東地方では雷を伴ったところがあった。

気圧の谷の影響で東日本や北日本で雨、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れ（12日～14日）

12日は、気圧の谷の影響で、東日本や東北地方では雨となった。その他の地域では高気圧に覆われ概ね晴れたが、日中の気温上昇により大気の状態が不安定となり、九州では雷を伴ったところがあった。13日から14日は、気圧の谷の影響で北日本では雨や曇りとなったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

低気圧や気圧の谷の影響で北日本では雨や曇り、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れ（15日～19日）

15日から16日は、沿海州の低気圧が北海道付近を東に進んだ影響で、北海道では雨で、雷を伴ったところがあった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れたが、日中の気温上昇により大気の状態が不安定となり、関東地方では雷を伴ったところがあった。17日から18日は、気圧の谷の影響で、北日本では雨や曇りとなった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れたが、日中の気温上昇により大気の状態が不安定となり、近畿地方では雷を伴ったところがあった。19日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れた。

台風第10号の影響で、沖縄・奄美や九州、四国地方の太平洋側で雨、奄美地方では一部で大雨、気圧の谷の影響で、北日本で雨（20日～24日）

20日から21日は、台風第10号が沖縄本島付近を北西に進んだ影響で、沖縄・奄美や九州、四国地方の太平洋側で雨となり、奄美地方では一部で大雨となった。また、前線を伴った低気圧がサハリン付近を東に進んだ影響で、北海道では雨となったところがあった。22日は、湿った空気の影響で沖縄・奄美や九州、四国地方で雨となったところがあり、九州では雷を伴ったところがあった。また、気圧の谷の影響で、北海道で雨となったところがあった。23日から24日は、気圧の谷の影響で北日本では雨となったところがあった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れたが、日中の気温上昇により大気の状態が不安定となり、九州や関東地方では雷を伴ったところがあった。

全国的に高気圧に覆われて晴れ、その後、台風第12号の影響で、西日本から東日本の太平洋側を中心に雨、一部では大雨、東海地方や伊豆諸島では一部で暴風（25日～31日）

25日から27日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れたが、湿った空気の影響で不安定になり、西日本や東日本で雨となったところがあった。28日から29日にかけて、台風第12号が、伊豆諸島の東から本州南岸を

西に進み、九州北部へと進んだ影響で、西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、一部では大雨となった。また、近畿地方では一部で強風、東海地方や伊豆諸島では一部で暴風となった。30日から31日は、台風第12号の影響で、西日本の太平洋側を中心に雨となり、九州南部では一部で大雨となった。

8月

台風第12号の影響で、沖縄・奄美や九州地方から四国地方の太平洋側で雨、その後全国的に高気圧に覆われて晴れ（1日～3日）

1日から2日は、台風第12号が南西諸島付近に停滞した影響で、沖縄・奄美や九州地方から四国地方の太平洋側では雨となり、沖縄地方では雷を伴ったところがあった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れたが、日中の気温上昇により大気の状態が不安定になり、甲信地方では雨で雷を伴ったところがあった。3日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れたが、湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、沖縄地方や関東地方では雨で雷を伴ったところがあった。

前線の影響で、関東地方や北日本で雨、東北地方では一部で大雨（4日～6日）

4日は、中国東北区から北日本にのびる前線の影響で、東北北部から渡島半島で雨となった。また、湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、沖縄地方では雨で雷を伴ったところがあった。5日から6日は、前線が北日本から東日本へと南下した影響で、関東地方や東北地方を中心に雨となり、東北地方では一部で大雨となった。また、東日本や東北地方では雷を伴ったところがあった。

前線や台風第13号の影響で、関東地方から東北地方の太平洋側で雨となり、関東地方では一部で大雨、暴風（7日～10日）

7日は、関東の東に停滞した前線と、台風第13号からの湿った空気が流入した影響で、近畿地方から東北地方にかけての太平洋側で雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。8日から9日は、三陸沖に停滞した前線と、関東の東から三陸沖を北上した台風第13号の影響で、関東地方から東北地方の太平洋側で雨となり、関東地方では一部で大雨、暴風となった。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、山陰地方から北陸地方にかけてや北海道で雨となった。10日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、東日本から北日本で雨となり、関東地方では一部で大雨となり、雷を伴ったところがあった。

台風第14号の影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本の太平洋側を中心に雨、沖縄地方や九州南部では一部で大雨（11日～12日）

11日から12日は、先島諸島付近から東シナ海へ進んだ台風第14号や、台風周辺の湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となった。沖縄地方や九州南部では一部で大雨となり、沖縄地方や西日本、東日本では雷を伴ったところがあった。

湿った空気や前線の影響で、沖縄地方、西日本、東日本や北海道で雨（13日～14日）

13日から14日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美は雨となり、西日本から東日本にかけては雨や雷雨となったところがあった。また、北日本に停滞した前線の影響で、北海道で雨となった。

前線や台風第15号、台風第18号の影響で、全国的に雨、沖縄・奄美及び西日本の太平洋側、北陸地方から北日本の日本海側では一部で大雨、沖縄・奄美では一部で暴風（15日～17日）

15日から16日は、北日本に停滞する前線上に低気圧が発生し、発達しながら東に進んだ。また、台風第15号が15日2時半頃に宮崎県に上陸し、対馬近海で熱帯低気圧となった。さらに、台風第18号が、東シナ海を北西に進んだ。これらの影響で全国的に雨や雷雨となり、沖縄・奄美及び西日本の太平洋側、北陸地方から北日本の日本海側では一部で大雨となったほか、沖縄・奄美では一部で暴風となった。17日は、気圧の谷の影響で、北日本で雨となった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美及び九州地方や四国地方の太平洋側で雨や曇りとなり、沖縄地方では一部で大雨となった。

全国的に高気圧に覆われて概ね晴れ（18日～20日）

18日から19日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、沖縄地方と北海道で曇りや雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。20日は、湿った空気の影響で、西日本から東日本の太平洋側で雨となった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

台風第 19 号、台風第 20 号の影響で全国的に雨、奄美地方、西日本や東日本では一部で大雨、九州南部、近畿地方や北陸地方では一部で暴風（21 日～25 日）

21 日から 22 日は、台風第 19 号が奄美大島付近から九州の西海上を北西に進んだ影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本の太平洋側で雨となり、奄美地方、四国地方、近畿地方では一部で大雨となった。奄美地方や九州南部では暴風や強風となったところがあった。また、前線を伴った低気圧がサハリンを東に進んだ影響で、北海道で雨となり、雷を伴ったところがあった。23 日から 24 日は、台風第 19 号が対馬海峡付近から日本海に進んだ。また、台風第 20 号が 23 日 21 時頃に徳島県に上陸し、23 日 23 時半頃に兵庫県に再上陸し、その後日本海を北上し日本海北部で温帯低気圧に変わった。これらの影響で全国的に雨となり、西日本から東日本では一部で大雨となった。四国地方や東海地方では一部で強風となり、近畿地方、北陸地方では一部で暴風となった。九州南部では雷を伴ったところがあった。25 日は、台風から変わった低気圧や前線の影響で、北陸地方から北日本を中心に雨となり、九州北部地方、北陸地方や関東地方では雷を伴ったところがあった。また湿った空気の影響で、沖縄・奄美を中心に雨となった。

前線の影響で、北陸地方から北日本を中心に雨、北陸地方では一部で大雨（26 日～29 日）

26 日から 27 日は、華中から東北地方へのびる前線の影響で、北陸地方、関東地方や北日本で雨となり、関東地方や東北地方では雷を伴ったところがあった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨となった。28 日から 29 日は、北日本を北上した前線の影響で、北陸地方から北日本を中心に雨となり、北陸地方では一部で大雨となった。中国地方、近畿地方、東海地方や北陸地方では雷を伴ったところがあった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨となった。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、中国地方、北陸地方や東北地方では一部で大雨（30 日～31 日）

30 日から 31 日は、華中から東北地方へのびる前線や低気圧の影響で、全国的に雨や雷雨となり、中国地方、北陸地方や東北地方では一部で大雨となった。

9月

前線の影響で、西日本から東南海部を中心に雨、九州や中国地方では一部で大雨（1 日～2 日）

1 日から 2 日は、西日本から東日本に前線が停滞した影響で、西日本から東南海部を中心に雨で、九州や中国地方では一部で大雨となり、西日本から東日本では雷を伴ったところがあった。

台風第 21 号の影響で全国的に雨、西日本から東日本では一部で大雨、西日本から北日本では一部で暴風（3 日～5 日）

3 日は、台風第 21 号からの湿った空気の流入により、西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となった。また、気圧の谷の影響で、北日本では雨となったところがあった。4 日は、台風第 21 号が四国沖を北東に進み、12 時前に徳島県南部に上陸し、14 時前に兵庫県神戸市付近に再上陸し、近畿地方を縦断した後、日本海を北東に進んだ。この影響で、全国的に雨で、西日本から東日本では一部で大雨となり、西日本から北日本では一部で暴風や強風となったほか、沖縄・奄美や近畿地方、東海地方では雷を伴ったところがあった。5 日は、台風第 21 号が日本海を北に進み、9 時に沿海州の沿岸で温帯低気圧に変わった。この影響で、東日本から北日本を中心に雨となり、北海道では一部で暴風、関東地方や東北地方では一部で強風となったほか、東海地方、関東地方や北日本では雷を伴ったところがあった。

前線や湿った空気の影響で全国的に雨、西日本から東日本では一部で大雨（6 日～10 日）

6 日は、本州南岸に前線が停滞した影響で、西日本から東海地方の太平洋側では雨となった。また、気圧の谷の影響で、北日本では雨や雷雨となったところがあった。7 日から 8 日は、九州から東南海部に前線が停滞した影響で、全国的に雨で、四国地方や近畿地方では一部で大雨となり、西日本や東海地方では雷を伴ったところがあった。9 日から 10 日は、南西諸島から東南海部に停滞した前線や、前線上を北東に進んだ低気圧の影響で、全国的に雨で、西日本から東日本では一部で大雨となったほか、沖縄地方、九州、四国地方や関東地方では雷を伴ったところがあった。

前線の影響で、西日本から東日本を中心に雨、西日本や東海地方では一部で大雨、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れ（11 日～15 日）

11日は、東シナ海から三陸沖にのびる前線の影響で、九州南部や紀伊半島南部、伊豆諸島を中心に雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。12日から13日は、東シナ海から日本の南に停滞した前線の影響で、西日本から東日本で雨となり、西日本や東海地方では一部で大雨となった。また、奄美地方では雷を伴ったところがあった。14日から15日は、西日本から東日本に停滞した前線の影響で、西日本から東日本を中心に雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

気圧の谷や湿った空気の影響で中国地方から北日本では雨、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れ（16日～19日）

16日から17日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、中国地方から北日本にかけて雨となったところがあり、関東地方では雷を伴ったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。18日から19日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、北海道と東日本では雨となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われ概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で、西日本から北日本では雨、九州では一部で大雨（20日～22日）

20日から21日は、西日本から東日本に停滞した前線や、前線上を東に進んだ低気圧の影響で、西日本から東北地方では雨で、九州では一部で大雨となり、雷を伴ったところがあった。22日は、本州南岸に停滞した前線の影響で、全国的に雨や曇りとなった。

前線や低気圧の影響で、西日本から北日本では雨、奄美地方や九州南部では一部で大雨（23日～27日）

23日は、全国的に高気圧に覆われ概ね晴れたが、気圧の谷や前線の影響で、沖縄地方や北海道では雨となったところがあった。24日は、前線が日本の南に停滞したため、沖縄・奄美では雨となり、奄美地方では一部で大雨となった。また、気圧の谷や低気圧の影響で、九州、中国地方や北海道では雨となり、北海道では雷を伴ったところがあった。25日から26日は、本州南岸に停滞した前線や、東北地方を通過した寒冷前線の影響で、西日本から東北地方では雨となった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美では雨となった。27日は、本州南岸に停滞した前線上を北東に進んだ低気圧の影響で、西日本の太平洋側や東日本から東北地方にかけて雨となり、九州南部では一部で大雨となった。

台風第24号の影響で全国的に雨、沖縄・奄美及び西日本から東日本の一部では大雨や暴風（28日～30日）

28日は、沖縄の南を北西に進んだ台風第24号や、日本の南に停滞した前線の影響で、沖縄・奄美及び九州、四国地方で雨となり、沖縄・奄美では雷を伴ったところがあった。また、気圧の谷の影響で、北日本で雨となったところがあった。29日から30日は、台風第24号が沖縄の南を北東に進み、九州の南海上から四国沖を通った後、30日20時頃に和歌山県田辺市付近に上陸し、近畿地方から東日本を北東に進んだ。また、西日本から北日本へのびる前線の影響で全国的に雨となり、沖縄・奄美及び西日本から東日本の一部では大雨や暴風となった。

10月

台風第24号の影響で、近畿地方から北日本で雨、一部で暴風、その後、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れ（1日～3日）

1日は、台風第24号が東日本から東北地方を北東に進み、同日9時に日本の東海上にて温帯低気圧に変わった。この影響で、近畿地方から北日本で雨となり、一部で暴風となった。2日は、気圧の谷や寒気の影響で、北陸地方から北日本の日本海側を中心に雨となり、北日本では一部で暴風となった。3日は、前線や湿った空気の影響で沖縄・奄美は雨となり、気圧の谷や寒気の影響で北海道で雨となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

台風第25号の影響で、沖縄・奄美、九州や四国地方では一部で大雨、沖縄・奄美、九州北部地方、北陸地方や東北地方では一部で暴風、その後、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れ（4日～9日）

4日から5日は、台風第25号が沖縄本島付近を北に進んだ。この影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本の太平洋側では雨で、沖縄・奄美、九州や四国地方では一部で大雨となり、沖縄・奄美では一部で暴風、九州では一部で強風となった。6日は、台風第25号が、日本海を北東に進み、同日21時に日本海中部にて温帯低気圧に変わった。この影響で、西日本から東日本の太平洋側や北日本で雨となり、九州北部地方では一部

で暴風、中国地方や北陸地方では一部で強風となった。7日は、台風第25号から変わった低気圧が北日本を東に進んだ影響で北日本で雨、湿った空気の影響で西日本から東日本の日本海側で雨となった。北陸地方や東北地方では一部で暴風、北海道では一部で強風となった。8日から9日は、気圧の谷の影響で北日本で雨となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線や気圧の谷の影響で全国的に雨、その後、気圧の谷や湿った空気の影響で東日本から北日本で雨、前線の影響で沖縄地方で雨（10日～14日）

10日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、西日本から北日本にかけて雨となったところがあった。11日は、本州南岸に前線が停滞したため、全国的に雨となり、関東地方では雷を伴ったところがあった。12日は、気圧の谷や湿った空気の影響で東日本から北日本で雨、日本の南の前線の影響で沖縄地方で雨となった。13日から14日は、気圧の谷や湿った空気の影響で東日本の太平洋側で雨となり、日本の南の前線の影響で沖縄地方で雨となった。その他の地域では高気圧に覆われ概ね晴れた。

前線や気圧の谷の影響で全国的に雨、沖縄地方では一部で大雨（15日～19日）

15日から16日は、日本の南に前線が停滞し、沖縄地方では一部で大雨となり、雷を伴ったところがあった。また、気圧の谷や前線の影響で、西日本から東日本の太平洋側や北海道で雨となったところがあった。17日は、日本の南に前線が停滞し、沖縄地方では雨となり、雷を伴ったところがあった。寒気や気圧の谷の影響で、西日本から東日本での日本海側を中心に雨となったところがあった。18日から19日は、寒気や気圧の谷の影響で、西日本から東日本の日本海側を中心に雨となり、中国地方や北陸地方では雷を伴ったところがあった。

気圧の谷の影響で東日本を中心に雨、その後、全国的に高気圧に覆われて晴れ（20日～22日）

20日は、気圧の谷の影響で東日本を中心に雨となり、関東地方では雷を伴ったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。21日から22日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れた。

気圧の谷の影響で、西日本から北日本で雨、その後、全国的に高気圧に覆われて晴れ（23日～25日）

23日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、西日本や東日本では雨となったところがあり、九州では雷を伴ったところがあった。24日は、気圧の谷の影響で、近畿地方から北日本にかけて雨となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。25日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れたが、気圧の谷の影響で北海道で雨となったところがあった。

低気圧や前線の影響で、全国的に雨、その後、気圧の谷や寒気の影響で、北陸地方や北日本の日本海側で雨（26日～31日）

26日から27日は、低気圧からのびる寒冷前線が本州上を通過した影響で、全国的に雨となり、東北地方や北海道では一部で強風、北海道では雷を伴ったところがあった。28日から29日は、前線を伴った低気圧が日本海を北東に進んだ影響で、北陸地方や北日本の日本海側を中心に雨となり、雷を伴ったところがあったほか、北海道では一部で強風となった。30日から31日は、気圧の谷や寒気の影響で、北陸地方や北日本の日本海側で雨となり、北海道では一部で強風、北陸地方では雷を伴ったところがあった。

11月

冬型の気圧配置の影響で、北陸地方から北日本の日本海側で雨、その後、全国的に高気圧に覆われ晴れ（1日～3日）

1日は、日本付近は冬型の気圧配置（以下、冬型）となり、北陸地方から北日本の日本海側で雨となった。2日から3日は、寒気や低気圧の影響で、沖縄・奄美、伊豆諸島や北陸地方で雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

低気圧の影響で、沖縄・奄美や北海道で雨、湿った空気の影響で、近畿地方から関東地方で雨、その後、全国的に高気圧に覆われ晴れ（4日～7日）

4日は、低気圧が沖縄本島付近を東に進んだ影響で、沖縄・奄美で雨となり、また湿った空気の影響で、近畿地方から関東地方で雨となった。5日から6日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、近畿地方から関東地方で雨となった。また、北海道付近の低気圧の影響で、北海道で雨となった。7日は、全国的に高気圧に覆われて概ね晴れたが、湿った空気の影響で伊豆諸島では雨となった。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、北日本では一部で大雨、その後、全国的に高気圧に覆われて晴れ（8日～11日）

8日は、前線を伴った低気圧が黄海を北東に進んだ影響で、九州北部地方で雨となり、雷を伴ったところがあった。9日は、低気圧からのびる前線が本州付近を通過した影響で、全国的に雨、北日本では一部で大雨となり、九州、近畿地方や東海地方では雷を伴ったところがあった。10日は、前線が通過した影響で、北陸地方や北日本で雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。11日は、寒気の影響で北日本の日本海側を中心に雨、湿った空気の影響で先島諸島で雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本の太平洋側で雨、寒気の影響で、西日本から北日本の日本海側で雨（12日～15日）

12日から13日は、前線を伴った低気圧が九州付近から本州南岸を東に進んだ。この影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本の太平洋側で雨となり、九州では雷を伴ったところがあった。また、寒気の影響で、西日本から北日本の日本海側で雨となった。14日から15日は、寒気の影響で西日本から北日本の日本海側で雨となったところがあったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美及び九州、四国地方の太平洋側で雨、前線や寒気の影響で西日本から北日本の日本海側で雨（16日～18日）

16日から17日は、前線を伴った低気圧が九州南部付近を東へ進んだ影響で、沖縄・奄美及び九州、四国地方の太平洋側で雨となった。また、サハリン付近の低気圧からのびる寒冷前線や寒気の影響で、西日本から北日本の日本海側で雨となった。18日は、低気圧が日本海を東に進んだ影響で、九州、山陰地方や北陸地方で雨となった。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、その後は高気圧に覆われて全国的に概ね晴れるが、再び低気圧の影響で九州や関東地方で雨、北日本では雪や雨（19日～21日）

19日は、日本の南を東に進んだ低気圧と、北日本を東に進んだ低気圧の影響で、全国的に雨となった。20日は、寒気の影響で西日本から北日本の日本海側で雨や雪となったところがあり、東北地方では雷を伴ったところがあった。その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。21日は、日本海、伊豆諸島付近、九州南部付近の3つの低気圧の影響で、九州や関東地方では雨、北日本では雪や雨となり、雷を伴ったところがあった。

前線や低気圧の影響で全国的に雨、関東地方では一部で大雨、その後冬型の気圧配置となり、西日本から北日本の日本海側で雪や雨（22日～24日）

22日は、前線や低気圧、寒気の影響で全国的に雨となり、関東地方では一部で大雨となった。23日は、北日本中心の冬型となり、西日本から北日本の日本海側で雪や雨、北海道では一部で強風となった。24日は、寒気の影響で北日本の太平洋側では雪や雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われて概ね晴れた。

前線や寒気の影響で、北陸地方から北日本の日本海側で雨、気圧の谷の影響で、九州や関東地方で雨（25日～27日）

25日は、前線を伴った低気圧が日本海から北海道付近を通過した影響で、北陸地方から北日本の日本海側で雨となった。26日は、日本付近は高気圧に覆われたが、寒気の影響で北陸地方や北日本の日本海側で雨となり、東シナ海の低気圧の影響で九州で雨となったところがあった。27日は、サハリン付近の低気圧からのびる寒冷前線が北日本を通過した影響で、北日本の日本海側で雨となった。また、気圧の谷の影響で、九州、四国地方や関東地方で雨となった。

前線や低気圧の影響で、西日本から東日本の太平洋側で雨、冬型の気圧配置となり、西日本から北日本の日本海側で雪や雨（28日～30日）

28日は、前線を伴った低気圧が日本の南を北東に進んだ影響で、西日本から東日本の太平洋側で雨となった。また、寒気の影響で北陸地方や北日本の日本海側で雪や雨となった。29日から30日は、北日本中心の冬型となり、西日本から北日本の日本海側で雪や雨となり、北海道では一部で強風となった。また、前線を伴った低気圧が関東の東海上を北東に進んだため、関東地方で雨となった。

12月

低気圧や寒気の影響で、北陸地方から北日本の日本海側で雨や雪、その後、前線を伴った低気圧の影響で全国的に雨、九州南部では一部で大雨（1日～4日）

1日は、低気圧や寒気の影響で、北陸地方や北日本の日本海側で雨や雪となった。2日は、高気圧に覆われ晴れたが、湿った空気の影響で、沖縄・奄美及び西日本で雨となった。3日から4日は、前線を伴った低気圧が日本海を北東に進んだ影響で、全国的に雨となり、九州南部では一部で大雨となったほか、沖縄地方及び西日本や東海地方では雷を伴ったところがあった。

冬型の気圧配置の影響で、西日本から北日本の日本海側で雨や雪、その後、低気圧や前線の影響で、全国的に雨（5日～6日）

5日は、本州南岸の寒冷前線が南下し、北日本中心の冬型の気圧配置（以下：冬型）となった影響で、西日本から北日本の日本海側で雨や雪となり、北海道では一部で強風となった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美や近畿地方から関東地方の太平洋側で雨となったところがあった。6日は、山陰沖を東に進んだ低気圧と、本州南岸に停滞した前線の影響で、全国的に雨となった。

冬型の気圧配置が続き、西日本から北日本の日本海側で雪や雨、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美で雨（7日～10日）

7日は、日本海の低気圧が千島近海へ進み、次第に冬型となった。この影響で、西日本から東日本の日本海側や北日本で雪や雨となり、北日本では一部で強風となった。8日から9日は、日本付近は冬型が続き、西日本から北日本の日本海側で雪や雨となった。また、寒気や気圧の谷の影響で、沖縄地方で雨となった。10日は、北日本中心の冬型となった影響で、西日本から北日本の日本海側で雪や雨となり、北海道では一部で強風となった。また、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美で雨となった。

低気圧や前線の影響で全国的に雨、その後冬型の気圧配置となり、西日本から北日本の日本海側で雪や雨、北陸地方では一部で暴風（11日～15日）

11日から12日は、日本海の低気圧と本州南岸の前線を伴った低気圧が、ともに日本の東へと進んだ影響で、全国的に雨や雪となった。13日から14日は、冬型の影響で、西日本から北日本の日本海側で雪や雨となり、北陸地方では一部で暴風となり、雷を伴ったところがあった。15日は、冬型の影響で西日本から北日本の日本海側で雪や雨となったが、冬型が緩み、次第に晴れとなった。

前線を伴った低気圧や気圧の谷の影響で全国的に雨、その後、冬型の気圧配置となり、西日本から北日本の日本海側で雪や雨（16日～19日）

16日から17日は、前線を伴った低気圧が本州南岸を東に進み、次第に冬型となった。この影響で、全国的に雨となり、北陸地方では雷を伴ったところがあった。18日から19日は、冬型となった影響で、西日本から北日本の日本海側で雪や雨となり、北陸地方では雷を伴ったところがあったほか、北海道では一部で強風となった。

冬型の気圧配置の影響で西日本から北日本の日本海側で雪や雨、その後、前線や低気圧、気圧の谷の影響で、西日本から北日本で雨や雪（20日～23日）

20日は、北日本中心の冬型となった影響で、北陸地方から北日本の日本海側で雪や雨となった。また、東シナ海の前線や低気圧が九州付近へ接近した影響で、西日本で雨となった。21日は、九州南部を通過した低気圧の影響で、西日本を中心に雨となった。22日は、低気圧が本州南岸を東に進んだため、四国地方から関東地方の太平洋側を中心に雨となった。また、気圧の谷の影響で、北陸地方や北日本の日本海側で雪や雨となった。23日は、北日本を通過した気圧の谷や関東の東で発生した低気圧の影響で、西日本から北日本で雨や雪となった。

冬型の気圧配置となり、西日本から北日本の日本海側で雪や雨、その後前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美及び西日本で雨、その後再び冬型の気圧配置となり、北陸から北日本の日本海側で雪や雨（24日～26日）

24日は、北日本中心の冬型となり、西日本から北日本の日本海側で雪や雨となり、北陸地方では一部で強風となった。25日は、西日本から東日本は高気圧に覆われて概ね晴れたが、気圧の谷の影響で、北陸から北

日本の日本海側で雪や雨となった。26日は、日本の南の前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美及び西日本は雨となった。また、北日本中心の冬型となったため、北陸地方から北日本の日本海側で雪や雨となり、北海道では一部で強風となった。

強い冬型の気圧配置が続き、西日本から北日本の日本海側で雪、北陸地方では一部で暴風（27日～31日）

27日は、冬型の影響で、西日本から北日本の日本海側で雪や雨となり、北陸地方では一部で暴風、伊豆諸島や北日本では一部で強風となった。28日から29日は、強い冬型の気圧配置が続き、西日本から北日本の日本海側で雪となったほか、九州南部や北海道では一部で強風となった。30日から31日は、冬型が続いた影響で、西日本から北日本の日本海側で雪や雨となり、北海道では一部で強風となった。